苗ヶ島大畑遺跡



苗ヶ島大畑遺跡全景(南より)



第8号土坑出土遺物



同展開写真

宮城村は上毛三山の一つ赤城山南麓中央に位置する自然豊かな所です。宮城村では赤城南面千本桜・赤城温泉郷・三夜沢赤城神社など古くからの観光地に加え、花をテーマとした「ぐんまフラワーパーク」も平成4年に開園しました。そして本年開園予定の赤城高原牧場クローネンベルクにより観光地として一層の賑わいを見せるものと期待されます。

苗ヶ島大畑遺跡はクローネンベルク建設に先立って調査が行われたもので、旧石器時代の文化層や縄文時代の陥し穴など数多くの遺構や遺物が発見されました。中でも注目されるのは第8号土坑より出土した完形の鵜が島台式土器で、縄文時代の人々の細やかな心遣いまでも感じさせてくれるようです。本報告書が地域の歴史解明の一助として少しでも寄与できれば幸いかと存じます。

最後になりましたが、調査を実施するにあたり終始ご指導、ご協力をいただきました多くの関係者の皆様に厚く感謝の意を表し、序にかえさせていただきます。

平成6年3月

宮城村教育委員会 教育長 平 林 始

例 言

- 1. 本書は、赤城高原牧場クローネンベルク建設に伴い発掘調査を実施した、群馬県勢多郡宮城村大 字苗ヶ島字大畑2331ほかに所在する苗ヶ島大畑遺跡の発掘調査報告書である。
- 2. 発掘調査及び整理調査は、赤城高原開発株式会社からの委託金により実施した。
- 3. 調査組織は次のとおりである。

事務局

教 育 長 平林 始

事務局長 大崎育吳

補 佐 六本木原一

社会教育主事 六本木 剛

主 任 細野高伯(発掘調査担当)

調査補助員 小川卓也(整理調査担当)

4. 本書の編集は小川が担当した。執筆については以下の通りである。

第3章 第1節「出土遺物」・第4章 第1節 小菅将夫氏(岩宿文化資料館)

第5章 株式会社古環境研究所

第6章 細野高伯

上記以外 小川卓也

- 5. 旧石器時代については小菅将夫氏より全面的な御教示を賜り、石器の実測・トレース、図版の作成、執筆を行っていただいた。
- 6. 旧石器時代の石器の実測は小管将夫氏・諸星良一氏・阿久澤智和氏によるものであり、トレースは全て小菅氏による。また縄文時代の石器の実測の一部は諸星良一氏による。
- 7. 自然科学分析は株式会社古環境研究所に依頼した。
- 8. 現場における遺跡の写真撮影は細野が行い、遺物写真については小川がこれを行った。また第 8 号土坑の遺物写真の撮影は小川忠博氏に依頼した。
- 9. 本報告にかかる出土品・調査記録図面及び写真等は宮城村教育委員会が保管している。
- 10. 本書の作成にあたっては次の諸氏・諸機関より貴重な御指導・御教示を賜った。ここに記して感 謝の意を表します。 (五十音順、敬称略)

阿久澤智和、小菅将夫、鈴木徳雄、関根慎二、谷藤保彦、富田孝彦、中村信博、萩谷千明、 松田光太郎、諸星良一、山口逸弘、山下歳信、綿田弘美、株式会社古環境研究所、

群馬県教育委員会文化財保護課、W群馬県埋蔵文化財調査事業団、

勢多郡社会教育部会文化財分会

凡例

- 1. 本書の挿図中の方位記号は座標北を示す。
- 2. 第1図は建設省国土地理院発行1/25,000「鼻毛石」に加筆して使用した。
- 3. 本書に掲載した遺構図・遺物図の縮尺は概ね下記の通りだが、詳細については各図版中のスケールを参照されたい。

遺構全体図 1/400・遺構図 1/40・遺物実測図 1/1~1/3・遺物展開図 1/6

- 4. 縄文時代以降の事実記載中の遺物出土量は、接合関係のあるものは 1 点とカウントし、同一個体でも接合関係のないものはそれぞれ 1 点とカウントした。
- 5. 事実記載・一覧表中の数値で、() 付きのものは推定値を表す。
- 6. 第1文化層出土遺物の遺物番号は、発掘調査時の遺物取り上げ番号を用いている。
- 7. 図版中の表示は次のことを意味し、この他の表示については図中にその意味を記した。

【土器実測図】 ● 繊維混入 【石器実測図】 ※※ 磨滅・磨面

目 次

序	
例言	
凡例	
第1章 調査の概要	
第1節 調査に至る経緯	······································
第2節 調査の方法	
第1項 発掘調査	
第2項 自然科学分析	2
第2章 遺跡の立地と環境	
第1節 遺跡の位置	2
	3
第3節 基本	5
第3章 検出された遺構と遺物	
第1節 旧石器時代の遺構と遺物	
第2節 縄文時代の遺構と遺物	22
第1項 住居址	22
第2項 土 坑	24
第3項 不明遺構	
第4項 遺構外出土遺物	
第4章 ま と め	
第1節 旧石器時代	
第2節 縄文時代	77
第5章 自然科学分析	
I . 苗ヶ島大畑遺跡のテフラ	86
II. 苗ヶ島大畑遺跡の植物珪酸体分析	93
Ⅲ.苗ヶ島大畑遺跡 SK-151出土炭化材の樹	榧105
第6章 補 論	106
挿丨	図目次
第1図 苗ヶ島大畑遺跡と周辺の遺跡	4 第 6 図 遺構全体図III
第2図 基本土層	5 第7図 遺構全体図IV
第3図 苗ヶ島大川遺跡調査区全体図	6 第8図 遺構全体図V
第4図 遺構全体図 1	7 第 9 図 週構全体図VI 12
第 5 図 遺構全体図 II ······	8 第10図 遺構全体図VII

第11図	旧石器時代調査区全体図	14	第35図	土坑出土土器② 57
第12図	第1文化層全体図	15	第36図	土坑出土土器③ 59
第13図	第1文化層出土石器①	16	第37図	土坑出土土器④ 61
第14図	第1文化層出土石器②	17	第38図	土坑出土土器⑤ 63
第15図	第1文化層出土石器③・95号土坑出土		第39図	土坑出土土器⑥ 65
	石器	18	第40図	土坑出土土器⑦ 67
第16図	第1文化層出土石器④	19	第41図	土坑出土土器® 68
第17図	第1号住居址	22	第42図	土坑出土土器⑨ 69
第18図	第1号住居址出土遗物	23	第43図	土坑出土石器 70
第19図	第2・4・5・8・9・43・44号上坑	25	第44図	第 1 • 2 • 3 号不明遺構 71
第20図	第17・24・55・25・66号土坑	27	第45図	第2号不明遺構出土遺物 72
第21図	第65•67•73•74•78•82号土坑	29	第46図	遺構外出土遺物① 74
第22図	第84・85・88・90・91・94・101号土坑	31	第47図	遺構外出土遺物② 75
第23図	第92•93•95•97号土坑	33	第48図	本遺跡出土第11群第1・2 類土器 79
第24図	第100・102・104・106・108・109号土坑	35	第49図	関連資料 82
第25図	第113・115・117・126・127・129・130・133・		第50図	苗ヶ島大畑遺跡のローム層の標式的な
	134号土坑	37		土熖柱状図 91
第26図	第135•137•140•142•143•146号土坑	39	第51図	苗ヶ島大畑遺跡の黒ボク土の枳式的な
第27図	第144・148・149・151・152・155号土坑	41		上層柱状図 91
第28図	第157 • 158 • 160 • 161 • 162 • 163 •		第52図	苗ヶ島大畑遺跡 SK151覆土の
	164号土坑	43		土層柱状図 92
第29図	第166・167・169号土坑	44	第53図	苗ヶ島大畑遺跡 SK170覆土の
第30図	第170・171・173・176・177・179・			土層柱状図 92
	182号土坑	46	第54図	苗ヶ島大畑遺跡 SK151地点における
第31図	第186・188・191・192号土坑	48		植物珪酸体分析結果 97
第32図	第189•190号土坑	49	第55図	苗ヶ島大畑遺跡標準土層断面における
第33図	第193・197号土坑	50		植物珪酸体分析結果 97
第34図	土坑出土土器①	55		
	挿	表	目次	
第1表	旧石器時代遺物観察表	21	第7表	苗ヶ島大畑遺跡 SK151における
	土坑一覧表(1)			屈折率測定結果 90
第3表	土坑一覧表(2)	52	第8表	苗ヶ島大畑遺跡の植物珪酸体分析
第4表	土坑一覧表(3)	53		結果 96
第5表	土坑一覧表(4)	54	第9表	主な分類群の植物体脈の推定値 96
第6表	苗ヶ島大畑遺跡 SK151覆土のテフラ			
	検出分析結果	90		

写真図版目次

巻頭 1 一苗ヶ島大畑遺跡全景
卷頭 2 一第 8 号土坑出土遺物
同展開写真

- P L 1-1。第1文化層全景
 - 2. No.1 出土状況
 - 3. Na 2 出土状況
 - 4. No. 3 出土状況
 - 5. No.4 出土状況
 - 6. № 5 出土状況
 - 7. No.6 出土状況
 - 8. № 7 出土状況
- PL2-1. 第1号住居址完掘状況
 - 2. 第1号住居址炉跡完掘状況
 - 3. 第1号上坑完掘状况
 - 4. 第2号土坑完掘状况
 - 5. 第3号土坑完掘状况
 - 6. 第 4 号土坑完掘状况
- PL3-1. 第5号土坑土層観察状況
 - 2. 第5号土坑根石出土状况
 - 3. 第5号土坑完掘状况
 - 4. 第7号土坑完掘状况
 - 5. 第8号土坑遗物出土状况
 - 6. 第8号土坑完掘状況
 - 7. 第9号土坑完掘状況
 - 8、第10号土坑完掘状況
- PL4-1. 第11号土坑完掘状况
 - 2. 第12号土坑完掘状况
 - 3. 第13号土坑完掘状况
 - 4. 第14号土坑完掘状况
 - 5. 第15号土坑完掘状况
 - 6. 第16号土坑完掘状况
 - 7, 第17号土坑根石出土状况
 - 8. 第17号土坑完掘状况
- PL5-1. 第18号土坑完掘状况
 - 2. 第19号土坑完掘状况
 - 3. 第20号土坑完掘状况

- 4、第21号土坑完掘状况
- 5. 第22号土坑完掘状况
- 6. 第23号土坑完掘状况
- 7. 第24・55号土坑土層観察状況
- 8. 第24·55号土坑完掘状況
- PL6-1. 第25号土坑完掘状況
 - 2, 第26号土坑完掘状况
 - 3. 第27号土坑完掘状况
 - 4. 第28号土坑完掘状况
 - 5. 第30号土坑完掘状况
 - 6、第31号土坑完掘状況
 - 7. 第32号土坑完掘状况
 - 8. 第33号土坑完掘状况
- PL7-1. 第34号土坑完掘状況
 - 2. 第35号土坑完掘状况
 - 3. 第36号土坑完掘状况
 - 4. 第37号土坑完掘状况
 - 5. 第38号土坑完掘状况
 - 6. 第39号土坑完掘状况
 - 7. 第40号土坑完掘状况
 - 8. 第41号土坑完掘状况
- P L 8 1. 第42号土坑完掘状況
 - 2. 第43号土坑完掘状况
 - 3. 第44号土坑完掘状况
 - 4. 第45号土坑完掘状况
 - 5. 第46号土坑完掘状况
 - 6. 第47号土坑完掘状况
 - 7. 第48号土坑完掘状况
 - 8. 第49号土坑完掘状况
- P L 9 1. 第50号土坑完掘状況
 - 2. 第51号土坑完捌状况
 - 3. 第53号土坑完掘状况
 - 4. 第54号土坑完掘状况
 - 5. 第56号土坑完掘状况
 - 6. 第61号土坑完掘状况
 - 7. 第62号土坑完掘状况

- 8. 第63号土坑完掘状况
- P L 10-1. 第64号土坑完掘状况
 - 2. 第65号土坑土州観察状況
 - 3. 第65号土坑完掘状况
 - 4. 第66号土坑完掘状况
 - 5. 第67号土坑完掘状况
 - 6 第68号土坑完掘状况
 - 7. 第70·72号土坑完掘状况
 - 8. 第71号土坑完掘状况
- P L 11-1、第73号土坑根石検出状况
 - 2. 第73号土坑根石出土状況
 - 3. 第74号土坑完掘状况
 - 4. 第75号土坑完掘状况
 - 5. 第76号土坑完掘状况
 - 6. 第77号土坑完掘状况
 - 7. 第78号土坑完掘状况
 - 8、第82号土坑完掘状况
- P L 12-1、第84号土坑完掘状况
 - 2. 第91号上坑上層観察状況
 - 3. 第91号土坑完掘状况
 - 4. 第92・93号土坑土層観察状況
 - 5. 第92·93号土坑完掘状况
 - 6. 第94号土坑完掘状况
 - 7. 第95号土坑完掘状况
 - 8. 第96号土坑完掘状況
- P L13-1, 第97号上坑土層観察状況
 - 2. 第97号土坑完掘状况
 - 3. 第100号土坑完掘状况
 - 4. 第102号土坑土層観察状況
 - 5. 第102号土坑遺物出土状況
 - 6. 第102号土坑完掘状况
 - 7. 第104号土坑完掘状况
 - 8. 第106号土坑土層観察状況
- P L14-1. 第106号土坑完掘状况
 - 2. 第108号土坑土州観察状况
 - 3. 第108号土坑遺物出土状况
 - 4. 第109号土坑完掘状况
 - 5. 第115号土坑完掘状况
 - 6. 第117号土坑完掘状况

- 7. 第118号土坑完掘状况
- 8. 第120号土坑完掘状况
- P L 15-- 1 第125号土坑完掘状況
 - 2. 第126号土坑完掘状况
 - 3. 第129号土坑完掘状况
 - 4. 第130号土坑土層観察状況
 - 5. 第130号土坑完掘状况
 - 6. 第131号土坑完掘状况
 - 7. 第132号土坑完掘状况
 - 8. 第133号土坑完掘状况
- P L 16-1 1 第134号土坑完掘状況
 - 2. 第135号土坑完掘状况
 - 3、第136号土坑完掘状况
 - 4. 第137号土坑完掘状况
 - 5. 第138号土坑完掘状况
 - 6. 第139号土坑完掘状况
 - 7. 第141号土坑完掘状况
 - 8. 第142号土坑完掘状况
- P L 17-1 1 第144号土坑完掘状況
 - 2. 第146号土坑土層観察状況
 - 3. 第146号土坑完捆状况
 - 4. 第148号土坑完掘状况
 - 5. 第152号土坑完掘状況
 - 6. 第153号土坑完掘状况
 - 7. 第154号土坑完掘状况
 - 8. 第155号土坑土層観察状況
- P L 18-1。第155号土坑完掘状况
 - 2. 第160号土坑完掘状况
 - 2. 93100 J 1900 LM DOU
 - 3. 第161号土坑完掘状况
 - 4. 第162号土坑完掘状况
 - 5. 第163号土坑完掘状况
 - 6. 第164号土坑完掘状况
 - 7. 第165号土坑完掘状况
 - 8. 第166号土坑完掘状況
- P L 19-1 1 第167号土坑土層観察状況
 - 2. 第167号土坑完掘状况
 - 3. 第169号土坑完掘状况
 - 4. 第171号土坑土層観察状況
 - 5. 第171号土坑完掘状况

- 6. 第172号土坑完掘状况
- 7. 第176号土坑遗物出土状况
- 8. 第177号土坑土層観察状況
- P L20-1, 第177号土坑遗物出土状况
 - 2. 第180号土坑完掘状况
 - 3, 第182号土坑完掘状况
 - 4. 第186号土坑土層観察状況
 - 5. 第186号土坑遗物出土状况
 - 6. 第188号土坑土層観察状況
 - 7. 第188号土坑遗物出土状况
 - 8. 第188号上坑完掘状况
- P L21-1、第189号土坑土層観察状況
 - 2. 第189号土坑完掘状况
 - 3. 第190号土坑土層観察状況
 - 4. 第190号土坑完掘状况
 - 5. 第193号土坑完掘状况
 - 6. 第197号土坑完掘状况

- 7. 第2号不明遺構完掘状況
- 8. 第3号不明遺構土層観察状況
- P L22-旧石器時代遺物①
- P L23一旧石器時代遺物②
 - 一第1号住居址出土遺物
- P L24一土坑出土遺物①
- P L25-土坑出土遺物②
- P L 26一土坑出土遺物(3)
- P L 27一土坑出土遺物④
- P L 28-土坑出土遺物⑤
- P L29一土坑出土遺物⑥
- P L 30一土坑出土遺物⑦
- P L31-土坑出土遺物®
- P L32-土坑出土遺物⑨
- P L33一第 2 号不明遺構出土遺物
- P L34一遺構外出土遺物①
- P L35-遺構外出土遺物②

第1章 調査の概要

第1節 調査に至る経緯

昭和61年、前橋刑務所赤城農場として使用されてきた27銘の広大な土地が、法務省から地権者へと返還され、開発については宮城村が責任を持って行う旨の条件が付された。宮城村では土地所有者からの開発委任を受け、優良企業の誘致を計画したが実現には至らなかった。そこで、赤城山南麓に位置し、風光明媚で豊かな自然環境を持つ宮城村の立地を生かした観光開発へと方針を転換し、昭和63年に「健康ふれあい村構想」を策定した。平成2年10月には、自然を生かして動物たちとふれあい、スポーツも楽しめる総合レジャー施設の建設を目指して、戸田建設や神明畜産・JA宮城村などとともに第3セクター「赤城高原開発株式会社」を設立した。それに伴い宮城村役場企画課より宮城村教育委員会に開発計画区域内での埋蔵文化財の有無の照会があった。村教育委員会では、開発計画区域は周知の遺跡地に隣接しており、地形的にも埋蔵文化財が存在する可能性が高い旨を回答した。同年開発計画区域内の現状を把握するために村教育委員会により試掘調査を行ったところ遺構や遺物が検出されたため、造成工事により破壊される部分については記録保存を図る必要があると回答した。

その後第3セクター「赤城高原開発株式会社」に西条金属株式会社が加わり、ヨーロッパの農村をモデルとしたテーマパークの建設が計画され、造成工事計画図が作成された。村教育委員会では計画図をもとに「赤城高原開発株式会社」との協議を重ね、造成工事により破壊される部分について記録保存の措置をとるとの方針が固まり、平成5年3月下旬に発掘調査委託契約を交わした。そして平成5年4月1日から同年10月15日の約6ヶ月半の期間を費やして発掘調査を行った。

第2節 調査の方法

第1項 発掘調査

調査にあたっては、国家座標IX系に準拠した $5 \text{ m} \times 5 \text{ m}$ のグリッドを設定した。グリッド名は、南北方向では $Aa \cdot Ab \sim At \cdot Ba \cdot Bb \sim Bt \cdot Ca \cdots$ のように大文字アルファベット+小文字アルファベットを組み合わせて設定し、東西方向では $1 \cdot 2 \cdot 3 \cdots$ のように算用数字を用いて設定した。そして北西コーナーの杭をもって呼称した。従ってグリッド名は(大文字アルファベット+小文字アルファベット) -(Y 軸状の算用数字)、 $Bf \cdot 48$ のように表現した。

調査は、まず重機を使用して表土除去を行い、その後ジョレンがけにより遺構検出・プランの確認 につとめ、土層観察用のベルトを設定して各遺構の調査を行った。

旧石器時代の調査はE区北西部・F区中央部を対象としてテストピットをあけ、遺物が検出された 箇所は随時拡張する方法をとった。

遺跡の記録図面は、遺構の実測図はS=1:20を基本として、必要に応じてS=1:10の詳細図を作成した。また、調査区の全体図はS=1:200で作成した。

遺構の記録写真は35mmのモノクロ・カラースライドの2種類のフィルムを用いて逐次撮影を行った。 また遺跡全体の航空写真の撮影も行った。

なお各調査区は発掘調査時には名前を付さず、整理調査時に便宜上北からA・B…と調査区名を付 した(第3図参照)。

第2項 自然科学分析

遺跡の性格やその内容をより具体化させることを目的として、自然科学的手法を用いた分析を下記 の項目について行った。分析結果報告は第5章に掲載した。

1. 土層とテフラ

本遺跡の所在する宮城村は赤城火山南麓に位置し、赤城火山や浅間火山、さらに榛名火山などから噴出したテフラが地層中に堆積していることが知られている。本遺跡の地層中にも数多くのテフラが挟まれており、これらのテフラのうち、噴出年代の判明している示標テフラとの同定を行った。また本遺跡で数多く検出された陥し穴とみられる土坑の覆土からもテフラ層の堆積が認められており、このテフラの検出同定も併せて行い、土坑の構築年代に関する資料を得ることを試みた。なお、黒ボク土の土壌サンプルはE区・F区間の調査区外で、またいわゆるローム層の土壌サンプルはB区北東部にある第73号土坑付近でそれぞれ採取した。

2. 植物珪酸体分析

植物珪酸体とは、植物の細胞内に珪酸が蓄積されたものであり、植物が枯れたあともプラント・オパールとして土壌中に残るため、その形態や組成・量を分析することによって過去の植生環境を復元することができる。そこで標準土層断面の試料について植物珪酸体分析を行い、遺跡の古植生・古環境の推定を試みた。また本遺跡では数多くの陥し穴が検出されており、土層観察により逆茂木の跡とみられるものも確認された。そこで、土坑内の試料についても植物珪酸体分析を行い、逆茂木に由来する植物珪酸体の検出を試みた。

3. 出土炭化材の樹種同定

第151号土坑からは炭化材が出土しており、その解剖学的特徴を観察してその特徴や現生標本との対 比による同定を行った。

第2章 遺跡の立地と環境

第1節 遺跡の位置

群馬県勢多郡宮城村は上毛三山の一つに数えられる赤城山南麓のほぼ中央に位置し、西~南西を大 胡町と、東~南東で粕川村と、北で富士見村とそれぞれ接している。東西5.5km・南北18.0kmで総面積 は48.15kmである。標高は、赤城火山の外輪山の一つである荒山山頂(1,571.9m)を最高点として急 傾斜をもって南下する。三夜沢赤城神社の鎮座する標高550m付近を傾斜転換点として傾斜が緩やかに なり、宮城村役場付近で標高255.0m、南西部の最低点では標高180m程である。

宮城村の地形は、河川による没食がさかんに行われて急傾斜な山稜をなす山腹部と、火山噴出物や河川の堆積物によって形成され、放射谷が発達しその間に原形面が残された緩傾斜をなす山麓部とに分けられる。山麓部では、カルデラ内の小沼より流出して宮城村と粕川村の境界を南下する粕川や荒山下から流出する荒砥川によって運ばれた岩屑・砂礫が堆積して扇状地を形成している。また大穴川や吉見沢川など多くの中小河川によって形成された解析谷が発達している。苗ヶ島大畑遺跡は東を粕川により浸食された台地の東縁に立地し、調査地点の標高は485~443mである。

第2節 周辺の遺跡

本節では宮城村の歴史的環境を構成する代表的な遺跡について時代を追って概観したい(第1図)。 【旧石器時代】 旧石器時代の遺跡としては、故相沢忠洋氏により発見され、学史的にも著名な桝形遺跡(2)があげられる。As-YP下層ロームより細石刃・細石刃核・舟底形石器等が豊富に出土している。また市之関吉ヶ沢遺跡(4)でも、As-YP下層ロームより掻器や縦長剣片・局部磨製礫器等が出土している。柏倉芳見沢遺跡(8)では、As-YP・As-SP間のロームより細石刃・細石刃核等が出土している。そして市之関前田遺跡(3)では、As-SP前後のロームから細石刃・細石刃核・スクレイパー等が多量に出土している。

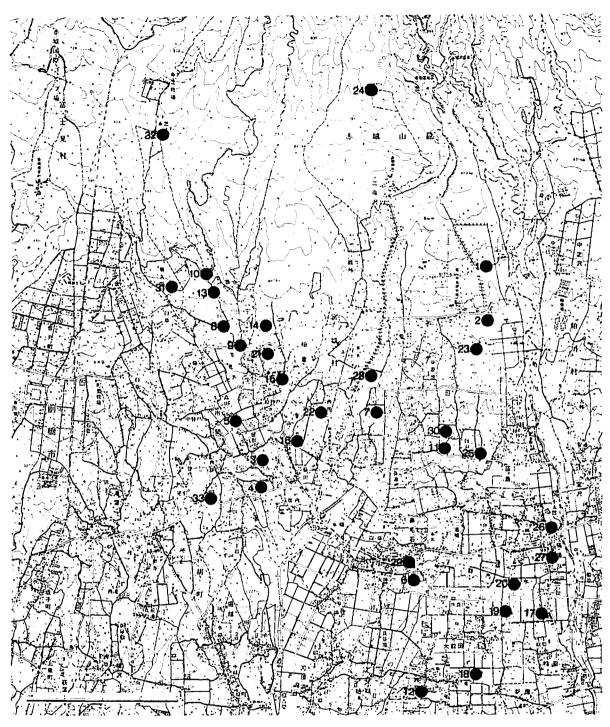
【縄文時代】 本村の遺跡の中心をなす時代であり、遺跡数も大幅に増加する。草創期では市之関前田遺跡(3)で爪形文土器や柳葉形の槍先形尖頭器が出土している。早期では柏倉落合遺跡(8)より鵜が島台式土器をはじめとする条痕文系土器が多量に出土している。その他市之関前田遺跡(3)や鼻毛石鎌田遺跡(6)・苗ヶ島白山遺跡(23)等で沈線文~条痕文期の土器が少量ながら出土している。前期前葉の二ツ木式期では柏倉芳見沢遺跡(8)等がある。後続する関山式期では、村指定史跡で学史上著名な市之関縄文前期遺跡(5)や、その南方に位置する市之関前田遺跡(3)等がある。黒浜・有尾式期では柏倉大沢遺跡(7)がある。中期では、中期中菜~後葉の鼻毛石鎌田遺跡(6)や市之関前田遺跡(3)があり、後者は加曽利E3~E4式期の拠点的集落と考えられる。その他大前田上十二遺跡(12)からも中期の土坑等が検出されている。後期になると遺跡数は減少するが、馬場矢次遺跡(17)より包含層遺物ながら堀之内~加曽利B式期の遺物が多量に出土している。また、市之関前田遺跡(3)・鼻毛石鎌田遺跡(6)からも後期の遺物が少量出土している。後期後半~晩期にかけての遺跡は発見されていない。

なお縄文時代の所産と見られる陥し穴は本村全域で検出されており、市之関前田遺跡(3)・市之関 吉ヶ沢遺跡(4)・鼻毛石鎌田遺跡(6)・柏倉大沢遺跡(7)・柏倉遺跡群(8)・柏倉下石倉遺跡(9)・ 柏倉相吉遺跡(10)・鼻毛石弥源司遺跡(11)・市之関十文字遺跡(31)等多くの遺跡で検出されている。 【弥生時代】 弥生時代の遺跡は本村では発見されておらず、柏倉芳見沢遺跡(8)で樽式土器片が検出 されたのみである。

【古墳時代】 古墳時代に入っても遺跡数はあまり増加しないが、中期の祭祀遺跡であり、群馬県指定 史跡である櫃石(24)では、手捏ね土器や滑石製模造品など豊富な祭祀遺物が出土している。また本村 では群馬大学により数基の終末期古墳の調査が行われており、白山古墳(25)・新山 I・II号墳(26)・ 古屋敷古墳(27)がある。これらのうち白山古墳では佐波理鋺や和同開珎等の貴重な遺物が多く出土し ている。

【奈良・平安時代】 集落跡としては市之関十文字遺跡(31)や市之関前田遺跡(3)等があり、9~10世紀を中心とした集落がみられる。その他一本木土師遺跡(29)でも住居址1軒が検出されている。生産址遺跡としては、県内の生産址遺跡調査の先駆けともなった村指定史跡の片並木遺跡(30)があり、製鉄炉や住居址等が検出されている。

【中近世】 この時代の遺跡としては市之関前田遺跡(3)があげられ、中世から近世の所産と見られる 堀跡・溝跡や近世の掘建柱建物跡等が検出されている。また村内数箇所で城跡・砦跡等が発見されて いる。

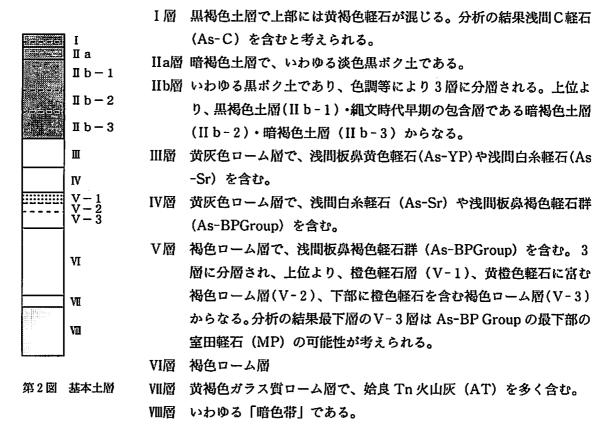


1. 苗ヶ島大畑遺跡 2. 桝形遺跡 3. 市之関前田遺跡 4. 市之関吉ヶ沢遺跡 5. 市之関縄文前期遺跡 6. 鼻毛石鎌田遺跡 7. 柏倉大沢遺跡 8. 柏倉遺跡群(柏倉芳見沢遺跡・柏倉落合遺跡・柏倉堀久保遺跡) 9. 柏倉下石倉遺跡 10. 柏倉相吉遺跡 11. 鼻毛石弥源司遺跡 12. 大前田上十二遺跡 13. Na2227遺跡 14. Na2228遺跡 15. Na2229遺跡 16. Na2230遺跡 17. 馬場矢次遺跡 18. Na2236遺跡 19. Na2237遺跡 20. Na2250遺跡 21. 柏倉新井橋遺跡 22. 柏倉西房遺跡 23. 苗ヶ島白山遺跡 24. 櫃石 25. 白山古墳 26. 新山 1号墳・新山 11号墳 27. 古屋敷古墳 28. Na2239遺跡 29. 一本木土師遺跡 30. 片並木遺跡 31. 市之関十文字遺跡 32. Na2238遺跡 33. Na2251遺跡

第1図 苗ヶ島大畑遺跡と周辺の遺跡

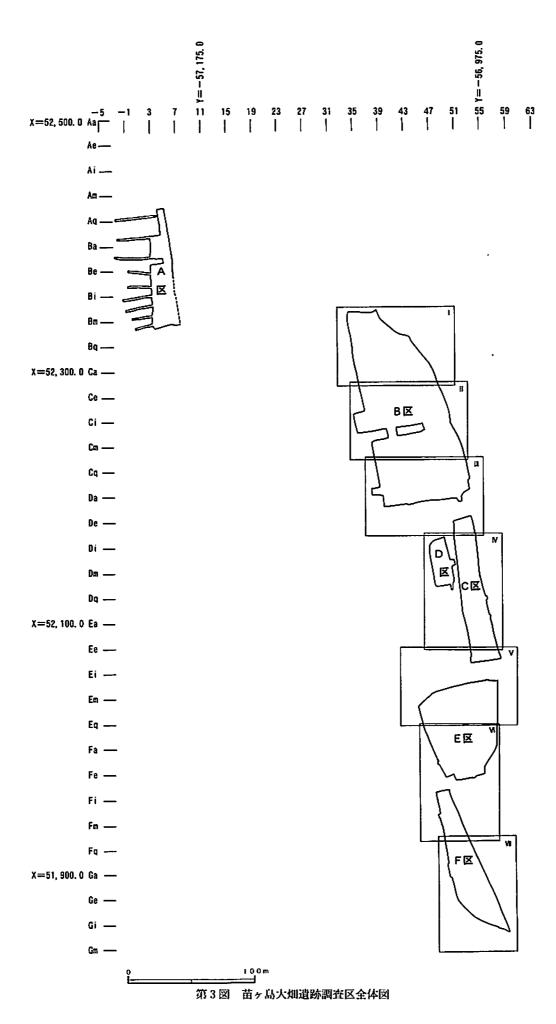
第3節 基本層序

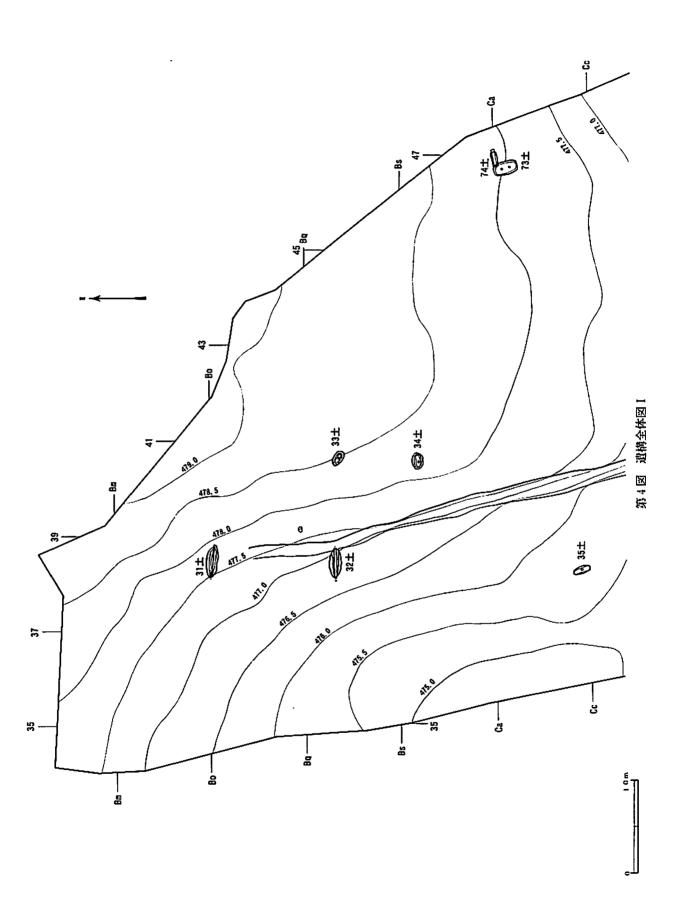
Fp-52グリッドの土層観察図をもとに㈱古環境研究所による自然科学分析結果報告を参考にして作成した本遺跡の基本層序を第2図に示す。詳しくは第5章を参照されたい。

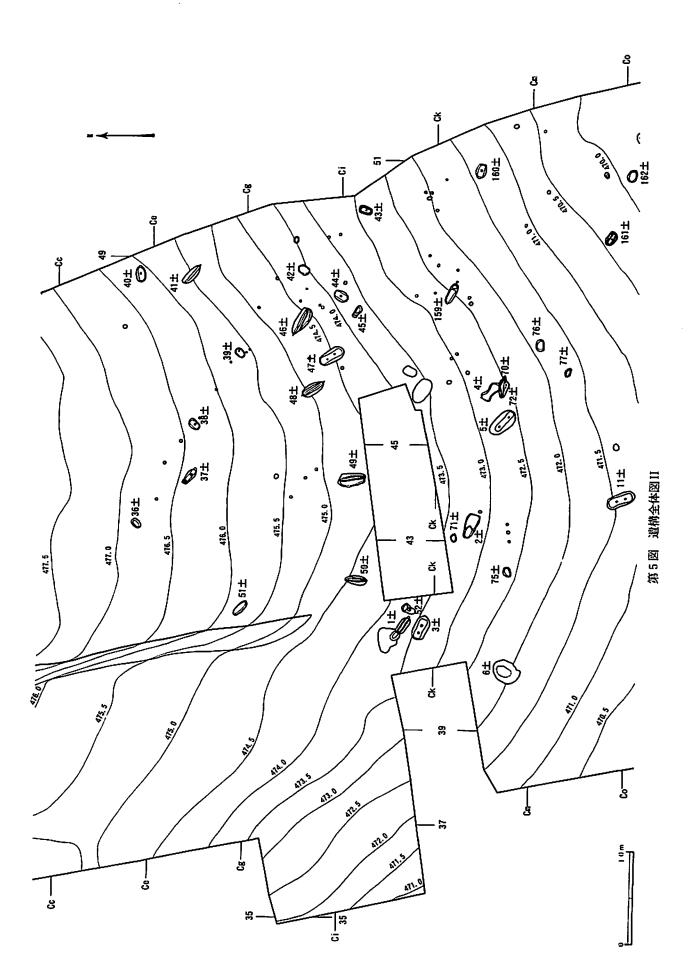


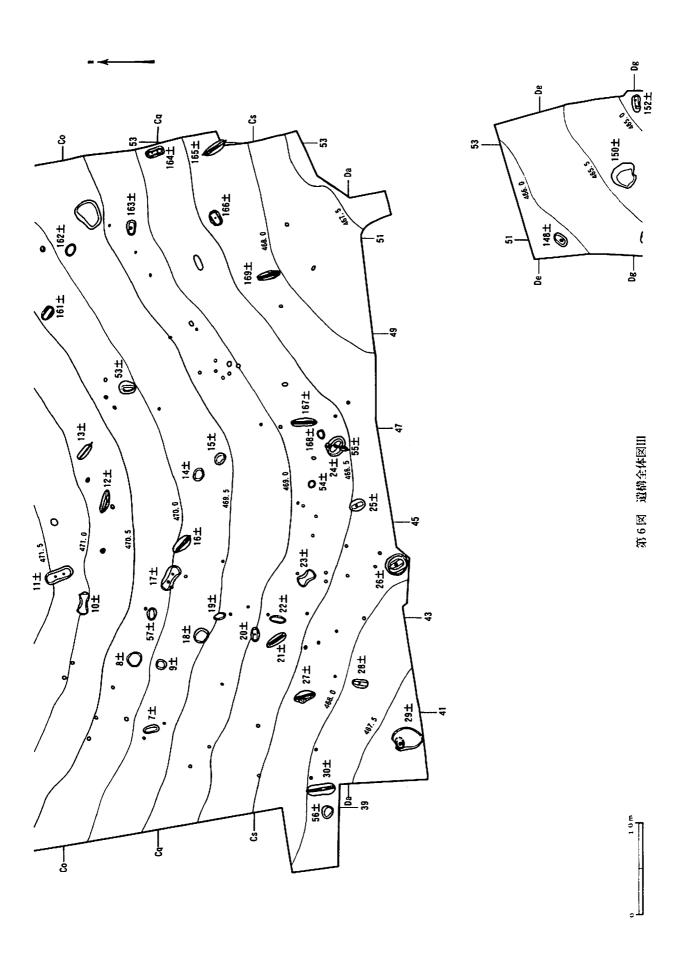
引用・参考文献

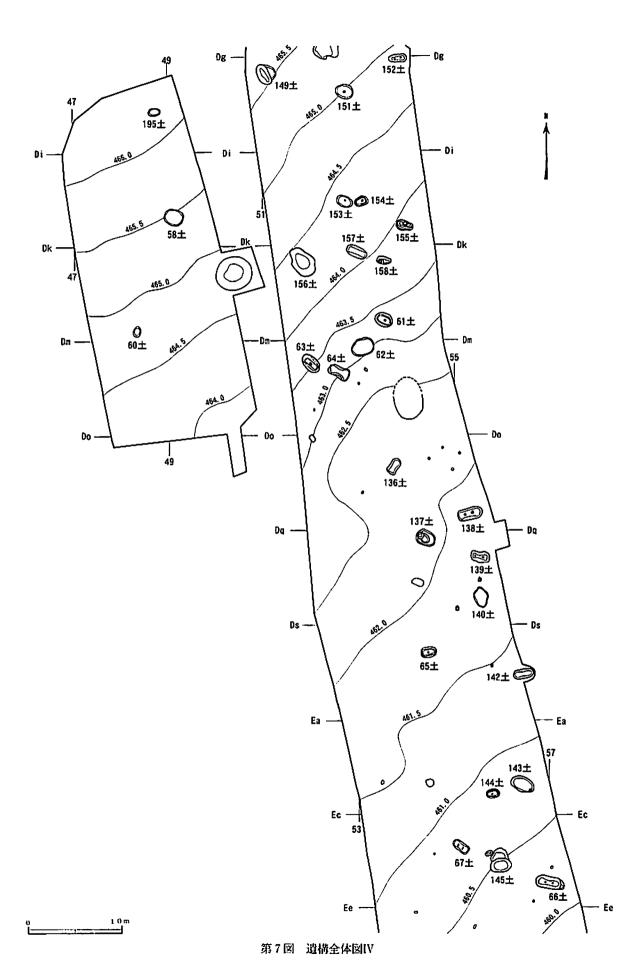
群馬県教育委員会 1973 「群馬県遺跡地図」 群馬県教育委員会 1991 「柏倉大沢遺跡」 群馬県史楓さん委員会 1986 「群馬県史 資料楓2 原始古代2」 群馬県史楓さん委員会 1988 「群馬県史 資料楓1 原始古代1」 群馬県埋蔵文化財調査事業団 1991 「年報10」 群馬県埋蔵文化財調査事業団 1992 「年報11」 群馬県埋蔵文化財調査事業団 1993 「年報12」 宮城村誌編集委員会 1966 「宮城村の古墳」 宮城村誌編集委員会 1969 「片並木遺跡一赤城山南面の製鉄遺跡一」 宮城村 1973 「宮城村誌」 宮城村教育委員会 1984 「市之関遺跡」 宮城村教育委員会 1991 「神光遺跡調査報告書」 宮城村教育委員会 1991 「市之関前田遺跡1」 宮城村教育委員会 1992 「市之関前田遺跡1」



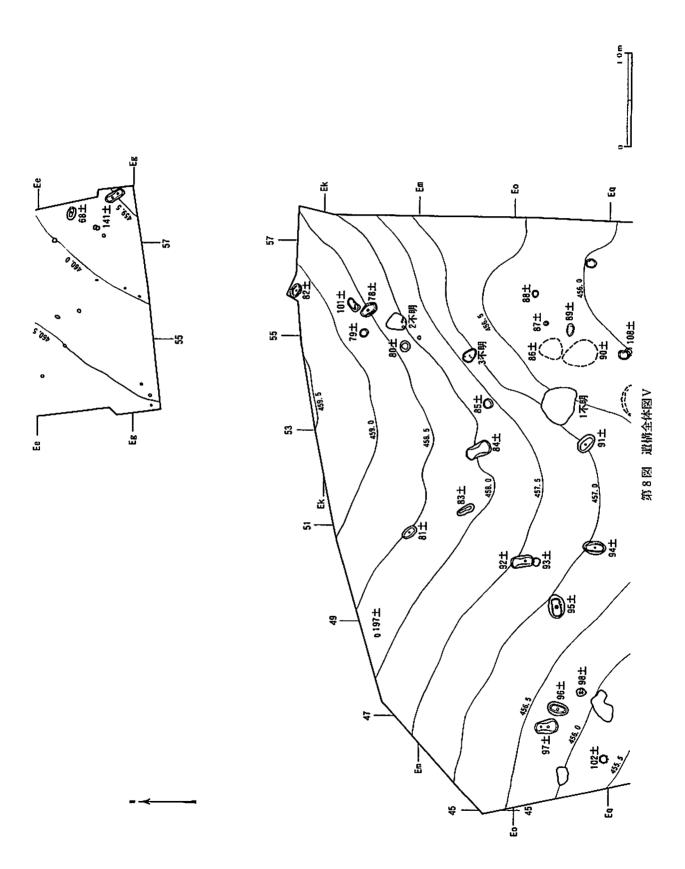


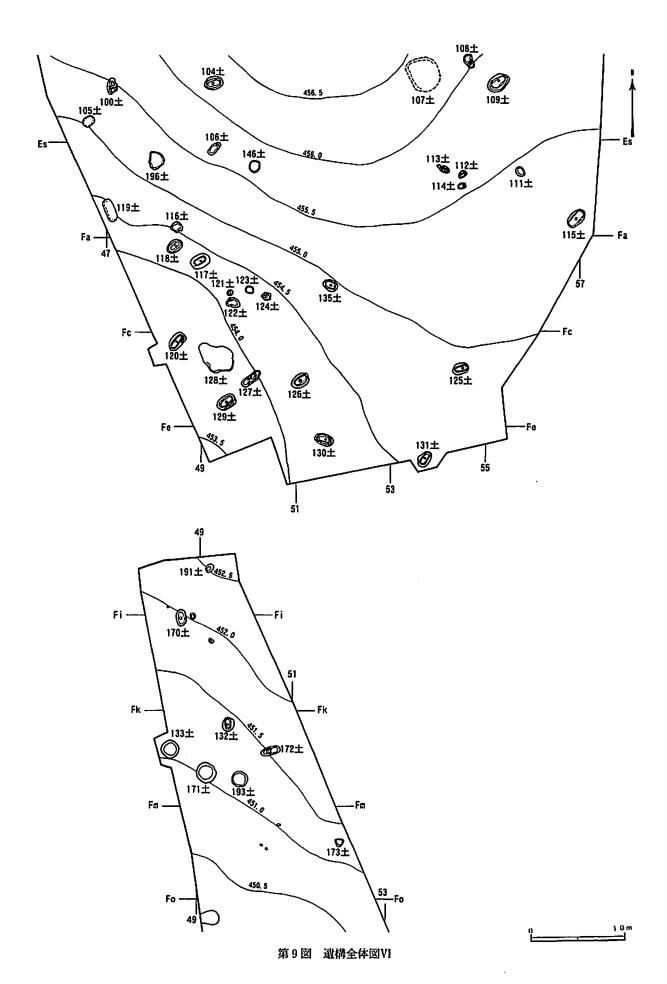


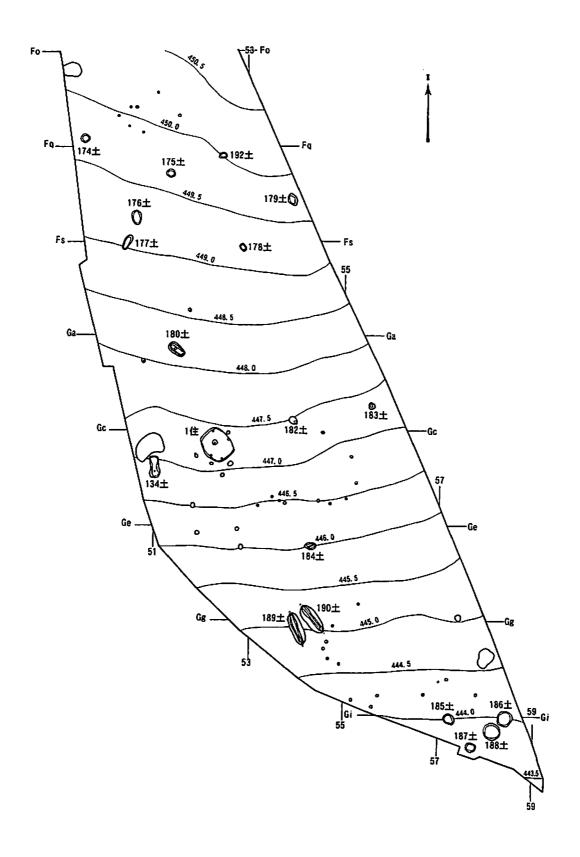




- 10 -

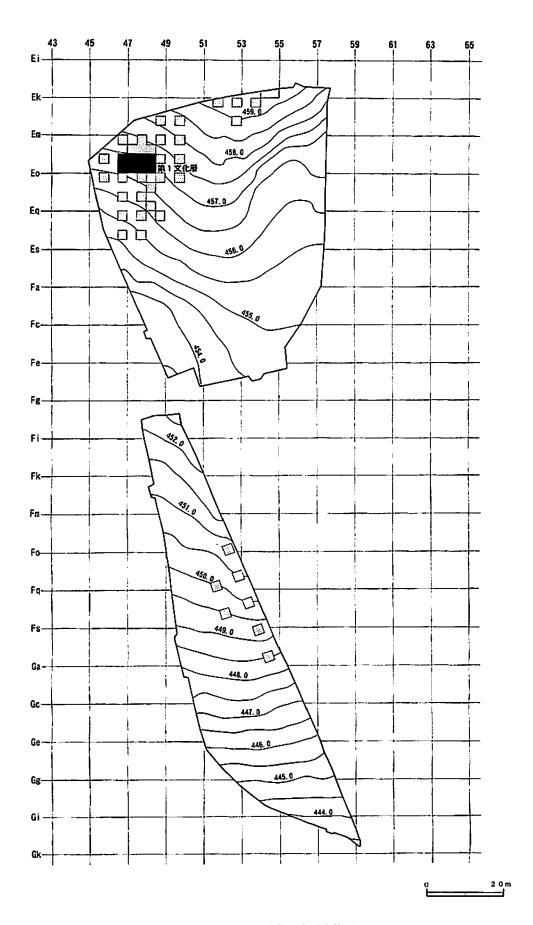








第10図 遺構全体図VII



第11図 旧石器時代調査区全体図

第3章 検出された遺構と遺物

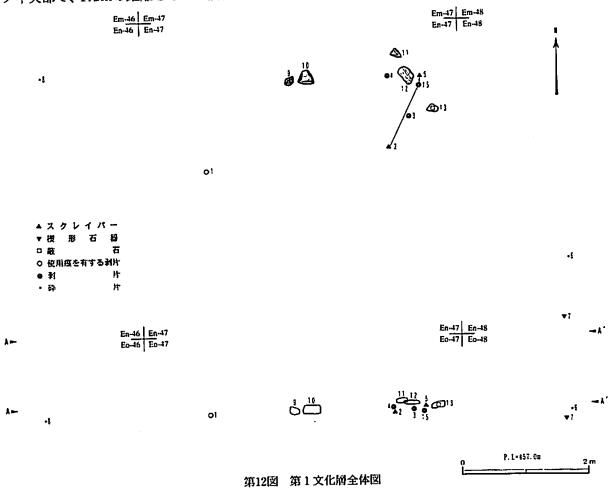
第1節 旧石器時代の遺構と遺物

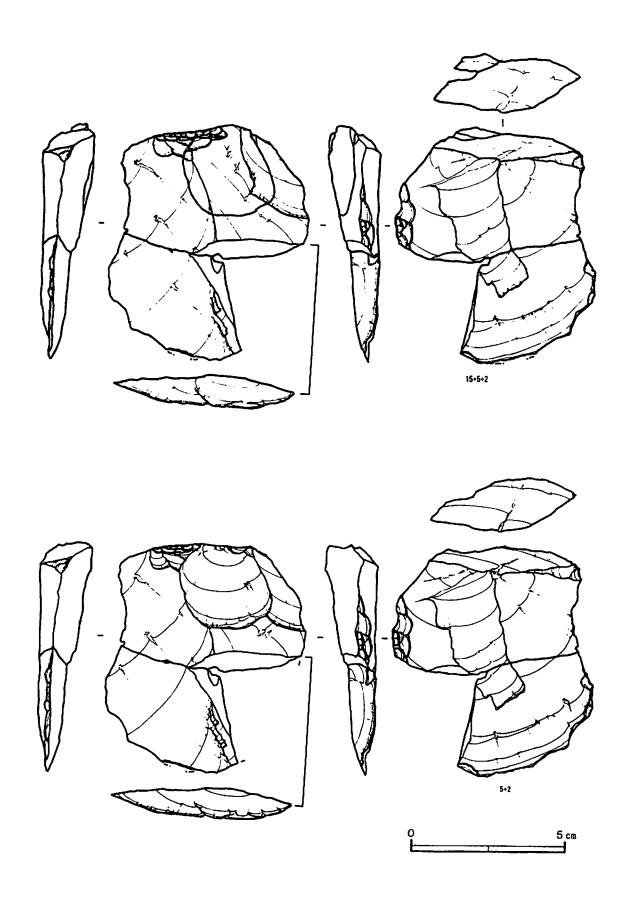
第1文化層(第11・12図)

位 置一E区北西部の En-46グリッドから En-48グリッドにかけて検出された。台地中央よりやや西側の、西へ緩やかに傾斜する緩斜面地であり、標高は456.5m~457.5m程である。分 布一本文化層の平面的な分布は東西方向に長軸を持つ長楕円形を呈し、東西9.5m・南北3.4mの範囲にまばらに分布しているが、En-47グリッド北東部の東西2.7m・南北1.7mの楕円形の範囲にはややまとまりを持って検出されており、本文化層の中心部と考えられる。またその垂直分布は最大厚32cmを測り、地形の傾斜に沿って分布をしている。層 位一調査所見より As-YP 層直下と考えられる。遺 物一スクレイパー1点(2点が接合)・楔形石器 1点・破石 1点・使用痕を有する剝片 1点・剝片 3点・砕片 2点・磔 4点の計14点である。また本文化層の分布域から南東へ7m程離れた第95号土坑の覆土から黒耀石製のナイフ形石器 1点が出土している。

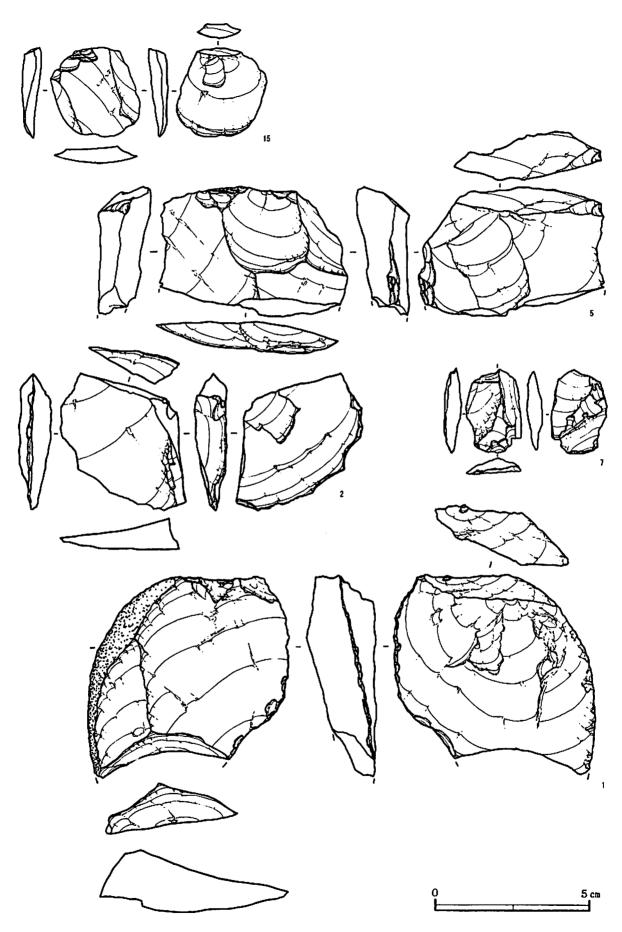
出土遺物(第13~16図)

接合資料—黒色安山岩の15+5+2の3点の接合が確認されている。剝離の順序を追って述べると、まず、円形を呈する小形剝片15が剝離されたのち、同じ打面から5+2の幅広で大形の縦長剝片が剝離され、その大型剝片がスクレイパーに加工されて欠損したものであろう。それらの石器は、ブロック中央部で、1.2mの距離をもって接合したが、一連の石器製作作業が、ほぼ1ヶ所でなされたと判断

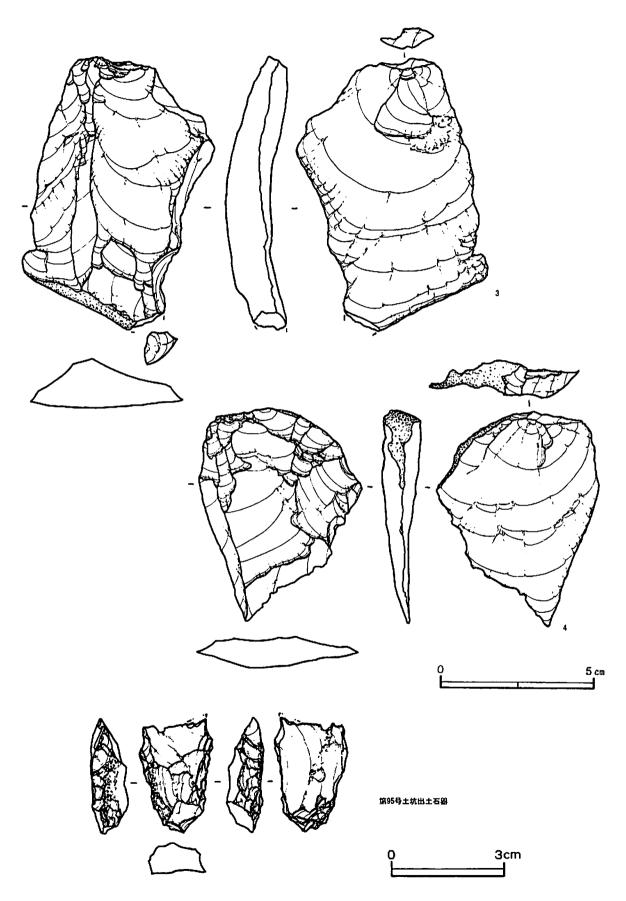




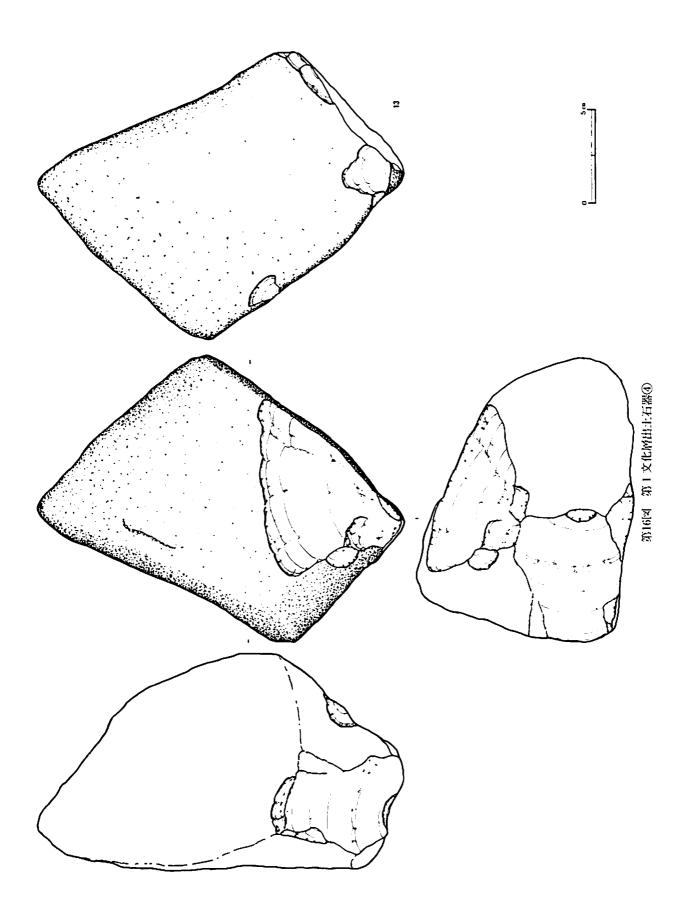
第13図 第1文化層出土石器①



第14図 第1文化層出土石器②



第15図 第1文化層出土石器③・95号上坑出土石器



される。いずれにしても、石核から2点の剝片が剝離されて、スクレイパーが製作されたのち、その 石核は他所へ持ち出されたものと想定できる。

出土石器-5+2は、黒色安山岩製のスクレイパーで、上記の接合資料の中心をなす資料である。 中央部から上下に半欠し、さらに下半部が左右に欠損しているが、右下半部は未検出であった。大形 の剝片を用いて、右側縁の裏面に表面側より連続的な剝離が加えられ、スクレイパー刃部が形成され て石器が作られたものと考えられる。しかし、右下半部が欠失し、刃部全体の状況をうかがい知るこ とはできない。さらに、左側縁の裏面上部にも、僅かに加工が施されている。また、左下半部には、 側縁の裏面側に使用によると考えられる連続した微細な剝離痕がみられ、尾部にも薄い縁辺に数ヶ所 の折断面が観察される。なお、左下半部2の欠損面には偶発剝離と考えられる剝離痕がある。7は、 黒色安山岩製の楔形石器で、石器の上下より両極剝離が加えられている。その際の剝離面は、器体の 表面の半分以上、裏面のほぼ全面を占め、剝離がかなり進行した状況にある。そのため素材の状況は 不明といわざるを得ない。 1 は黒色安山岩製の使用痕を有する剝片である。右側縁部の裏面に微細な 剝離が連続して観察され、表面側にも、ランダムな剝離痕がみられる。それらは使用による剝離痕と 考えられ、その縁辺全体が過度に切裁等に使用されたものであろう。3は、尾部の一部を欠損する大 形の縦長剝片で、表面に残された剝離痕跡から連続的に同様な剝片を剝離する工程によることが看取 される。4は、尾部が尖って全体が三角形状を呈する剝片で、表面の剁離痕から剁離作業面の周辺か ら求心的に剝離がなされたものであろう。13は、比較的風化の進みやすい粗粒安山岩を用いた敲石で ある。大形の亜角礫を用い、その角の部分を敲打点として使用したようであるが、その使用痕跡は顕 著ではなく一定の場所に残されてはいない。円礫等を用いた通常のものからすれば、大形で形状も不 安定であることから、遺跡の周囲で入手した礫を臨機的に使用したものと考えられよう。

第95号土坑から、黒耀石製の台形状のナイフ形石器が出土している。第1文化層の周辺ではあるが、その共伴関係は不明といわざるをえない。剝片を横位に用い水平な刃部を確保し、両側縁には裏面側より急角度のブランティングが施されている。また、基部には僅かではあるが、裏面加工が施されている。

第1表 旧石器時代遺物観察表

			i -					T
Na	器 種	石材	完形度	長さ(cm)	似 (cm)	厚き(cm)	lftht(g)	僔 竣
1	使用痕を有する剝片	黑色安山岩	下半部欠	7.8	6.3	2.2	86.7	
2	スクレイパー	黑色安山岩	左下半部	3.8	4.9	1.0	14.8	5 及び15と接合
3	剁 片	黑色安山岩	尾部欠	9.0	5.5	1.5	78.3	
4	剝 片	黑色安山岩	完形	7.1	5.4	1.3	39.8	
5	スクレイパー	黑色安山岩	上半部	4.4	6.2	1.7	40.3	2及び15と接合
6	砕 片	黑色實料		2.1	3.6	0.5	3.2	
7	楔 形 石 器	黑色安山岩	完形	2.8	1.8	0.5	2.1	
8	砕 片	チャート	_	1.5	1.0	0.2	0.3	
9	飜	租拉安山岩	剁落あり	18.5	11.6	9.5	1699.4	
10	79	粗粒安山岩	完形	26.4	23.5	13.5	9900.0	
11	瞬	粗粒安山岩	半欠	17.1	12.7	7.4	1478.0	
12	段	租拉安山岩	半欠	24.8	16.4	8.1	4500.0	
13	啟 石	粗粒安山岩	完形	19.5	15.3	11.3	2587.3	
14	(欠 番)		_	-	_	_	-	縄文土器片
15	剁 片	黑色安山岩	完形	3.0	3.0	0.6	5.0	2+5と接合
_	ナイフ形石器	無暴石	完形	3,0	2.0	0.9	4.7	第95号土坑出土

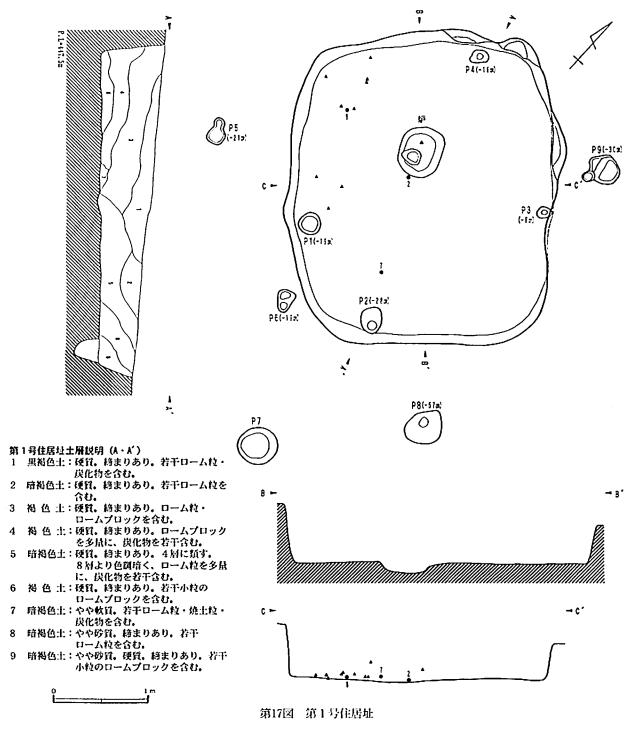
第2節 縄文時代の遺構と遺物

第1項 住居址

本遺跡で住居址と確認されたのは1軒のみで調査区の南端F区で検出された。

第1号住居址(第17図)

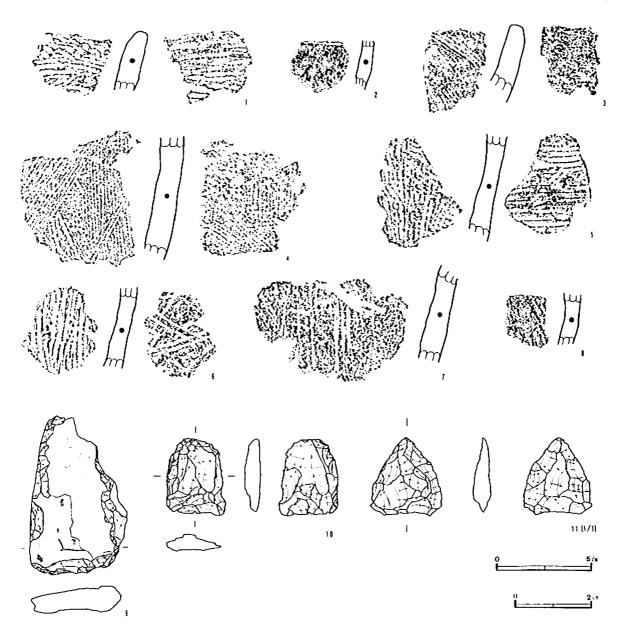
位 置一下区南側中央やや西寄り、Gc-52グリッドに位置し、標高447.3m程の台地中央に占地する。 重複関係一なし。規模・形状一長軸329cm・短軸283cmを測り、隅丸方形を呈する。深さは65~35cmを 測り、壁面は東壁の一部を除き外傾して立ち上がっている。覆 土一褐色土・暗褐色土を碁割とし、



自然堆積を示す。柱 穴ー住居址内で4基、周辺で5基のピットが検出されたが、柱穴配置は不明である。炉ー床面を掘りくぼめて設置した地床炉である。住居址中央やや北西寄りのところで検出された。長軸53cm・短軸45cmを測り、隅丸方形を呈する。床面からの深さは12cmを測り、断面形は皿状を呈する。遺 物一土器9点・石器15点(剝片・自然磔含む)が出土し、うち土器8点・石器3点(第18図11は住居址周辺で出土したものだが、本住居址の遺物として取り扱う)を図示し得た。土器は条痕文土器が主体である。

第1号住居址出土遺物(第18図)

1は内外面に条痕施文後口縁部直下に絡条体圧痕を斜位に施文する。口唇部は丸頭状を呈する。2は擦痕を施し横位の沈線を施文する。3は内外面に条痕を施した口縁部破片である。口唇部は丸頭状を呈する。胎土には繊維を含まず、砂粒を多く含む。4~7は条痕を施した胴部破片である。4~6は内外面に、7は外面のみに施すが、7の条痕はまばらなものである。8は外面のみに擦痕を施す。1・2・4~8は胎土に繊維を含み、5・8は多量に含む。9は緑色片岩製の局部磨製石斧で、尾部



第18図 第1号住居址出土遺物

を欠損する。長さ7.4cm・幅5.2cm・厚さ1.4cm・重量73.4g を測る。10は無斑晶ガラス質安山岩製の楔形石器である。長さ4.1cm・幅3.1cm・厚さ0.8cm・重量13.0g を測る。11は無斑晶安山岩製の石鏃である。長さ2.1cm・幅1.8cm・厚さ0.5cm・重量1.6g を測る。

第2項 土 坑

本遺跡では189基の土坑が検出された。これらはその規模・形状等からそれぞれ炉穴・陥し穴・貯蔵 穴等様々な機能を持つと考えられる。それぞれの分布や形態の特徴を見てゆくと、炉穴はE区中央部の標高456m付近に集中しているが、炉穴同士の重複はみられない。そのため諸遺跡でみられるようなアメーバ状の平面形をとらず、楕円形ないし不整形のものが多い。いわゆる「Tピット」状の陥し穴はB区中央部から南部にかけての調査区北側に集中する。平面形は長楕円形を呈し、等高線に直交した長軸を持つものが多い。等高線に沿って設置されるものとみられる。この分布域から離れた調査区 南端部のF区においても2基が隣接して検出された。またTピット以外の形状を持つ陥し穴はB区からF区までの調査区全体に分布するが、B区中央部からE区南端部にかけて濃密に分布する。形態は 楕円形・隅丸長方形・分銅形等様々なものがみられる。底面には0~4基のピットを持ち、0~2基のピットを持つものが多い。また第5・17・73号土坑等からは逆茂木を固定するためとみられる根石を持つ底面のピットが検出された。また陥し穴にも重複関係が少ないことが特徴としてあげられる。

本項ではこれらの土坑のうち、断面の形状が判明したもの・本報告に掲載した遺物を出土したものを中心に取り上げた。本項で取り上げなかった土坑については遺構全体図 (第 $4 \sim 10$ 図)・土坑一覧表 (第 $2 \sim 5$ 表)を参照されたい。なお第59・69・99・ $103 \cdot 110 \cdot 147 \cdot 181 \cdot 194$ 号土坑は欠番である。

1. 遺 構

第2号土坑 (第19図)

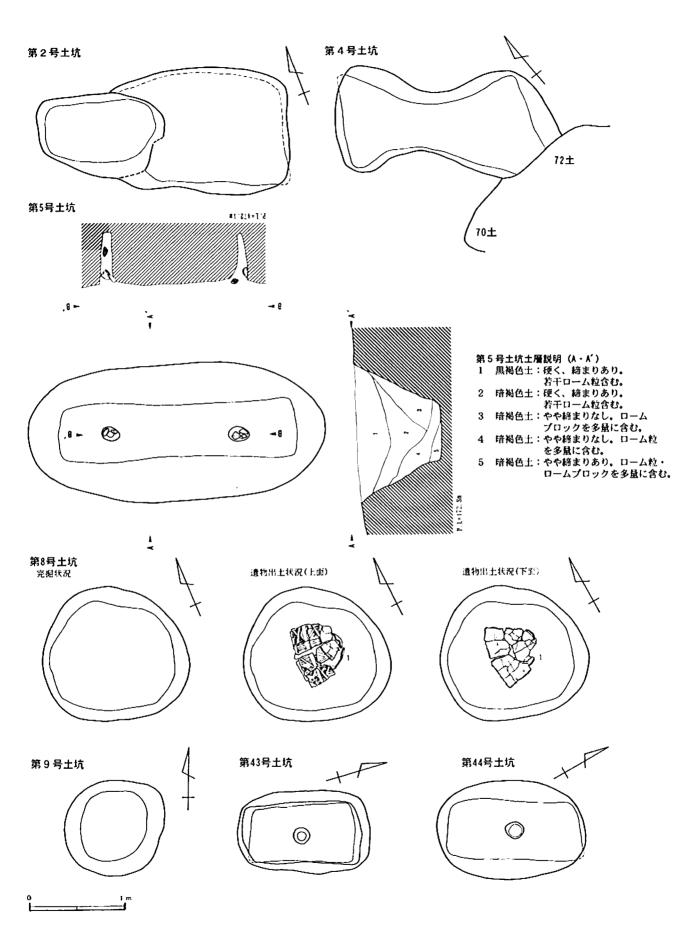
位 置一B区中央部南側、Ck-43グリッドに位置する。また第71号土坑に隣接する。重複関係一なし。 規模・形状一長軸265cm・短軸89cmを測り、西側が張り出した不整長方形を呈する。遺 物一条痕文土 器 2 点・剝片 1 点が出土し、土器 2 点を図示し得た。

第4号土坑 (第19図)

位 置一B区中央部南側、CI-46グリッドに位置する。重複関係一南西部分で第70・72号土坑と重複するが、切り合い関係は不明である。規模・形状一長軸232cm・短軸64cmを測り、中央部が強くくびれる分銅形を呈する。遺 物一土器 1 点・剝片 1 点が出土し、うち条痕文土器 1 点を図示し得た。備 考 一本土坑はその形状から陥し穴と考えられる。

第5号土坑 (第19図)

位 置一B区中央部南側、CI-45グリッドに位置する。また第 4・70・72号土坑に隣接する。重複関係 一なし。規模・形状一長軸311cm・短軸144cmを測り、平面形は楕円形を呈する。深さは91cmを測る。 壁面は傾斜して立ち上がり、断面形は箱状を呈する。また底面からは 2 基のピットが検出され、それ ぞれ数点の磔が検出された。これらの磔は逆茂木を固定するために充填されたものと考えられる。遺 物一なし。備 考一本土坑はその形状から陥し穴と考えられる。



第19図 第2・4・5・8・9・43・44号土坑

第8号土坑 (第19図)

位 置一B区南西部、Cp-42グリッドに位置する。第9号土坑に隣接する。重複関係一なし。規模・ 形状一長軸155cm・短軸140cmを測り、円形を呈する。遺 物一中央部から完形の鵜ガ島台式土器(第 34図1)が横倒しで押しつぶされた状態で出土した。他に出土遺物はなく、本土器1点を図示し得 た。

第9号土坑(第19図)

位 置一B区南西部、Cq-42グリッドに位置する。また第8号土坑に隣接する。重複関係一なし。規模・ 形状一長軸114cm・短軸104cmを測り、北東部がやや張った円形を呈する。遺 物一土器2点が出土し、 これを図示し得た。いずれも条痕文土器である。

第17号土坑 (第20図)

位 置一B区南側中央、Cq-43グリッドに位置する。また第16号土坑に隣接する。重複関係一なし。規模・形状一長軸285cm・短軸113cmを測り、中央部が緩やかにくびれる分銅形を呈する。底面からは2基のピットが検出され、それぞれ数点の磔が検出された。第5号土坑と同様、これらの磔は逆茂木を固定するために充填されたものと考えられる。遺 物一なし。備 考一本土坑はその形状から陥し穴と考えられる。

第24号土坑 (第20図)

位 置一B区南端部中央、Ct-46グリッドに位置する。また第168号土坑に隣接する。重複関係一第55号土坑と重複し、これに切られる。規模・形状一長軸226cm・短軸179cmを測り、開口部は楕円形を、底面は隅丸長方形を呈する。深さは152cmを測り、断面形は箱状を呈する。また底面は北に向かって傾斜している。底面中央よりピット1基が検出された。遺 物一条痕文土器 1 点が出土し、これを図示し得た。備 考一本土坑はその形状より陥し穴と考えられる。

第25号土坑 (第20図)

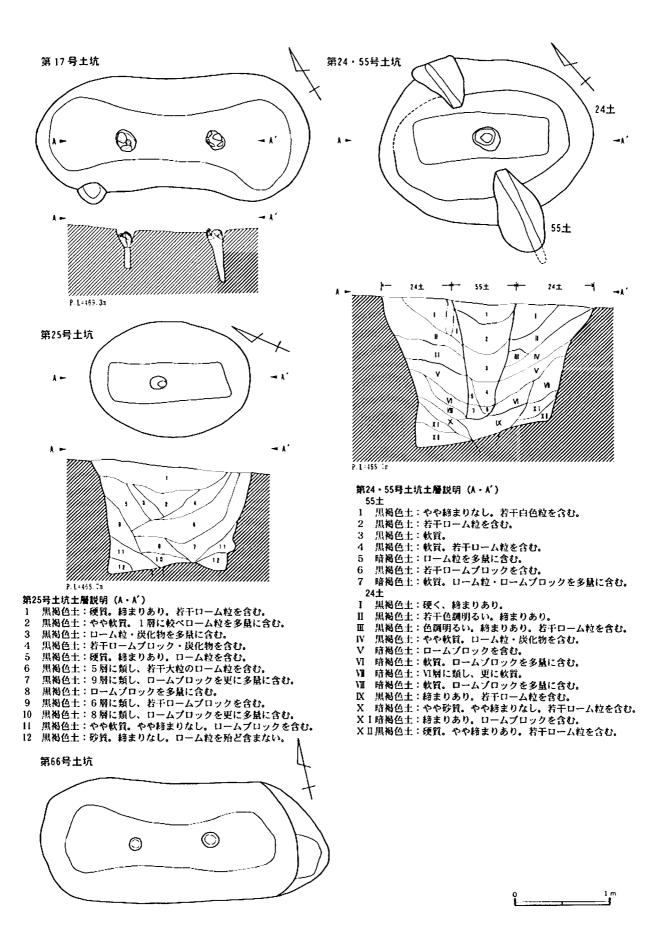
位 置一B区南端部中央、Da-45グリッドに位置する。重複関係一なし。規模・形状一長軸166cm・短軸121cmを測り、開口部は楕円形を、底面は隅丸長方形を呈する。深さは119cmを測り、断面形は箱状を呈する。また底面中央よりピット 1 基が検出された。遺 物一なし。備 考一本土坑はその形状より陥し穴と考えられる。

第43号土坑 (第19図)

位 置一B区中央部東側、Ci-49グリッドに位置する。重複関係一なし。規模・形状一長軸139cm・短軸88cmを測り、隅丸長方形を呈する。また底面中央よりピット1基が検出された。遺 物一条痕文土器 1 点が出土し、これを図示し得た。備 考一本土坑はその形状より陥し穴と考えられる。

第44号土坑(第19図)

位 置… B区中央部東側、Ch-47グリッドに位置する。また第45号土坑に隣接する。重複関係一なし。 規模・形状ー長軸156cm・短軸105cmを測り、開口部は楕円形を、底面は隅丸長方形を呈する。また底 面中央よりピット 1 基が検出された。遺 物一条痕文土器 2 点が出土し、これを図示し得た。いずれ



第20図 第17・24・55・25・66号土坑

も鵜ガ島台式に比定される。備 考一本土坑はその形状より陥し穴と考えられる。

第55号土坑 (第20図)

第65号土坑 (第21図)

位 置一C区中央部南側、Ds-54グリッドに位置する。重複関係一なし。規模・形状一長軸159cm・短軸109cmを測り、隅丸長方形を呈する。深さは115cmを測り、断面形は箱状を呈する。底面中央よりピット 1 基が検出された。遺 物一土器 3 点が出土し、これを図示し得た。いずれも沈線文土器である。 備 考一本土坑はその形状より陥し穴と考えられる。

第66号土坑 (第20図)

位 置一C区南東部、Ed-57グリッドに位置する。また第145号土坑に隣接する。重複関係一なし。規模・形状一長軸302cm・短軸126cmを測り、開口部は東側に張り出しを持つ隅丸長方形を、底面は中央部が緩くくびれる分銅形を呈する。底面よりピット2基が検出された。遺 物一条痕文土器 1 点が出土し、これを図示し得た。備 考一本土坑はその形状より陥し穴と考えられる。

第67号土坑 (第21図)

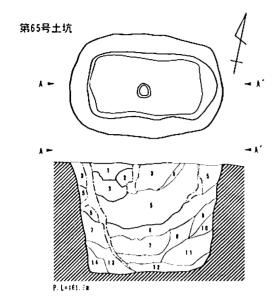
位 置一C区南側中央、Ec-54グリッドに位置する。また第145号土坑に隣接する。**重複関係**一なし。 規模・形状一長軸176cm・短軸85cmを測り、開口部は隅丸長方形を、底面は中央部がくびれ、四隅の 張った分銅形を呈する。深さは87cmを測る。東西壁の立ち上がりは垂直に近く、断面形は箱状を呈す る。底面からは4基のピットが東西2基ずつ対になるような状態で検出された。**遺** 物一土器2点・ 自然磔1点が出土し、沈線文土器1点を図示し得た。備 考一本土坑はその形状より陥し穴と考えら れる。

第73号土坑 (第21図)

位 置一B区北東部、Ca-46グリッドに位置する。重複関係一北東部分で第74号土坑と重複するが、切り合い関係は不明である。規模・形状一長軸257cm・短軸137cmを測り、隅丸長方形を呈する。深さは45cmを測り、断面形は箱状を呈する。底面からは2基のピットが検出され、それぞれ数点の礫が検出された。第5・17号土坑と同様、これらの礫は逆茂木を固定するために充塡されたものとみられる。遺 物一なし。備 考一本土坑はその形状より陥し穴と考えられる。

第74号土坑 (第21図)

位 置一B区北東部、Ca-46グリッドに位置する。重複関係一南西部分で第73号土坑と重複するが、切り合い関係は不明である。規模・形状一長軸(165)cm・短軸54cmを測り、隅丸長方形を呈する。また東側壁面は強くオーバーハングする。また底面中央よりピット1基が検出された。遺 物一なし。備



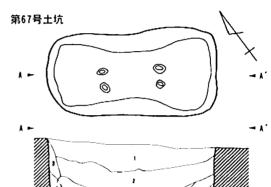
第65号土坑土層説明(A·A')

- 2
- ・ 現場色土:硬質、 締まりあり。 若干ローム粒を含む。 思褐色土:硬ζ、 締まりあり。 若干ローム粒・炭化物を含む。 黒褐色土:硬ζ、 締まりあり。 1 層+若干の小粒のロームプロック
- 黒褐色土: 2層に類す。 4
- 黒褐色土:やや軟質、締まりあり。ローム粒・小粒のロームブロック・ 炭化物を含む。
- 黒褐色土:やや軟質。締まりあり。5層に類し、ローム粒の割合少ない。
- 暗褐色土: ロームブロックを多量に含む。 暗褐色土: 色調暗い。締まりあり。若干ローム粒を含む。ロームブロック
 - を殆ど含まない。
- 暗褐色土:色調暗い。締まりあり。8層に類し、ややロームプロックの割合 少ない。

P. L=451, 4m

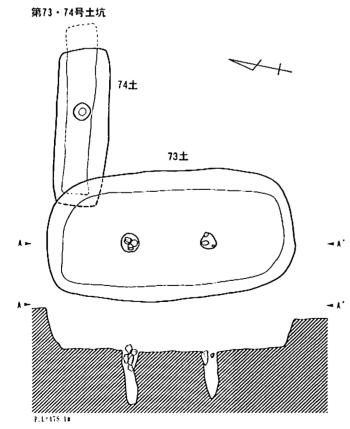
第78号土坑

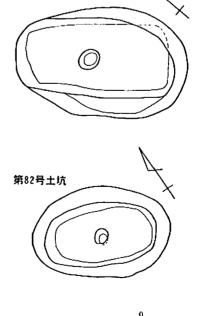
- 暗褐色土:色調暗い。締まりあり。7層に類すが、ロームブロックがつぶれ、ローム枚化している。 暗褐色土:色調暗い。締まりあり。若干ローム粒・ロームブロックを含む。
- 12 暗褐色土:色調暗い。締まりあり。若干小粒のロームブロックを含む。
 - ローム粒は殆ど含まない。
- 13 暗褐色土:色調暗い。 絡まりあり。若干小粒のロームブロックを含む。
- 14 暗褐色土:やや砂質。やや締まりなし。若干ローム粒を含む。



第67号土坑土層説明 (A·A')

- 黒褐色土:ローム粒を含む。
- 黒褐色土:1 層に類し、ローム粒の割合少ない。若干炭化物を含む。 黒褐色土:1 層に類し、若干小粒のロームブロックを含む。
- 黒褐色土: やや軟質。小粒のロームブロックをやや多量に含む。 黒褐色土: 4層に類し、ロームブロックの割合が若干多い。
- 黒褐色土: ロームブロックを多量に含む。 黒褐色土: 若干小粒のロームブロックを含む。
- 褐 色 土:ロームブロック主体。
- 黒褐色土:やや砂質。若干ローム粒を含む。ロームプロックは殆ど 含まない。
- 10 黒褐色土: 9層に類し、ローム粒の割合若干多い。





第21図 第65・67・73・74・78・82号土坑

考一本土坑はその形状より陥し穴と考えられる。

第78号土坑 (第21図)

位 置一E区北東部、Ek-55グリッドに位置する。また第79・101号土坑・第2号不明遺構に隣接する。 重複関係一なし。規模・形状一長軸179cm・短軸114cmを測り、開口部は楕円形を、底面は隅丸長方形 を呈する。西側には張り出しを持つ。また底面中央よりピット1基が検出された。遺 物一沈線文土 器及び条痕文土器2点・自然礫1点が出土し、土器2点を図示し得た。備 考一本土坑はその形状よ り陥し穴と考えられる。

第82号土坑 (第21図)

位 置一E区北端部東側、Ej-55グリッドに位置する。重複関係一なし。規模・形状一長軸144cm・短軸96cmを測り、楕円形を呈する。また底面中央よりピット1基が検出された。遺 物一土器 7 点・剝片 2 点が出土し、土器 4 点を図示し得た。備 考一本土坑はその形状より陥し穴と考えられる。

第84号土坑 (第22図)

位 置一E区北側中央、En-52グリッドに位置する。重複関係一なし。規模・形状一長軸268cm・短軸133cmを測り、開口部は緩くくびれる分銅形を、底面は強くくびれる分銅形を呈する。遺 物一沈線文土器 2 点・剝片 1 点が出土し、土器 1 点を図示し得た。備 考一本土坑はその形状より陥し穴と考えられる。

第85号土坑(第22図)

位 置一E区北側中央、En-53グリッドに位置する。重複関係一なし。規模・形状一長軸96cm・短軸92 cmを測り、円形を呈する。深さは61cmを測り、断面形は箱状を呈する。遺 物一なし。

第88号土坑 (第22図)

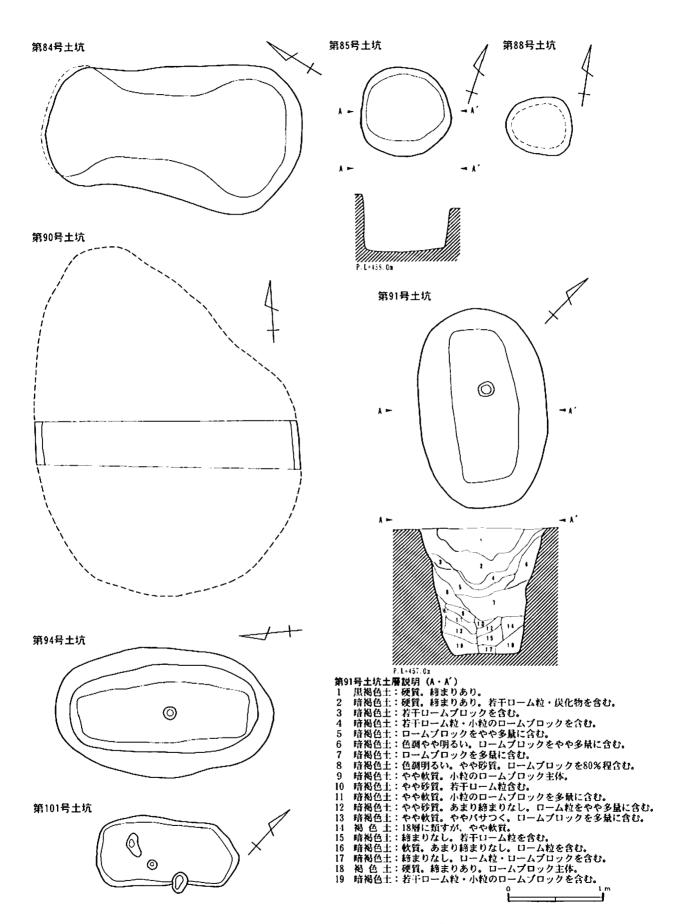
位 置一E区中央部東側、Eo-55グリッドに位置する。重複関係一なし。規模・形状一長軸69cm・短軸60cmを測り、西側がやや張った円形を呈する。遺 物一土器 2 点が出土し、 1 点を図示し得た。

第90号土坑 (第22図)

位 置一E区中央部東側、Ep-54グリッドに位置する。また第86・89号土坑に隣接する。**重複関係**一な し。規模・形状一不明。覆 土一調査所見からは焼土や炭化物を多量に含むとされる。遺 物一土器 14点・自然礫1点が出土し、復元個体1点を含む土器3点を図示し得た。条痕文土器が主体である。

第91号土坑(第22図)

位 置一E区中央部北側、Ep-52グリッドに位置する。また第1号不明遺構に隣接する。重複関係一なし。規模・形状一長軸209cm・短軸133cmを測り、開口部は楕円形を、底面は隅丸長方形を呈する。深さは131cmを測る。壁面は外傾して立ち上がり、断面形は箱状を呈する。また底面中央やや西寄りのところでピット1基が検出された。遺 物一土器 3 点・石器 7 点(剝片・自然礫含む)が出土し、条痕文土器 1 点を図示し得た。備 考一本土坑はその形状より陥し穴と考えられる。



第22図 第84・85・88・90・91・94・101号土坑

第92号土坑 (第23図)

位 置一E区北側中央、Eo-50グリッドに位置する。重複関係一第93号土坑と重複し、これを切る。規模・形状一長軸236cm・短軸118cmを測り、開口部は隅丸長方形を、底面は中央部が強くくびれ、北東隅・北西隅が張り出した分銅形を呈する。深さは85cmを測り、断面形は箱状を呈する。また中央部南寄りのところでピット1基が検出された。遺 物一沈線文土器及び条痕文土器20点が出土し、5点を図示し得たが、本土坑に伴うものか第93号土坑に伴うものかは不明である。備 考一本土坑はその形状より陥し穴と考えられる。

第93号土坑 (第23図)

位 置一E区北側中央、Eo-50グリッドに位置する。重複関係一第92号土坑と重複し、これに切られる。 規模・形状一長軸92cm・短軸85cmを測り、円形を呈する。深さは72cmを測り、断面形は箱状を呈する。 また南壁は若干オーバーハングする。遺 物一沈線文土器及び条痕文土器20点・石器15点(剝片・自 然礫含む)が出土し、土器 5 点を図示し得たが、本土坑に伴うものか第92号土坑に伴うかは不明である。

第94号土坑 (第22図)

位 置一E区中央部北側、Ep-50グリッドに位置する。重複関係一なし。規模・形状一長軸228cm・短軸136cmを測り、開口部は楕円形を、底面は東側にややふくらみを持つ隅丸長方形を呈する。また底面中央よりピット1基が検出された。遺 物一沈線文土器1点・剝片1点が出土し、土器1点を図示し得た。備 考一本土坑はその形状より陥し穴と考えられる。

第95号土坑(第23図)

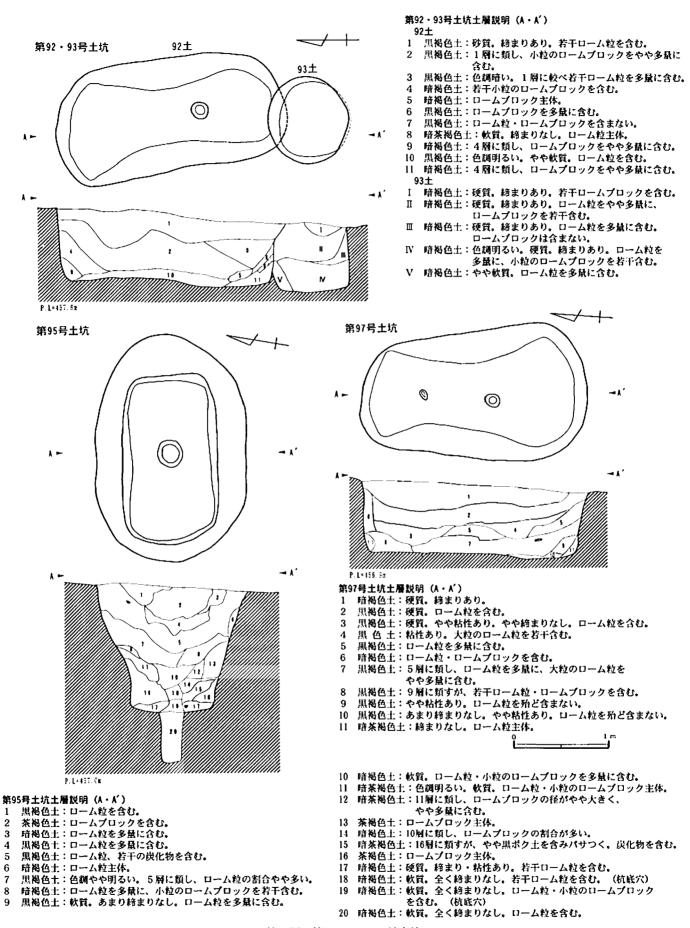
位 置一E区北側、Eo-49グリッドに位置する。重複関係一なし。規模・形状一長軸240cm・短軸163cm を測り、開口部は東側が張った楕円形を、底面は隅丸長方形を呈する。深さは135cmを測る。壁面は外傾して立ち上がり、断面形は箱状を呈する。また底面中央より深さ54cmを測るピットが1基検出された。遺 物一沈線文土器及び条痕文土器26点・石器16点(剝片・自然磔含む)が出土し、土器11点を図示し得た。備 考一本土坑はその形状より陥し穴と考えられる。

第97号土坑 (第23図)

位 置一E区北西部、Eo-46グリッドに位置する。また第96号土坑に隣接する。重複関係一なし。規模・ 形状一長軸235cm・短軸131cmを測り、開口部は南東部がやや張った楕円形を、底面は中央部がくびれ た分銅形を呈する。深さは82cmを測り、断面形は箱状を呈する。底面よりピット2基が検出された。 遺 物一なし。備 考一本土坑はその形状より陥し穴と考えられる。

第100号土坑 (第24図)

位 置一F区中央部西側、Eq-47グリッドに位置する。重複関係一なし。規模・形状一長軸140cm・短軸85cmを測り、不整形を呈する。深さは24cmを測り、断面形は箱状を呈する。覆土は暗褐色土を基調とし、北側を中心に焼土・炭化物を多量に含む。南側床面には扁平な石が置かれる。遺 物一なし。 備 考一本土坑はその形状や覆土より炉穴と考えられる。



第101号土坑 (第22図)

位 置一E区北東部、Ek-55グリッドに位置する。また第78号土坑に隣接する。重複関係一なし。規模・ 形状一長軸149cm・短軸70cmを測り、東壁が張った隅丸長方形を呈する。また南側底面及び東壁付近よ りピット 3 基が検出された。遺 物一土器 8 点・石器 3 点(剝片・自然礫含む)が出土し、土器 2 点 を図示し得た。主体は条痕文土器である。

第102号土坑 (第24図)

位 置一E区北西部、Ep-46グリッドに位置する。重複関係一なし。規模・形状一長軸76cm・短軸74cm を測り、円形を呈する。深さは72cmを測る。壁面はオーバーハングして立ち上がり、断面形は袋状を呈する。遺 物一土器28点・石器 7 点(剝片・自然磔含む)が出土し、復元個体 1 点を含む土器 9 点を図示し得た。主体は条痕文土器である。

第104号土坑 (第24図)

位 置一E区中央部、Eq-49グリッドに位置する。重複関係一なし。規模・形状一長軸186cm・短軸137 cmを測り、開口部は楕円形を、底面は隅丸長方形を呈する。底面中央よりピット1基が検出された。 遺 物一沈線文土器及び条痕文土器13点・石器13点(剝片・自然礫含む)が出土し、土器 6 点・石鏃1 点を図示し得た。備 考一本土坑はその形状から陥し穴と考えられる。

第106号土坑 (第24図)

位 置一E区中央部、Es-49グリッドに位置する。重複関係一なし。規模・形状一長軸157cm・短軸74 cmを測り、楕円形を呈する。深さは32cmを測り、断面形は皿形を呈する。覆土は暗褐色土を基調とし、中央部を中心に焼土・炭化物を多量に含む。遺 物一沈線文土器及び条痕文土器 4 点・石器28点(剝片・砕片・自然磔含む)が出土し、土器 2 点を図示し得た。備 考一本土坑はその形状や覆土から炉穴と考えられる。

第108号土坑 (第24図)

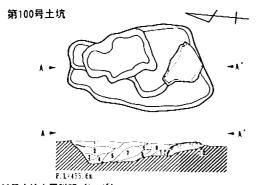
位 置一E区中央部、Eq-54グリッドに位置する。また第90・107・109号土坑に隣接する。重複関係一なし。規模・形状一長軸152cm・短軸77cmを測り、不整形を呈する。深さは27cmを測り、断面形は皿状を呈する。覆土は全体的にやや多量の炭化物を含む。遺 物一条痕文土器 3 点が出土し、復元個体 1 点を含む土器 2 点を図示し得た。備 考一本土坑はその形状や覆土から炉穴と考えられる。

第109号土坑 (第24図)

位 置一E区中央部、Eq-55グリッドに位置する。また第108号土坑に隣接する。重複関係一なし。規模・形状一長軸235cm・短軸167cmを測り、開口部は南側が張った楕円形を、底面は南西部が張った隅丸長方形を呈する。また底面中央よりピット1基が検出された。遺 物一土器 8 点・自然礫 1 点が出土し、土器 3 点を図示し得た。主体は条痕文土器である。備 考一本土坑はその形状から陥し穴と考えられる。

第113号土坑 (第25図)

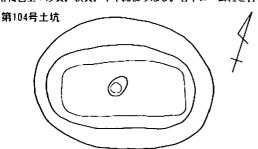
位 置一E区中央部、Es-54グリッドに位置する。また第112・114号土坑に隣接する。重複関係一なし。

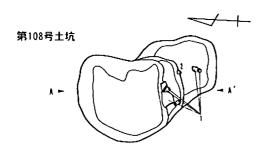


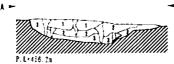
第100号土坑土層説明 (A·A')

- 黒褐色土:非常に硬質。締まりあり。
- 黒褐色土:採常に硬質。締まりあり。 暗褐色土:硬質。締まりあり。若干ローム粒・焼土粒を含む。 暗褐色土:2 智に類し、焼土粒を多量に、炭化物を若干含む。 暗褐色土:2 やや軟質。3 層より更に焼土粒・炭化物を多量に、 小粒のロームブロックを若干含む。 暗褐色土:色調暗い。硬質。絡まりあり。若干焼土粒を含む。 黒褐色土:1 層に類すが、より色調暗い。 暗褐色土:5 層に類すが、焼土粒は殆ど含まない。 暗褐色土:7 層に類し、焼土粒・炭化物を含まない。 暗褐色土:8 層に類し、焼土粒・炭化物を含まない。 暗褐色土:8 層に類し、8 層よりやや軟質。

- 9 暗褐色土: 8 層に類し、8 層よりやや軟質。 10 暗褐色土: 砂質。軟質。やや絡まりなし。若干ローム粒を含む。



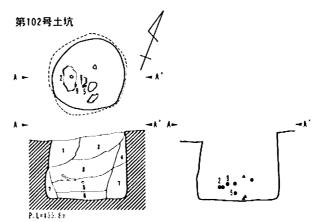




第108号土坑土屠説明 (A·A')

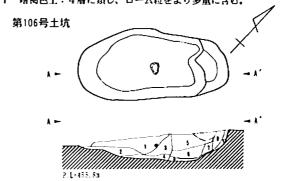
- 黒褐色土:硬質。ローム粒・若干の炭化物を含む。
- 暗褐色土:ローム粒・やや多量の炭化物を含む。
- 褐 色 土:ローム粒主体。若干の炭化物を含む。





第102号土坑土層説明 (A・A')

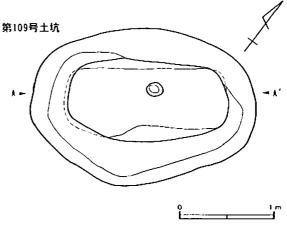
- 若干ローム粒を含む。
- 暗褐色土:5月に類すが、シミ状にロームブロックを含む。 暗褐色土:4月に類し、ローム粒をより多量に含む。



第106号土坑土層説明 (A·A')

- 黒褐色土:硬質。若干ローム粒・焼土粒を含む。 暗褐色土:軟質。ローム粒・ロームブロックを含む。

- 暗褐色土: やや軟質。ローム粒・焼土粒・炭化物を含む。 暗褐色土:ローム粒・ロームブロック・若干の炭化物を含む。 暗褐色土:色調明るい。やや砂質。ローム粒・焼土粒を含む。 暗褐色土: 5層に類し、色調は更に明るく、焼土ブロックを多量に含む。
- 暗褐色土:砂質。若干焼土粒・炭化物を含む。
- 暗褐色土: 7 層に類すが、小粒のロームブロックのみを若干含む。 暗褐色土: 砂質。ロームブロックと若干の焼土粒・炭化物を含む。
- 褐色 土:軟質。締まりなし。ローム粒を50%程含む。



第24図 第100・102・104・106・108・109号土坑

規模・形状―長軸132cm・短軸56cmを測り、楕円形を呈する。北東部には煙道とみられる張り出し部を持つ。深さは25cmを測り、断面形は箱状を呈する。覆土は暗茶褐色土・黒褐色土を基調とし、全体的に焼土・炭化物を多量に含む。また北壁は被熱して硬化している。遺 物―土器12点が出土し、沈線文土器 1 点を図示し得た。備 考―本土坑はその形状や覆土から炉穴と考えられる。

第115号土坑 (第25図)

位 置一E区南東部、Et-56グリッドに位置する。重複関係一なし。規模・形状一長軸216cm・短軸124 cmを測り、開口部は楕円形を、底面は北東隅が張り出した隅丸長方形を呈する。底面中央よりピット 1 基が検出された。遺 物一沈線文土器及び条痕文土器27点・石器23点(剝片・自然磔含む)が出土 し、土器12点を図示し得た。主体は条痕文土器である。備 考一本土坑はその形状から陥し穴と考えられる。

第117号土坑 (第25図)

位 置一E区中央部西側、Fa-49グリッドに位置する。また第118・121号土坑に隣接する。重複関係一なし。規模・形状一長軸196cm・短軸144cmを測り、隅丸長方形を呈する。また底面中央よりピット1基が検出された。遺 物一条痕文土器 2 点が出土し、これを図示し得た。備 考一本土坑はその形状から陥し穴と考えられる。

第126号土坑 (第25図)

位 置一E区南西部、Fd-51グリッドに位置する。重複関係一なし。規模・形状一長軸201cm・短軸135 cmを測り、開口部は西側の張った楕円形を、底面は隅丸長方形を呈する。また底面中央よりピット 1 基が検出された。遺 物一条痕文土器 2 点が出土し、これを図示し得た。備 考一本土坑はその形状から陥し穴と考えられる。

第127号土坑 (第25図)

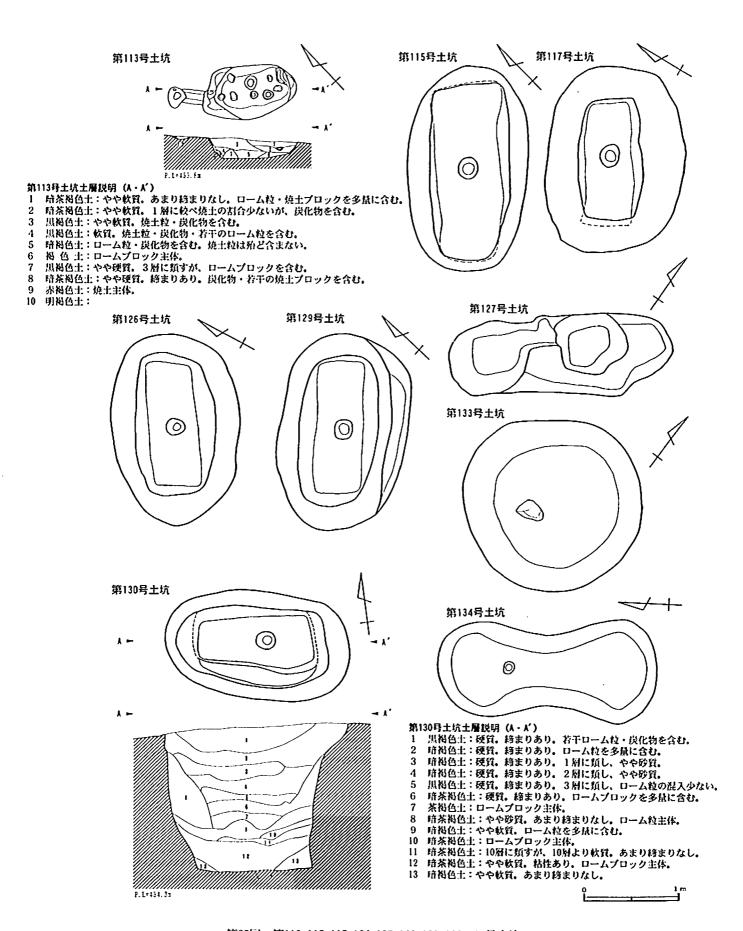
位 置一E区南西部、Fd-50グリッドに位置する。重複関係一なし。規模・形状一長軸233cm・短軸81 cmを測り、いびつな長楕円形を呈する。遺 物一条痕文土器 3 点が出土し、 1 点を図示し得た。

第129号土坑 (第25図)

位 置一E区南西部、Fd-49グリッドに位置する。重複関係一なし。規模・形状一長軸206cm・短軸134 cmを測り、開口部は楕円形を、底面は隅丸長方形を呈する。また底面中央よりピット1基が検出された。遺 物一条痕文土器 3 点・剝片 1 点が出土し、土器 3 点を図示し得た。備 考一本土坑はその形状から陥し穴と考えられる。

第130号土坑 (第25図)

位 置一E区南端部西側、Fe-51グリッドに位置する。重複関係一なし。規模・形状一長軸192cm・短軸114cmを測り、開口部は楕円形を、底面は隅丸長方形を呈する。深さは159cmを測り、断面形は箱状を呈する。また底面中央よりピット1基が検出された。遺 物一沈線文土器及び条痕文土器 7 点が出土し、4 点を図示し得た。備 考一本土坑はその形状から陥し穴と考えられる。



第25図 第113・115・117・126・127・129・130・133・134号土坑

第133号土坑 (第25図)

位 置一F区北西部、Fk-48グリッドに位置する。また171号土坑に隣接する。重複関係一なし。規模・ 形状一長軸189cm・短軸185cmを測り、円形を呈する。遺 物一沈線文土器及び条痕文土器 6 点・石器 4 点(剝片含む)が出土し、土器 4 点・スクレイパー 1 点を図示し得た。

第134号土坑 (第25図)

位 置一下区中央部西側、Gc-51グリッドに位置する。重複関係一なし。規模・形状一長軸229cm・短軸75cmを測り、中央が強くくびれる分銅形を呈する。また底面中央北寄りのところでピット1基が検出された。遺 物一土器 4 点が出土し、1 点を図示し得た。備 考一本土坑はその形状から陥し穴と考えられる。

第135号土坑 (第26図)

位 置一E区南側中央、Fb-51グリッドに位置する。重複関係一なし。規模・形状一長軸152cm・短軸111cmを測り、開口部は楕円形を、底面は隅丸長方形を呈する。深さは136cmを測り、断面形は箱状を呈する。また底面中央やや東寄りのところでピット1基が検出された。遺 物一土器 5 点が出土し、1 点を図示し得た。主体は条痕文土器である。備 考一本土坑はその形状から陥し穴と考えられる。

第137号土坑 (第26図)

位 置一C区中央部、Dq-54グリッドに位置する。重複関係一なし。規模・形状一長軸102cm・短軸74 cmを測り、楕円形を呈する。深さは32cmを測り、断面形は箱状を呈する。遺 物一なし。

第140号土坑 (第26図)

位 置一C区中央部東側、Dr-55グリッドに位置する。重複関係一なし。規模・形状一長軸196cm・短 軸146cmを測り、不整形を呈する。深さは21cmを測り、断面形は箱状を呈する。遺 物一なし。

第142号土坑 (第26図)

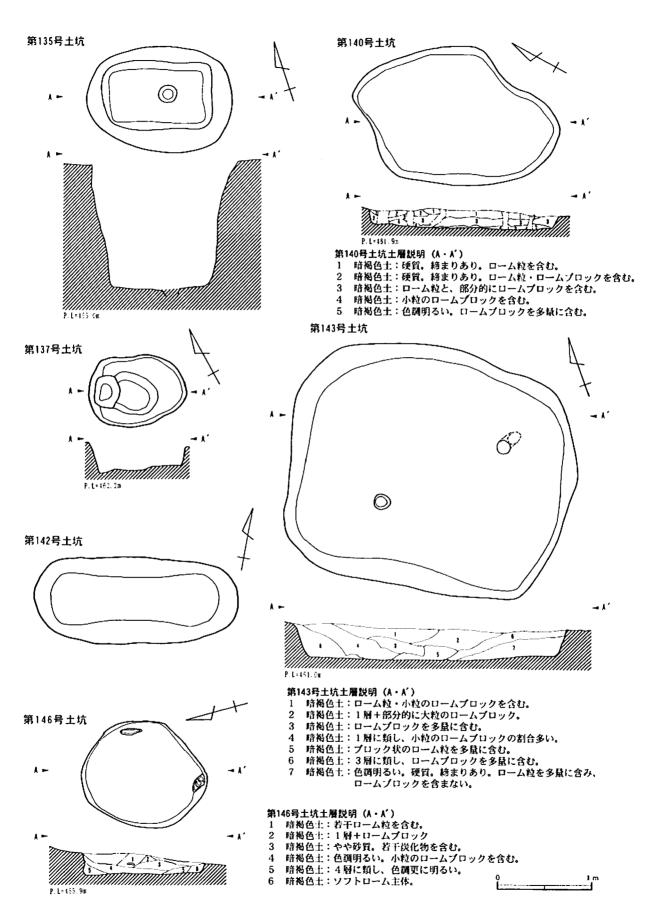
位 置一C区中央部東側、Dt-56グリッドに位置する。重複関係一なし。規模・形状一長軸212cm・短軸90cmを測り、開口部は楕円形を、底面は中央がわずかにくびれる分銅形を呈する。遺 物一条痕文 土器 2 点が出土し、1 点を図示し得た。

第143号土坑 (第26図)

位 置一C区南東部、Eb-56グリッドに位置する。また144号土坑に隣接する。重複関係一なし。規模・ 形状一長軸300cm・短軸256cmを測り、北側が張った隅丸方形を呈する。深さは38cmを測り、断面形は 箱状を呈する。また底面はフラットに近い。底面よりピット2基が検出された。遺 物一スクレイパー 1点が出土し、これを図示し得た。備 考一本土坑は住居址とする積極的な根拠がないため土坑とし て扱ったが、底面の状態等をみると住居址の可能性も指摘できよう。

第144号土坑 (第27図)

位 置一C区南側中央、Eb-55グリッドに位置する。また第143号土坑に隣接する。重複関係一なし。



第26図 第135 • 137 • 140 • 142 • 143 • 146号土坑

規模・形状一長軸131cm・短軸88cmを測り、開口部は楕円形を、底面は隅丸長方形を呈する。深さは119 cmを測り、断面形は箱状を呈する。また底面中央やや西寄りのところでピット1基が検出された。遺物一土器1点が出土し、これを図示し得た。備 考一本土坑はその形状から陥し穴と考えられる。

第146号土坑 (第26図)

位 置一E区中央部、Es-50グリッドに位置する。重複関係一なし。規模・形状一長軸128cm・短軸113 cmを測り、南側の張った円形を呈する。深さは22cmを測り、断面形は箱状を呈する。遺 物一沈線文 土器及び条痕文土器11点・石器30点(剝片・砕片・自然礫含む)が出土し、土器5点を図示し得た。

第148号土坑 (第27図)

位 置一C区北西隅、De-51グリッドに位置する。重複関係一なし。規模・形状一長軸159cm・短軸106 cmを測り、隅丸長方形を呈する。深さは127cmを測り、断面形は箱状を呈する。また底面中央やや南寄りのところでピット 1 基が検出された。遺 物一なし。備 考一本土坑はその形状から陥し穴と考えられる。

第149号土坑 (第27図)

位 置一C区北西部、Dg-51グリッドに位置する。重複関係一なし。規模・形状一長軸226cm・短軸185 cmを測る。東側に張り出しを持ち、東側の張った不整楕円形を呈する。遺 物一条痕文土器 2 点が出土し、これを図示し得た。

第151号土坑 (第27図)

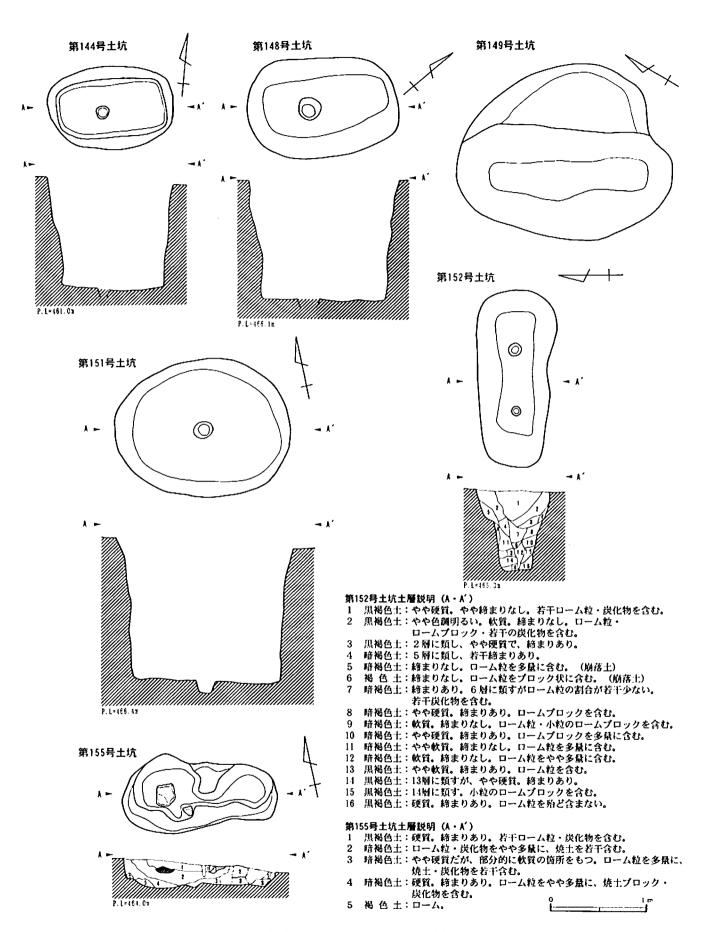
位 置一C区北側中央、Dg-52グリッドに位置する。重複関係一なし。規模・形状一長軸183cm・短軸145cmを測り、円形に近い楕円形を呈する。深さは155cmを測り、断面形は箱状を呈する。誠に遺憾ながら本土坑の土層観察図を紛失してしまったが、自然科学分析により覆土中から鬼界アカホヤ火山灰(K-Ah)とみられるテフラが検出されている。また底面中央よりピット1基が検出された。遺 物一土器・炭化材が出土した。樹種同定の結果、炭化材はブナ科の樹木であることが確認されている。 備 考一本土坑はその形状から陥し穴と考えられる。

第152号土坑 (第27図)

位 置一C区北東部、Dg-53グリッドに位置する。重複関係一なし。規模・形状一長軸185cm・短軸73 cmを測り、隅丸長方形を呈する。深さは86cmを測り、断面形は箱状を呈する。また底面よりピット 2 基が検出された。遺 物一なし。備 考一本土坑はその形状から陥し穴と考えられる。

第155土坑 (第27図)

位 置一C区北東部、Dj-54グリッドに位置する。重複関係一なし。規模・形状一長軸161cm・短軸68 cmを測り、不整楕円形を呈する。深さは30cmを測り、断面形は箱状を呈する。覆土は暗褐色土を基調とし、西側を中心に焼土・炭化物を含む。遺 物一なし。備 考一本土坑はその形状・覆土から炉穴と考えられる。



第27図 第144・148・149・151・152・155号土坑

第157号土坑 (第28図)

位 置一C区中央部北側、Dk-53グリッドに位置する。また第158号土坑に隣接する。重複関係一なし。 規模・形状一長軸213cm・短軸107cmを測り、開口部は楕円形を、底面は中央が緩くくびれ、四隅の張った分銅形を呈する。深さは91cmを測り、断面形は箱状を呈する。また底面よりピット2基が検出された。遺 物一土器2点が出土し、1点を図示し得た。備 考一本土坑はその形状から陥し穴と考えられる。

第158号土坑 (第28図)

位 置一C区中央部北側、Dk-53グリッドに位置する。また第157号土坑に隣接する。重複関係一なし。 規模・形状一長軸143cm・短軸74cmを測り、北西部の張った楕円形を呈する。深さは36cmを測り、断面 形は不定形を呈する。遺 物一なし。

第160号土坑 (第28図)

位 置一B区中央部東側、Ck-50グリッドに位置する。重複関係一なし。規模・形状一長軸149cm・短軸99cmり、隅丸長方形を呈する。深さは134cmを測り、断面形は箱状を呈する。また底面中央よりピット1基が検出された。遺 物一土器 1 点が出土したが、図示するには至らなかった。備 考一本土坑はその形状から陥し穴と考えられる。

第161号土坑 (第28図)

位 置一B区南東部、Cn-49グリッドに位置する。重複関係一なし。規模・形状一長軸154cm・短軸92 cmを測り、楕円形を呈する。深さは122cmを測り、断面形は箱状を呈する。また底面中央よりピット 1 基が検出された。遺 物一なし。備 考一本土坑はその形状から陥し穴と考えられる。

第162号土坑 (第28図)

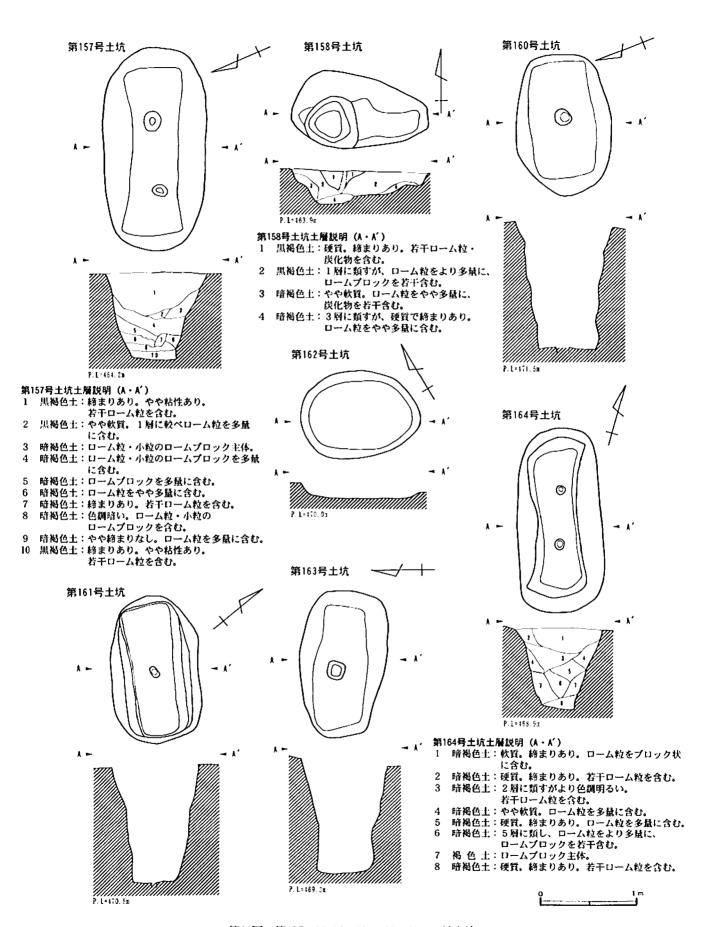
位 置一B区南東部、Co-50グリッドに位置する。重複関係一なし。規模・形状一長軸126cm・短軸92 cmを測り、楕円形を呈する。深さは15cmを測り、断面形は皿状を呈する。遺 物一なし。

第163号土坑 (第28図)

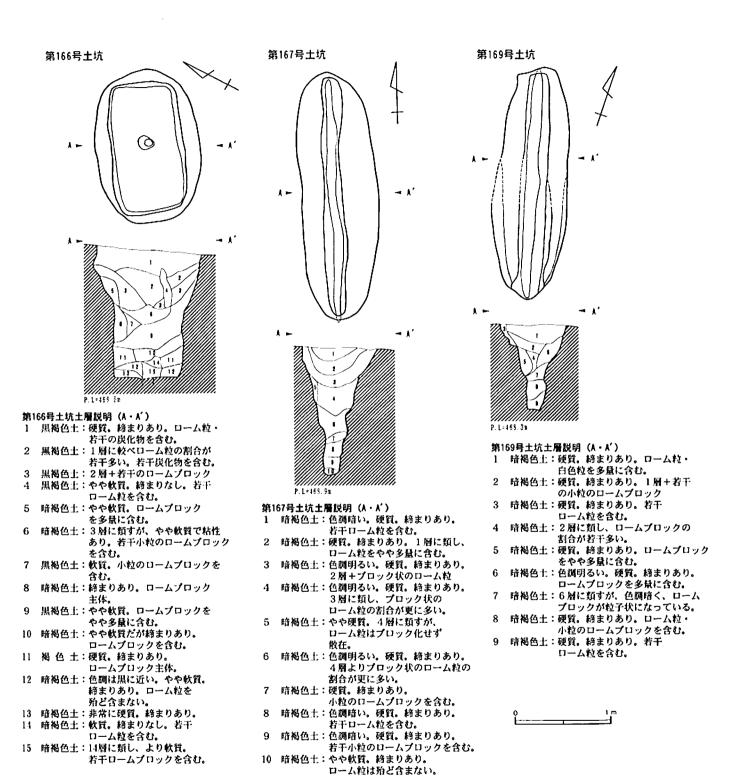
位 置一B区南東部、Cp-51グリッドに位置する。重複関係一なし。規模・形状一長軸152cm・短軸91 cmを測り、北側の張った隅丸長方形を呈する。深さは120cmを測り、断面形は箱状を呈する。また底面中央よりピット 1 基が検出された。遺 物一なし。備 考一本土坑はその形状から陥し穴と考えられる。

第164号土坑 (第28図)

位 置一B区南東部、Cp-52グリッドに位置する。重複関係一なし。規模・形状一長軸195cm・短軸88 cmを測り、開口部は隅丸長方形を、底面は中央が緩くくびれる分銅形を呈する。深さは84cmを測り、断面形は箱状を呈する。また底面よりピット2基が検出された。遺 物一なし。備 考一本土坑はその形状から陥し穴と考えられる。



第28図 第157・158・160・161・162・163・164号土坑



第29図 第166・167・169号土坑

第166号土坑 (第29図)

位 置一B区南東部、Cr-51グリッドに位置する。重複関係一なし。規模・形状一長軸161cm・短軸110 cmを測り、隅丸長方形を呈する。深さは139cmを測り、断面形は箱状を呈する。また底面中央よりピット 1 基が検出された。遺 物一なし。備 考一本土坑はその形状から陥し穴と考えられる。

第167号土坑 (第29図)

位 置一B区南端部中央、Ct-47グリッドに位置する。また第168号土坑に隣接する。重複関係一なし。 規模・形状一長軸262cm・短軸88cmを測り、開口部は長楕円形を、底面は溝状を呈する。深さは136cm を測り、断面形はV字状を呈する。遺 物一なし。備 考一本土坑はその形状からいわゆる「Tピット」と考えられる。

第169号土坑 (第29図)

位 置一B区南東部、Cs-50グリッドに位置する。重複関係一なし。規模・形状一長軸240cm・短軸70 cmを測り、開口部は長楕円形を、底面は溝状を呈する。深さは93cmを測り、断面形はV字状を呈する。 遺 物一なし。備 考一本土坑はその形状からいわゆる「Tピット」と考えられる。

第170号土坑 (第30図)

位 置一下区北端部西側、Fi-48グリッドに位置する。重複関係一なし。規模・形状一長軸165cm・短軸96cmを測り、楕円形を呈する。深さは128cmを測り、断面形は箱状を呈する。また底面中央よりピット 1 基が検出された。遺 物一沈線文土器及び条痕文土器11点・石器 5 点(剝片・自然磔含む)が出土し、 3 点を図示し得た。主体は条痕文土器である。備 考一本土坑はその形状から陥し穴と考えられる。

第171号土坑 (第30図)

位 置一F区北西部、FI-49グリッドに位置する。また第133・193号土坑に隣接する。**重複関係**一なし。 規模・形状一長軸210cm・短軸202cmを測り、円形を呈する。深さは90cmを測る。壁面は外傾して立ち 上がり、断面形は箱状を呈する。遺 物一なし。

第173号土坑 (第30図)

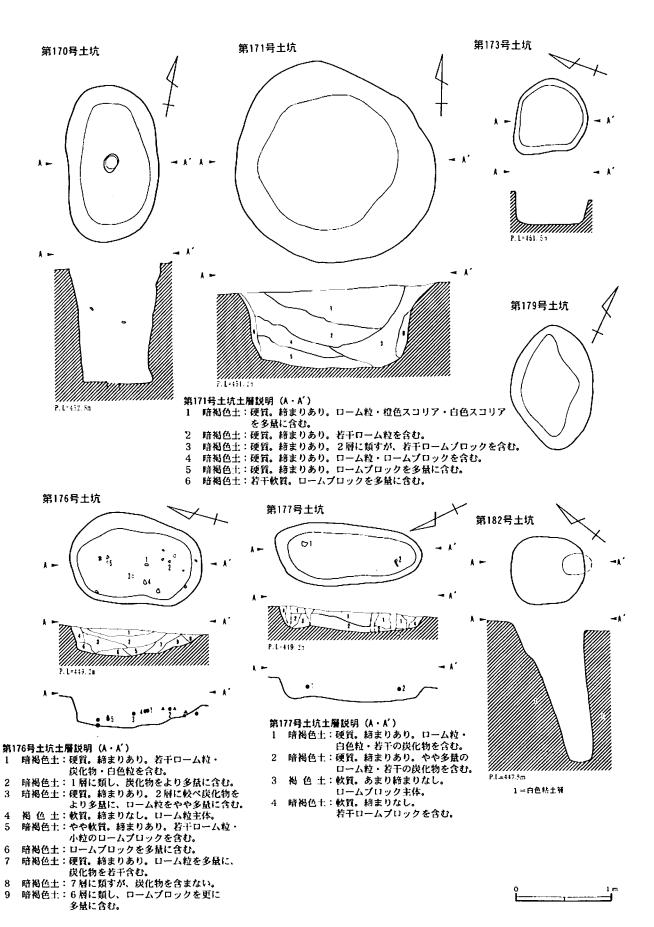
位 置一下区北東部、Fm-52グリッドに位置する。重複関係一なし。規模・形状一長軸76cm・短軸75 cmを測り、北西部の張った不整円形を呈する。深さは35cmを測り、断面形は箱状を呈する。遺 物一なし。

第176号土坑 (第30図)

位 置一下区中央部西側、Fr-50グリッドに位置する。また第177号土坑に隣接する。重複関係一なし。 規模・形状一長軸138cm・短軸94cmを測り、ややいびつな楕円形を呈する。深さは32cmを測り、断面形 は箱状を呈する。遺 物一土器 9 点・石器 5 点(剝片・自然礫含む)が出土し、土器 5 点を図示し得 た。主体は条痕文土器である。

第177号土坑 (第30図)

位 置一下区中央部西側、Fs-50グリッドに位置する。また第176号土坑に隣接する。重複関係一なし。 規模・形状一長軸152cm・短軸65cmを測り、楕円形を呈する。深さは28cmを測り、断面形は箱状を呈する。遺 物一土器 4 点・剝片 1 点が出土し、条痕文土器 2 点を図示し得た。



第30図 第170 • 171 • 173 • 176 • 177 • 179 • 182 号土坑

第179号土坑 (第30図)

位 置一下区中央部東側、Fr-53グリッドに位置する。**重複関係**一なし。規模・形状一長軸127cm・短軸86cmを測り、楕円形を呈する。遺 物一石器 1 点が出土し、これを図示し得た。

第182号土坑 (第30図)

位 置一下区中央部南側、Gb-54グリッドに位置する。重複関係一なし。規模・形状一長軸75cm・短軸70cmを測り、隅丸方形を呈する。深さは148cmを測り、断面形はV字状を呈する。また南壁はオーバーハングしている。遺 物一なし。備 考一本土坑はその形状や白色粘土層を貫いていることなどから粘土採掘坑の可能性も考えられる。

第186号土坑 (第31図)

位 置一下区南端部、Gi-58グリッドに位置する。また第188号土坑に隣接する。重複関係一なし。規模・形状一長軸169cm・短軸151cmを測り、円形を呈する。深さは63cmを測り、断面形は箱状を呈する。また底面は西に向かって傾斜する。遺 物一条痕文土器 4 点・剝片 1 点が出土し、土器 3 点を図示し得た。

第188号土坑 (第31図)

位 置一F区南端部、Gi-58グリッドに位置する。また第186・187号土坑に隣接する。重複関係一なし。 規模・形状一長軸181cm・短軸173cmを測り、円形を呈する。深さは52cmを測り、断面形は箱状を呈する。遺 物一条痕文土器や石器(自然磔含む)が多量に出土し、土器 8 点・石器 1 点を図示し得た。 備 考一本土坑はその形状や覆土、また磔が多量に出土していることから集石土坑の可能性がある。

第189号土坑 (第32図)

位 置一下区南側中央、Gg-54グリッドに位置する。また第190号土坑に隣接する。**重複関係**一なし。 規模・形状一長軸345cm・短軸130cmを測り、開口部は長楕円形を、底面は溝状を呈する。深さは172cm を測り、断面形はV字状を呈する。南北両壁は強くオーバーハングする。遺 物一なし。備 考一本 土坑はその形状からいわゆる「Tピット」と考えられる。

第190号土坑(第32図)

位 置一下区南側中央、Gf-54グリッドに位置する。また第189号土坑に隣接する。重複関係一なし。 規模・形状一長軸325cm・短軸148cmを測り、開口部は長楕円形を、底面は溝状を呈する。深さは180cm を測り、断面形はV字状を呈する。第189号土坑と同様南北両壁が強くオーバーハングする。遺 物一条 痕文土器 1 点が出土し、これを図示し得た。備 考一本土坑はその形状からいわゆる「Tピット」と 考えられる。

第191号土坑 (第31図)

位 置一下区北端部、Fh-49グリッドに位置する。重複関係一なし。規模・形状一長軸90cm・短軸69cm を測り、楕円形を呈する。深さは51cmを測り、断面形は箱状を呈する。また床面は北東側に向かって 傾斜している。遺 物一なし。

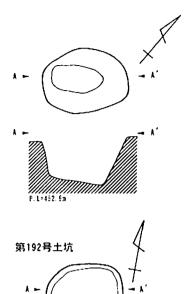
第186号土坑

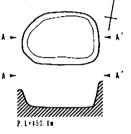
?. L÷442. 1m

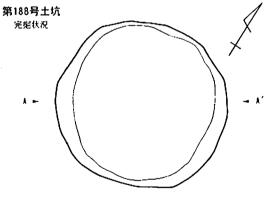
- 第186号土坑土層説明 (A・A')

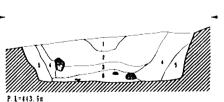
 1 黒褐色土: 硬質。締まりあり。ローム粒・橙色スコリアを含む。
 2 暗褐色土: 硬質。締まりあり。ローム粒を多量に含む。
 3 暗褐色土: 硬質。締まりあり。プロック状のローム粒を含む。
 4 褐色土: 色調明るい。やや軟質。締まりあり。ローム粒を多量に含む。
 5 褐色土: やや軟質。締まりあり。ローム粒を多量に、小粒の
- ロームプロックを若干含む。 褐色土:硬質。締まりあり。ロームプロックを含む。

第191号土坑



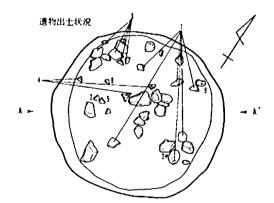


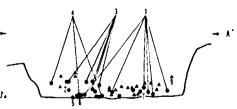


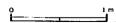


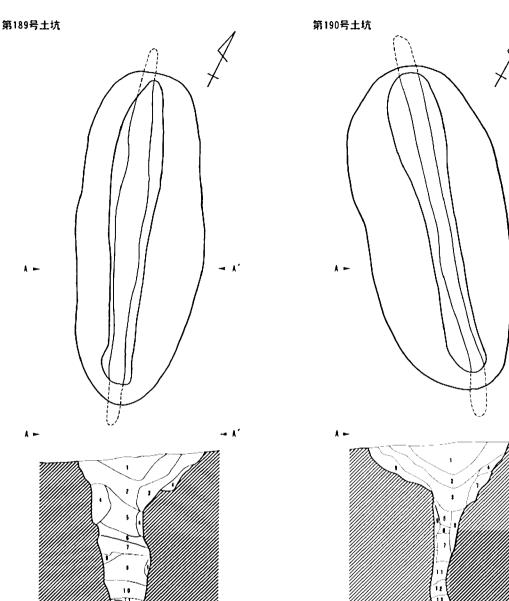
- 第188号土坑土層説明(A・A')

 1 黒褐色土:やや軟質。若干橙色スコリアを含む。
 2 晴褐色土:硬質。締まりあり。ローム粒・炭化物・橙色スコリアを含む。
 3 暗褐色土:2層に類すが、橙色スコリアは殆ど含まない。
 4 暗褐色土:やや砂質。ローム粒をやや多量に含む。
 5 晴褐色土:やや砂質。ローム粒を多量に含む。
 6 暗褐色土:若干ロームブロック・炭化物を含む。



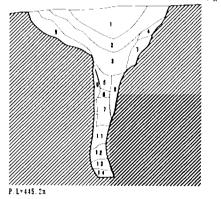






第189号土坑土層説明(A・A')

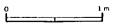
- 1 黒褐色土:岩干ローム粒を含む。
 2 暗褐色土:ローム粒・小粒のロームブロックを含む。
 3 暗褐色土:色調明るい。ローム粒を多量に、ブロック状のローム粒を若干含む。
- 褐色土:ロームブロック主体。 暗褐色土:ローム粒を多量に含む。 暗褐色土:ロームブロックを多量に含む。
- 暗褐色土: 5層に類し、ローム粒の割合がやや少ない。
- 暗褐色土: 4層と6層の中間。
- 9 暗褐色土:ややローム粒を含む。
- 10 褐 色 土:6 層に類しロームブロックを多量に含む。 11 暗褐色土:やや砂質。ローム粒は殆ど含まない。 12 褐 色 土:ロームブロック主体。



第190号土坑土層説明 (A・A´)

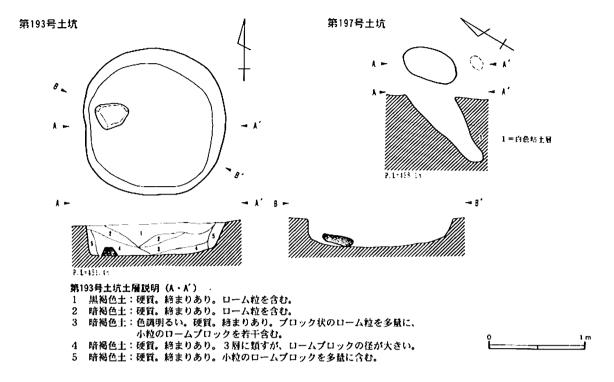
- 1 黒褐色土:若干ローム粒を含む。
 2 暗褐色土:ローム粒・小粒のロームブロックを含む。
 3 暗褐色土:色鯛明るい。ローム粒を多量に、プロック状の

- 9 褐色土:ロームブロック主体。 10 暗褐色土:6層と9層の中間。
- 10 福内巴上・0 層と9 間の平同。 11 褐色土:6 層に類し、ロームブロックを多量に含む。 12 暗褐色土:ややローム粒を含む。 13 褐色土:ロームブロック主体。 14 暗褐色土:やや砂質。ローム粒は殆ど含まない。



- A'

第32図 第189・190号土坑



第33図 第193 197号土坑

第192号土坑 (第31図)

位 置一下区中央部東側、Fq-52グリッドに位置する。重複関係…なし。規模・形状一長軸80cm・短軸55cmを測り、楕円形を呈する。深さは27cmを測り、断面形は箱状を呈する。遺 物一なし。

第193号土坑 (第33図)

位 置一F区北側中央、FI-49グリッドに位置する。また171号土坑に隣接する。重複関係一なし。規模・形状一長軸155cm・短軸146cmを測り、円形を呈する。深さは30cmを測り、断面形は箱状を呈する。また床面東部では大きめの自然磔が検出された。

第197号土坑 (第33図)

位 置一E区北端部西側、El-48グリッドに位置する。重複関係一なし。規模・形状一長軸51cm・短軸33cmを測り、楕円形を呈する。深さは73cmを測り、断面形はV字状を呈する。南壁は強くオーバーハングしている。備 考一本土坑はその形状や白色粘土層を買いていることなどから、第182号土坑と同様、粘土採掘坑の可能性も考えられる。遺 物一なし。

第2表 土坑一覧表(1)

型解析の 製造所 学 写知版 位 密			- 寛表(1)	,			
20						長軸×短帕×深さ伝	
19			·——				底面は溝状。陥し穴。
93	02	第19図	P L - 2	Ck-43	不整長方形	$265 \times 89 \times -$	
おわり PL - 3 Cl - 4 日 日 日 日 日 日 日 日 日	03	_		Cj-41	隅丸長方形	$261 \times 140 \times -$	陥し穴。
部19周 PL-3 Cl-45 部 円 形 31 × 144 × 91 ジェト内より容出上。陥し穴。	04	第19図	P L - 2	CI-46	分銷形	232 × 64 × -	陥し穴。
60 一 PL-3 CP-40 本稿的川彩 292 × 292 × 三 294 本 295 × 三 31918 PL-3 Cp-42 円 形 155 × 140 × 二 31918 PL-3 Cp-42 円 形 155 × 140 × 二 31918 PL-3 Cp-42 円 形 115 × 164 × 二 31918 PL-3 Cp-42 円 形 115 × 164 × 二 3114 × 16	05	第19図	P L - 3	CI-45	桁 円 形		
10	06	_	_	Cl-40			
83 日 19 19 19 20 20 19 16 18 18 18 10 10 10 10 10	07	_	P L - 3	CD-40			
99	08						
10					·		
11			,				RA L size
12							·
13							
14							
15							低血は薄状。Tピットか。
16							
17 第20回 PL - 1 Cq - 43 分別 形 285 × 113 × 一 ピット内より開出土。陥し穴。 18 一 PL - 5 Cq - 42 円 形 162 × 112 × 一 1 1 1 1 1 1 1 1 1							
18							
19	17	第20図	P L - 4	Cq-43	分 銅 形	$285 \times 113 \times -$	ピット内より磔出土。陥し穴。
20	18		P L - 5	Cq-42	円形	162 × 142 × -	
20	19		P L - 5	Cr-43	桁 円 形	122 × 71 × -	
21 一 PL-5 Cs-42 内 円 下 Cs-42 内 円 下 158 × 80 × 一 PL-5 Cs-43 内 円 下 158 × 72 × 一 M L 穴。 原面は消状。 T ピット。 23 ー PL-5 Cs-43 内 列 形 198 72 × 90 × 一 M L 穴。 24 第20図 PL-5 Ct-43 内 円 形 166 × 121 × 119 底面は高丸及方形。 M L 穴。 E m L 内 の。 M L 穴。 E m L 内 の。 M L 穴。 25 第20図 PL-6 Db-44 月 形 円 形 166 × 121 × 119 底面は高丸及方形。 M L 穴。 E m L 内 の。 E m L 内 の。 E m L 穴。 M L 穴。 26 ー PL-6 Db-44 月 所 1 形 成 上 方	20						陷し穴。
22 - PL-5	21						
23							ESPHICALLINO T @ \ LO
24 第20図 PL-5 Ct-46 桁 円 形 226 × 179 × 152 底面は腐丸長方形。陥し穴。 25 第20図 PL-6 Da-45 桁 円 形 166 × 121 × 119 底面は腐丸長方形。陥し穴。 PL-6 Db-44 円 形 240 × 216 × 一 底面は腐丸長方形。陥し穴。 PL-6 Db-44 円 形 215 × 115 × 一 底面は腐丸長方形。陥し穴。 PL-6 Da-41 展丸長方形 168 × 81 × 一 成し穴。 Da-40 不整桁円形 307 × 228 × 一 Db-40 不整桁円形 307 × 228 × 一 Db-40 不整桁円形 307 × 228 × 一 Db-40 不整桁円形 310 × 119 × 一 底面は商林、下ピット。 31							80.1 (A)
25 第20図 PL-6 Da-45 桁 円 形 166 × 121 × 119 底面は関丸及方形。陥し穴。 26							
26 一 PL-6 Db-44 門 形 240 × 216 × 一 感面は関丸技方形。陥し穴。 27 一 PL-6 Ct-41 長格円形 215 × 115 × 一 底面は消状。 Tピット。 28 一 PL-6 Da-41 展地皮が形 168 × 81 × 一 施し穴。 29 一 Db-40 不整楕円形 307 × 228 × 一 助し穴。 30 一 PL-6 Ct-39 長楕円形 307 × 228 × 一 底面は消状。 Tピット。 31 一 PL-6 Bg-38 長楕円形 310 × 119 × 一 底面は消状。 Tピット。 32 一 PL-6 Bg-40 桁 円 形 163 × 88 × 一 底面は消状。 Tピット。 34 一 PL-7 Bs-40 桁 円 形 174 × 74 × 一 下位へ。 35 一 PL-7 Cb-43 隅丸皮方形 174 × 74 × 一 下位へ。 36 一 PL-7 Cc-44 隅丸皮方形 110 × 72 × 一 配し穴。 37 一 PL-7 Cc-44 隅丸皮方形 110 × 72 × 一 配し穴。 39 一 PL-7 Cc-48 板 円 形 161 × 92 × 一 底面は消状。 Tピット。 40 ー PL-8 Ch-48							
27 一 PL-6 Ct-41 長梢円形 215 × 115 × 一 施面は消状。Tビット。 28 一 PL-6 Da-41 廃丸皮が形 168 × 81 × 一 協し穴。 30 一 PL-6 Db-40 不整桁円形 291 × 107 × 一 腕面は消状。Tビット。 30 一 PL-6 Ct-39 長楕円形 291 × 107 × 一 腕面は消状。Tビット。 31 一 PL-6 Bo-38 長楕円形 300 × 109 × 一 腕面は消状。Tビット。 32 一 PL-6 Bg-38 長楕円形 310 × 119 × 一 腕面は消状。Tビット。 33 一 PL-7 Bs-40 楕円形 163 × 88 × 一 腕面は耐状。Tビット。 34 一 PL-7 Cb-38 腐丸皮が形 174 × 74 × 一 M 上次。 ML穴。 35 一 PL-7 Cb-43 腐丸皮が形 105 × 66 × 一 施口穴。 桶し穴。 36 一 PL-7 Cc-43 腐丸皮が形 131 × 87 × 一 桶し穴。 桶し穴。 38 一 PL-7 Cc-46 腐丸皮が形 110 × 72 × 一 桶し穴。 桶し穴。 40 一 PL-7 Cd-48 接 円 形 161 × 92 × 上 施面は流水 上 施面は消状。Tビットか。 41 一 PL-8 Ci-48 接 旧 形 135 × 55 × 一 桶でが開 上 施面は消状。Tビットか。 43 第19図 PL-8 Ci-47 有 円 形 156 × 105 × 上 旅価は消状。Tビットか。 <t< td=""><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></t<>							
28 - PL-6 Da-41 腐丸皮が形 168 × 84 × - 協し穴。 29 - Db-40 不整備円形 307 × 228 × - 協師は清状。Tピット。 30 - PL-6 Bc-39 技術円形 307 × 228 × - 協師は清状。Tピット。 31 - PL-6 Bc-38 技術円形 350 × 109 × - 協師は清状。Tピット。 32 - PL-6 Bq-38 技術円形 310 × 119 × - 協師は清状。Tピット。 33 - PL-7 Bg-40 梢 円形 163 × 88 × - 協師は清状。Tピット。 35 - PL-7 Bs-40 梢 円形 174 × 47 × - 協し穴。 36 - PL-7 Cc-43 腐丸皮が形 105 × 66 × - 協し穴。 協し穴。 37 - PL-7 Cc-44 腐丸皮が形 182 × 72 × - 協し穴。 協し穴。 39 - PL-7 Cc-45 腐丸皮が形 110 × 72 × - 協し穴。 協し穴。 40 - PL-7 Cc-48 指 円形 161 × 92 × - 協価は流れした。 協価は流れした。 41 - PL-8 Ch-48 技術円形 121 × 90 × - 協価は満れ、Tピット。 43 第19図 PL-8 Ch-47 精 円形 156 × 105 × - 協価は満れ、Tピット。 協価は満れ、Tピット。 44 第19回 PL-8 Ch-47 精 円形 132 × 131 × - 協価は満れ、Tピット。 <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td>							
29 - Db-40 不整楕円形 307 × 228 × - 庭前は清状、Tピット。 30 - PL-6 Ct-39 長楕円形 291 × 107 × - 庭前は清状、Tピット。 31 - PL-6 Bo-38 長楕円形 350 × 109 × - 庭前は清状、Tピット。 32 - PL-6 Bg-40 桁 円形 163 × 88 × - 庭面は南大、Tピット。 33 - PL-7 Bs-40 桁 円形 174 × 109 × - 庭面は南大長方形。陥し穴。 34 - PL-7 Cb-38 腐丸皮方形 174 × 74 × - 偏し穴。 36 - PL-7 Cb-48 腐丸皮方形 135 × 66 × - 陥し穴。 37 - PL-7 Cc-45 腐丸皮方形 131 × 37 × - 陥し穴。 38 - PL-7 Cc-46 腐丸皮方形 131 × 37 × - 陥し穴。 40 - PL-7 Cc-48 指 円形 161 × 92 × - 庭面は消状。Tピットか。 41 - PL-8 Cc-49 技 円形 249 × 89 × - 庭面は消状。Tピットか。 42 - PL-8 Cc-47 イ 所用 139 × 88 × - 廃山は南は南は市状。Tピットか。 43<							
30							陥し穴。
31							
31	30		P L - 6	Ct-39	長楕円形	291 × 107 × -	底面は満状。Tピット。
33	31	-	P L - 6	Bo-38	長楕円形	350 × 109 × -	底面は消状。Tピット。
33	32	-	P L - 6	Bq-38	長楕円形	310 × 119 × -	底面は満状。Tピット。
34	33	_	P L - 6	Bq-40	桁 円 形		
35	34						
36 - PL-7 Cd-43 関丸長方形 105 × 66 × - 協し穴。 37 - PL-7 Ce-44 関丸長方形 182 × 72 × - 協し穴。 38 - PL-7 Ce-45 関丸長方形 131 × 87 × - 協し穴。 39 - PL-7 Cf-46 國丸長方形 110 × 72 × - 協し穴。 40 - PL-7 Cd-48 楕 円 形 161 × 92 × - 庭面は潜丸、Tビットか。 41 - PL-7 Ce-48 技格 円 形 249 × 89 × - 庭面は潜水。Tビットか。 42 - PL-8 Ch-48 不整楕円形 121 × 90 × - 協口穴。 43 第19図 PL-8 Ch-49 関丸長方形 139 × 88 × - 協し穴。 協し穴。 44 第19図 PL-8 Ci-47 福 円 形 156 × 105 × - 庭面は潜水。Tビットか。 協而は常丸方形。協し穴。 45 - PL-8 Ci-47 長 格 円 形 312 × 131 × - 庭面は潜水。工世ットか。 庭面は潜水。工世ットか。 47 - PL-8 Ch-46 風丸長方形。279 × 127 × - 庭面は清水。工世ットの。 庭面は清水。工世ットの。 48 - PL-8 Ch-44 技 格 円 形 287 × 129 × - 庭面は清水。工世ットの。 50 - PL-8 Ci-							
37							
38							
39							
40 一 PL-7 Cd-48							
41 - PL-7 Ce-48 長楕円形 249 × 89 × - 底面は満状。Tビットか。 42 - PL-8 Ch-48 不整楕円形 121 × 90 × - 43 第19図 PL-8 Ci-49 関丸長方形 139 × 88 × - 陥し穴。 44 第19図 PL-8 Ch-47 桁 円 形 156 × 105 × - 底面は隅丸長方形。陥し穴。 45 - PL-8 Ci-47							
42 - PL-8 Ch-48 不整桁円形 121 × 90 × - B丸長方形 139 × 88 × - 協し穴。 44 第19図 PL-8 Ch-47 桁 円 形 156 × 105 × - 底面は関丸長方形。協し穴。 45 - PL-8 Ch-47 不整楕円形 135 × 55 × - 倒木痕か。 46 - PL-8 Ch-47 長桁 円形 312 × 131 × - 底面は清状。Tピットか。 47 - PL-8 Ch-46 関丸長方形 279 × 127 × - 底面は清状。Tピットか。 48 - PL-8 Ch-46 長桁 円形 253 × 105 × - 底面は清状。Tピットの。 49 - PL-8 Ci-44 長楕 円形 287 × 129 × - 底面は清状。Tピット。 50 - PL-9 Ci-42 長楕 円形 233 × 90 × - 底面は清状。Tピット。 51 - PL-9 Cf-41 長楕 円形 191 × 72 × - 底面は清状。Tピット。 52 - - Cj-41 長楕 円形 167 × 130 × - 陥し穴か。 53 - PL-9 Ct-45 円形 72 × 65 × - 路し穴か。 54 - PL-9 Ct-45 長楕円形? 228		+					
## 第19図 PL-8 Ci-49 関丸長方形 139 × 88 × 一 略し穴。 ## 第19図 PL-8 Ch-47 権 円 形 156 × 105 × 一 底面は関丸長方形。略し穴。 ## 円 形 156 × 105 × 一 底面は関丸長方形。略し穴。 ## 円 形 135 × 55 × 一 倒木痕か。 ## 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日		-					低面は溝状。Tピットか。
44 第19図 PL-8 Ch-47 楷 円 形 156 × 105 × 一 底面は関丸長方形。陥し穴。 45 — PL-8 Ci-47 不整楕円形 135 × 55 × 一 倒木痕か。 46 — PL-8 Ch-47 長 桁 円 形 312 × 131 × 一 底面は消状。 Tピットか。 47 — PL-8 Ch-46 関丸長方形 279 × 127 × 一 底面は分射形。北側ピット内より礫出土。陥し穴。 48 — PL-8 Ch-46 長 桁 円 形 253 × 105 × 一 底面は消状。 Tピット。 49 — PL-8 Ci-44 長 桁 円 形 287 × 129 × 一 底面は消状。 Tピット。 50 — PL-9 Ci-42 長 桁 円 形 233 × 90 × 一 底面は消状。 Tピット。 51 — PL-9 Ci-41 長 桁 円 形 191 × 72 × 一 52 — Cj-41 不整楕円形 146 × 73 × 一 53 — PL-9 Cp-47 楷 円 形 167 × 130 × — 陥し穴か。 54 — PL-9 Ct-45 円 形 72 × 65 × — 55 第20図 PL-5 Ct-46 長楕円形? 228 × — × (126) 底面は消状。 Tピット。 56 — PL-9 Ct-38 円 形 134 × 115 × — 57 — Cp-43 桁 円 形 126 × 93 × — 58 — Dj-49 円 形 201 × 172 × — 59 次						$121 \times 90 \times -$	
44 第19図 PL-8 Ch-47 楷 円 形 156 × 105 × 一 底面は関丸長方形。陥し穴。 45 — PL-8 Ci-47 不整楕円形 135 × 55 × 一 倒木痕か。 46 — PL-8 Ch-47 長 桁 円 形 312 × 131 × 一 底面は消状。 Tピットか。 47 — PL-8 Ch-46 関丸長方形 279 × 127 × 一 底面は分射形。北側ピット内より礫出土。陥し穴。 48 — PL-8 Ch-46 長 桁 円 形 253 × 105 × 一 底面は消状。 Tピット。 49 — PL-8 Ci-44 長 桁 円 形 287 × 129 × 一 底面は消状。 Tピット。 50 — PL-9 Ci-42 長 桁 円 形 233 × 90 × 一 底面は消状。 Tピット。 51 — PL-9 Ci-41 長 桁 円 形 191 × 72 × 一 52 — Cj-41 不整楕円形 146 × 73 × 一 53 — PL-9 Cp-47 楷 円 形 167 × 130 × — 陥し穴か。 54 — PL-9 Ct-45 円 形 72 × 65 × — 55 第20図 PL-5 Ct-46 長楕円形? 228 × — × (126) 底面は消状。 Tピット。 56 — PL-9 Ct-38 円 形 134 × 115 × — 57 — Cp-43 桁 円 形 126 × 93 × — 58 — Dj-49 円 形 201 × 172 × — 59 次						139 × 88 × -	
45 - PL-8 Ci-47 不整楕円形 135 × 55 × - 倒木痕か。 46 - PL-8 Ch-47 長楕円形 312 × 131 × - 底面は清状。Tピットか。 47 - PL-8 Ch-46 関丸長方形 279 × 127 × - 底面は清状。Tピットか。 48 - PL-8 Ch-46 長楕円形 253 × 105 × - 底面は清状。Tピット。 49 - PL-8 Ci-44 長楕円形 287 × 129 × - 底面は清状。Tピット。 50 - PL-9 Ci-42 長楕円形 233 × 90 × - 底面は清状。Tピット。 51 - PL-9 Cf-41 長楕円形 191 × 72 × - 52 - Cj-41 長楕円形 146 × 73 × - 53 - PL-9 Cp-47 楕円形 167 × 130 × - 路し穴か。 54 - PL-9 Ct-45 円形 72 × 65 × - おし穴か。 55 第20図 PL-5 Ct-46 長楕円形 228 × - ×(126) 底面は清状。Tピット。 56 - PL-9 Ct-38 円形 134 × 115 × - おははまた。 57 - Dj-49 円形 126 × 93 × - おははまた。 59 次 番	44					$156 \times 105 \times -$	底面は隅丸長方形。陥し穴。
47 - PL-8 Ch-46 関丸長方形 279 × 127 × - 底面は分銅形。北側ピット内より砕出土。陥した。 48 - PL-8 Ch-46 長楕円形 253 × 105 × - 底面は消状。Tピット。 49 - PL-8 Ci-44 長楕円形 287 × 129 × - 底面は消状。Tピット。 50 - PL-9 Ci-42 長楕円形 233 × 90 × - 底面は消状。Tピット。 51 - PL-9 Cf-41 長楕円形 191 × 72 × - 52 - - Cj-41 不整楕円形 146 × 73 × - 53 - PL-9 Cp-47 楕円形 167 × 130 × - 陥し穴か。 54 - PL-9 Ct-45 円形 72 × 65 × - 55 第20図 PL-5 Ct-46 長楕円形? 228 × - ×(126) 底面は消状。Tピット。 56 - PL-9 Ct-38 円形 134 × 115 × - 57 - - Cp-43 桁円形 126 × 93 × - 58 - - Dj-49 円形 201 × 172 × - 59 次 番	45			Ci-47		135 × 55 × —	倒木痕か。
47 - PL-8 Ch-46 関丸長方形 279 × 127 × - 底面は分銅形。北側ピット内より砕出土。陥した。 48 - PL-8 Ch-46 長楕円形 253 × 105 × - 底面は消状。Tピット。 49 - PL-8 Ci-44 長楕円形 287 × 129 × - 底面は消状。Tピット。 50 - PL-9 Ci-42 長楕円形 233 × 90 × - 底面は消状。Tピット。 51 - PL-9 Cf-41 長楕円形 191 × 72 × - 52 - - Cj-41 不整楕円形 146 × 73 × - 53 - PL-9 Cp-47 楕円形 167 × 130 × - 陥し穴か。 54 - PL-9 Ct-45 円形 72 × 65 × - 55 第20図 PL-5 Ct-46 長楕円形? 228 × - ×(126) 底面は消状。Tピット。 56 - PL-9 Ct-38 円形 134 × 115 × - 57 - - Cp-43 桁円形 126 × 93 × - 58 - - Dj-49 円形 201 × 172 × - 59 次 番	46		P L - 8	Ch-47	長楕円形	312 × 131 × -	底面は清状。Tピットか。
48 - PL-8 Ch-46 長楕円形 253 × 105 × - 底面は潜状。Tピット。 49 - PL-8 Ci-44 長楕円形 287 × 129 × - 底面は潜状。Tピット。 50 - PL-9 Ci-42 長楕円形 233 × 90 × - 底面は潜状。Tピット。 51 - PL-9 Cf-41 長楕円形 191 × 72 × - 52 - - Cj-41 不整楕円形 146 × 73 × - 53 - PL-9 Cp-47 楕円形 167 × 130 × - 路し穴か。 54 - PL-9 Ct-45 円形 72 × 65 × - - 55 第20図 PL-5 Ct-46 長楕円形? 228 × - × (126) 底面は潜状。Tピット。 56 - PL-9 Ct-38 円形 134 × 115 × - 57 - - Cp-43 楕円形 126 × 93 × - 58 - - Dj-49 円形 201 × 172 × - 59 次 番							
49 - PL-8 Ci-44 長楕円形 287 × 129 × - 底面は滞状。Tピット。 50 - PL-9 Ci-42 長楕円形 233 × 90 × - 底面は滞状。Tピット。 51 - PL-9 Cf-41 長楕円形 191 × 72 × - 52 - - Cj-41 不整楕円形 146 × 73 × - 53 - PL-9 Cp-47 楕円形 167 × 130 × - 路し穴か。 54 - PL-9 Ct-45 円 形 72 × 65 × - - 55 第20図 PL-5 Ct-46 長楕円形? 228 × - ×(126) 底面は溝状。Tピット。 56 - PL-9 Ct-38 円 形 134 × 115 × - 57 - - Cp-43 桁 円 形 126 × 93 × - 58 - - Dj-49 円 形 201 × 172 × - 59 次 番			- +		+		
50 一 PL-9 Ci-42 長楕円形 233 × 90 × 一 底面は潜状。Tピット。 51 一 PL-9 Cf-41 長楕円形 191 × 72 × 一 52 一 Cj-41 不整楕円形 146 × 73 × 一 53 一 PL-9 Cp-47 楕円形 167 × 130 × 一 陥し穴か。 54 一 PL-9 Ct-45 円 形 72 × 65 × 一 55 第20図 PL-5 Ct-46 長楕円形? 228 × 一 × (126) 底面は清状。Tピット。 56 一 PL-9 Ct-38 円 形 134 × 115 × 一 57 一 Cp-43 稲 円 形 126 × 93 × 一 58 ー Dj-49 円 形 201 × 172 × 一 59 次							
51 - PL-9 Cf-41 長楕円形 191 × 72 × - 52 - Cj-41 不整楕円形 146 × 73 × - 53 - PL-9 Cp-47 楕円形 167 × 130 × - 陥し穴か。 54 - PL-9 Ct-45 円形 72 × 65 × - 55 第20図 PL-5 Ct-46 長楕円形? 228 × - ×(126) 底面は満状。Tピット。 56 - PL-9 Ct-38 円形 134 × 115 × - 57 - Cp-43 楕円形 126 × 93 × - 58 - Dj-49 円形 201 × 172 × - 59 次番		t					
52 - Cj-41 不整楕円形 146 × 73 × - 53 - P L - 9 Cp-47 楕 円 形 167 × 130 × - 陥し穴か。 54 - P L - 9 Ct-45 円 形 72 × 65 × - 55 第20図 P L - 5 Ct-46 長楕円形? 228 × - × (126) 底面は溝状。Tピット。 56 - P L - 9 Ct-38 円 形 134 × 115 × - 57 - - Cp-43 楕 円 形 126 × 93 × - 58 - - Dj-49 円 形 201 × 172 × - 59 次 番							ENERGY AND ICY FO
53 - PL-9 Cp-47 楕 円 形 167 × 130 × - 防し穴か。 54 - PL-9 Ct-45 円 形 72 × 65 × - 55 第20図 PL-5 Ct-46 長楕円形? 228 × - ×(126) 底面は満状。Tピット。 56 - PL-9 Ct-38 円 形 134 × 115 × - 57 - - Cp-43 楕 円 形 126 × 93 × - 58 - - Dj-49 円 形 201 × 172 × - 59 次 番							
54 - PL-9 Ct-45 円 形 72 × 65 × - 55 第20図 PL-5 Ct-46 長楕円形? 228 × - × (126) 底面は消状。Tピット。 56 - PL-9 Ct-38 円 形 134 × 115 × - 57 - - Cp-43 桁 円 形 126 × 93 × - 58 - - Dj-49 円 形 201 × 172 × - 59 次 番						140 × /3 × -	The banks of
55 第20図 P L - 5 Ct - 46 長楕円形? 228 × - × (126) 底面は溝状。Tピット。 56 - P L - 9 Ct - 38 円 形 134 × 115 × - 57 - Cp - 43 桁 円 形 126 × 93 × - 58 - - Dj - 49 円 形 201 × 172 × - 59 欠 番							怕しべか。
56 一 P L - 9 Ct - 38 円 形 134 × 115 × - 57 一 Cp - 43 桁 円 形 126 × 93 × - 58 一 Dj - 49 円 形 201 × 172 × - 59 欠 番							
57 — — Cp-43 桁 円 形 126 × 93 × — 58 — Dj-49 円 形 201 × 172 × — 59 欠 番							匹面は溝状。Tピット。
58 - - Dj-49 円 形 201 × 172 × - 59 欠 番		-					
59 欠 番							
······································	58		_	Dj-49	円 形	201 × 172 × -	
60 — DI-48 楕円形 III × 78 × —	59		欠	番			
	60	_	_	D1-48	桁 門 形	111 × 78 × -	

第3表 土坑一覧表(2)

第3表	土坑一	· 寛表(2)				
遺構番号	図版番号	写真図版	位 置	平面形	長軸×短軸×深さ伝	備考
61			DI-53	桁 円 形	192 × 140 × -	底面は隅丸長方形。陥し穴。
62	-	P L-9	Dm-53	格 円 形	251 × 181 × -	
63	_	P L - 9	Dm-52	稍 円 形	226 × 140 ×	底面は隅丸長方形。陥し穴。
64	_	P L -10	Dm-52	分銅形	230 × 102 × -	陥し穴。
65	第21図	P L-10		隅丸長方形		陥し穴。
66		P L-10		隅丸長方形		底面は分銅形。陥し穴。
67		P L-10		隅丸長方形		底面は分銅形。陥し穴。
68		P L-10		桁 円 形		底面は隅丸長方形。陥し穴。
69		欠	番	1		
70	_	P L-10		長楕円形	$237 \times - \times -$	底面は溝状。Tピットか。
71	_	P L-10		不整楕円形	95 × 62 × -	
72		P L-10		不 明	- × - × -	
73		P L-11		隅丸長方形	257 × 137 × 45	ピット内より磔出土。陥し穴。
74		P L-11				陥し穴。
75		P L -11	Cl-42	楕 円 形	108 × 82 × -	
76	_	P L-11		隅丸方形	119 × 86 × -	10.74
77	_	P L-11		楕 円 形	102 × 58 ×	
78	第21図	P L-11	Ek-55	指円形		底面は隅丸長方形。陥し穴。
79			Ek-55	円形	87 × 77 × -	
80	_		El-54	不整円形		
81			El-50	隅丸長方形		陥し穴か。
82	第21図	P L-11	Ej-55	捐 円 形		陷し穴。
83	_		Em-51	長楕円形		
84	31221x1	P L-12		分銅形		陥し穴。
85	第22図	_	En-53	円形	96 × 92 × 61	
86	7/22		Eo-54	不明	- × - × -	
87	_		Eo-55	阔丸方形		
88	第22図	_	Eo-55	円形	69 × 60 × -	
89	7/00 24		Ep-55	桁 円 形	126 × 70 × -	
90	第22図		Ep-54	不明	- × - × -	
91	第22図	P L-12		稍 円 形		底面は隅丸長方形。陥し穴。
92	第23図	P L-12		隅丸長方形		底面は分割形。陥し穴。
93	第23図	P L -12		円形	92 × 85 × 72	ACTION IN THE PARTY OF THE PART
94	第22図	P L -12		梢円形		底而は隅丸長方形。陥し穴。
95	第23図	P L -12		指 円 形		底面は隅丸長方形。陥し穴。
96		P L -12		隅丸長方形		陷し穴。
97	第23図	P L -13		楕円形		底面は分銅形。陥し穴。
98		_	Ep-47	不整円形		**************************************
99		欠	番	11 11:1710	31 // 00 //	
100	第24図	P L-13		不整形	140 × 85 × 24	炉穴。
101	第22図		Ek-55	隅丸長方形		, , ,
102		P L-13		円 形		炎 状土坑。
103	740 1121	欠	番	1 10	1 ,2	P = V ==000 / NV
104	第24図	P L-13		楕 円 形	186 × 137 × -	底面は隅丸長方形。陥し穴。
105		_	Er-46	桁 円 形		
106	第24図	P L-14		桁円形		炉穴。
107	— M124121	<u> </u>	Eq-53	不明		<u> </u>
108		P L-14		不整形		炉 穴。
109	第24図	P L-14	 	桁 円 形		底面は隅丸長方形。陥し穴。
110	Mirani	欠	番	1111 13 10	200 11 201 11	THE WAY AND THE AND TH
111		^	Es-55	円 形	98 × 81 × -	
112			Es-54	桁 円 形		
113	第25図	_	Es-54	指 円 形		炉穴。
114			Es-54	格 円 形		
115	第25図		Et-56	指 円 形		底面は隅丸長方形。陥し穴。
116	7/20121	- 14	Et-48	不整形		THE PROPERTY OF THE WAY OF
117	第25図		Fa-49	隅丸長方形		路上次。
118	2127/E	P L -14				底面は隅丸長方形。陥し穴。
119	_	—	Et-47	不明		TERM THICK MENTALING THE AVIO
120	_	P L-14			211 × 118 × -	路し穴。
120	L	1 17	1.0 70	11517 634 /3117	1 3 110 /	[m + / 10

第4表 土坑一覧表(3)

555 4 2 55	-T-7/1-	- 覧表(3)					
遺構番号	図版番号	写真図版	位置	平面形	長軸×短軸×深さ伝)	備	考
121	_		Fb-49	円 形	58 × 50 ×		-
122	_	_	Fb-49	不整楕円形			
123		-	Fb-50	隅丸方形	80 × 72 × -		
124		_	Fb-50	不整形	88 × 76 × -		
125			Fc-54	楕円形		底面は隅丸長方形。陥し穴。	
126	第25国		Fd-51	楕 円 形	201 × 135 × -	成面は隅丸長方形。陥し穴。	
127	第25図	_	Fd-50	長楕円形	233 × 81 × -	WEIGHT TO PROPERTY OF MINE OF CO.	
128	7/20/24	_	Fc-49	不整形	311 × (261) × -	-	
129	第25図	P L-15	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	精円形		庭面は隅丸長方形。陥し穴。	
130	第25図	P L -15		指 円 形	100 × 114 × 150	底面は隅丸長方形。陥し穴。	
131	A150191	P L -15		桁 円 形	175 × 199 ×	底面は隅丸長方形。陥し穴。	
132		P L-15		格円形	1/3 × 122 × -	庭面は隅丸長方形。陥し穴。	
133	第25図	P L -15		門形	$\frac{147 \times 111 \times -}{189 \times 185 \times -}$	医園は神込は火力形。相し八。	
134	第25区	P L -16		分射形	229 × 75 × —	P// 1 (1)	
135	第26図	P L-16		桁 円 形			
136	分320区	P L-16				庭面は隅丸長方形。陥し穴。	
·——	ATOCKA			分銅形	180 × 89 × -	陥し穴。	
137	第26図	P L -16		格門形	102 × 74 × 32	Martin A Arawa na	
138		P L -16		隅丸長方形		底面は分銅形。陥し穴。	
139	— ***00F4	P L-16		隅丸長方形		底面は分銅形。陥し穴。	
140	第26図		Dr-55	不整形	196 × 146 × 21		
141	——————————————————————————————————————	P L -16		隅丸長方形		陥し穴。	
142		P L-16		精 円 形		底面は分銅形。陥し穴か。	
143	第26図		Eb-56	隅丸方形		住居址の可能性あり。	
144	第27図	P L-17		梢 円 形		底面は隅丸長方形。陥し穴。	
145			Ec-55	不 整 形		倒木痕か。	
146	第26図	P L-17		円 形	$128 \times 113 \times 22$		
147		欠	番				
148		P L-17		隅丸長方形		陥し穴。	
149	第27図		Dg-51	不整楕円形		倒木痕か。	
150			Df-52	不 塾 形	283 × 247 × -		
151	第27図		Dg-52	楕 円 形		陥し穴。	
152		P L-17		隅丸長方形		陥し穴。	
153		P L-17		楕 円 形	165 × 111 × —		
154		P L-17		隅丸長方形		陥し穴。	
155	第27図	P L -18		不整楕円形		炉穴。	
156			Dk-51	不 整 形	$342 \times 220 \times -$		
157	第28図		Dk-53	楕 円 形	$213 \times 107 \times 91$	底面は分銅形。陥し穴。	
158	第28図		Dk-53	梢 円 形	$143 \times 74 \times 36$		
159					223 × 73 × -		
160		P L-18	Ck-50	隅丸長方形	149 × 99 × 134	陥し穴。	
161		P L -18		梋 円 形	154 × 92 × 122	陥し穴。	-
162		P L-18	Co-50	桁 円 形	126 × 92 × 15		
163	第28図	P L-18	Cp-51	隅丸長方形	152 × 91 × 120	陥し穴。	-
164		P L-18		隅丸長方形		底面は分銅形。陥し穴。	
165		P L-18		長楕円形		底面は溝状。Tピット。	
166				隅丸長方形		陥し穴。	
167			Ct-47	長楕円形		底面は溝状。Tピット。	
168				桁 円 形	90 × 65 × -		
169		t		長楕円形		底面は溝状。Tピット。	
170	第30図			格 円 形		陥し穴。	
171				円形	210 × 202 × 90		· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·
172	_			格円形	182 × 74 × -		
173	第30図			不整円形	76 × 75 × 35		
174	_			円形	81 × 82 × -		. ,
175				円形	80 × 79 × -		
176				梢 円 形	138 × 94 × 32		
177		-		桁 円 形	$\frac{152 \times 65 \times 28}{}$		
178	_			指 円 形	$73 \times 52 \times -$		
179	第30図			指 円 形	127 × 86 × -		
180	+			開丸長方形	175 × 98 × -	路し穴。	
1.	l	- -	🕶	0237710		114 47 10	

第5表 土坑一覧表(4)

遺構番号	図版番号	写真図版	位置	平面形	長軸×魚	軸×深	さ(=)	備	考		
181	欠 番										
182	第30図	P L-20	Gb-54	隅丸方形	75 ×	70 ×	148	粘土採掘坑の可能性あり。			
183	_	_	Gb-55	権 円 形	70 ×	52 ×	_				
184		1	Ge-54	楕 円 形	131 ×	71 ×					
185		-	Gi-57	楕円形	120 ×	95 ×					
186	第31図	P L-20	Gi-58	円 形	169 ×	151 ×	63				
187			Gi-57	隅丸方形	103 ×	92 ×					
188	第31図	P L-20	Gi-58	円 形	181 ×	173 ×	52	集石土坑か。			
189	第32図	P L-21	Gg-54	長楕円形	345 ×	130 ×	172	底面は溝状。Tピット。			
190	第32図	P L-21	Gf-54	長楕円形	325 ×	148 ×	180	底面は溝状。Tピット。			
191	第31図		Fh-49	桁 円 形	90 ×	69 ×	51				
192	第31図	_	Fq-52	桁 円 形	80 ×	55 ×	27				
193	第33図	P L -21	F1-49	門形	155 ×	146 ×	30				
194		欠	番								
195	_	_	Dh-48	楕 円 形	120 ×	74 ×	_				
196		_	Es-48	不整楕円形	185 ×	146 ×	_				
197	第33図	P L-21	E1-48	楕 円 形	51 ×	33 ×	73	粘土採掘坑の可能性あり。			

2. 遺物

第2号土坑出土遺物(第35図)

1・2は同一個体とみられる。内外面に条痕を施すが、外面の施文は浅く不明瞭である。いずれも内面にススが付着し、胎土には繊維を含む。

第4号土坑出土遺物(第35図)

1は細隆起線により文様帯を横位区画し、口縁部文様帯・胴部文様帯の二帯構成を持つと考えられる。器形上の屈曲はみられない。文様帯内は沈線により区画文を施し、区画文内には沈線を充填する。 区画文の交点には刺突文を施す。胎土には微量の繊維を含む。

第8号土坑出土遺物(第34図)

1はほぼ完形の深鉢形土器で、口径40.6cm・器高48.5cmを測る。7単位の双頭の波状口縁で、口唇部はやや内削ぎ状を呈し、口唇部外面には刻みを施す。口縁部直下には幅狭の無文帯を持つ。胴部には2段の屈曲部を持ち、口縁部及び胴部の文様帯の下端を横位区画する。各文様帯の上端は横位の沈線により区画し、文様帯間は無文帯を挟む。口縁部・胴部の文様帯内はほぼ一つおきの波状口縁に対応して数条の沈線を垂下させて4単位に縦位区画する。縦位区画内は沈線により襷状構成の区画文を施し、更に「く」字状文や「い」字状文により襷状区画内を細分割する。区画文内には沈線を充填し、区画文の交点を中心に刺突文を施す。胴部下半は下段の屈曲部から丸底へと移行する。内外面には条痕を施すが、口縁部~胴部文様帯下端の間は文様を施す前に粗いナデを施して条痕を磨り消す。

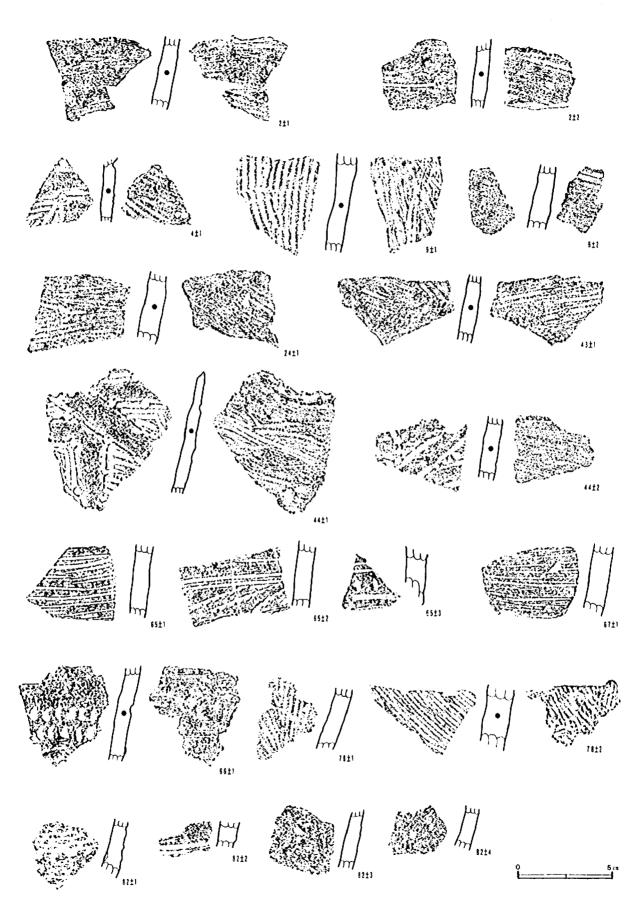
第9号土坑出土遺物(第35図)

1・2とも内外面に条痕を施す胴部破片だが、2の外面の条痕は浅く不明瞭である。1は胎土に繊維を含む。

第24号土坑出土遺物(第35図)

1は内外面に条痕を施し、胎土には繊維を微量に含む。





第35図 土坑出土土器②

第43号土坑出土遺物(第35図)

1は内外面に条痕を施すが、外面の条痕は浅く不明瞭である。胎土には繊維を含む。

第44号土坑出土遺物(第35図)

1は波状を呈する口縁部破片である。口唇部は内削ぎ状を呈し、口唇部外面に刻みを施す。細隆起線により襷状構成とみられる区画文を施し、区画内には沈線を充塡する。区画文の交点には刺突文を施す。2は沈線文により襷状構成とみられる区画文を施し、交点には刺突文を施す。器面が摩滅しているため充填文は不明である。いずれも内面には条痕を残し、胎土には微量の繊維を含む。

第65号土坑出土遺物 (第35図)

1は横位の集合沈線を施す。2は数条の沈線により区画文を施し、区画内には斜位の貝殻腹縁文を 充塡する。胎土には砂粒を多く含む。3は数条の平行細沈線により横位区画し、区画内上段には半月 状の刺突を、下段には太沈線を施す。いずれも内外面は丁寧に磨かれる。

第66号土坑出土遺物(第35図)

1 は縄による爪形の刺突状圧痕を横位に 2 条施し、以下は横位の隆帯を持つ。内面には条痕を施す。 胎土には繊維や片岩類を多量に含む。

第67号土坑出土遺物 (第35図)

1は横位の集合沈線を浅く施す。内外面は丁寧に磨かれる。

第78号土坑出土遺物(第35図)

1 は鋸歯状の集合沈線を施す。胎土には砂粒を多量に含む。器面の風化が著しい。 2 は内外面に条痕を施し、胎土には繊維を含む。

第82号土坑出土遺物 (第35図)

1は上部に横位に楕円押型文を施し、その端部にはくぼみがみられる。下部には1条の沈線を施す。 2は数条の横位沈線を施す。3・4は無文の胴部破片で、外面にナデを施すのみである。いずれも胎 土に繊維を含まず、1・3は砂粒を多量に含む。

第84号土坑出土遺物(第36図)

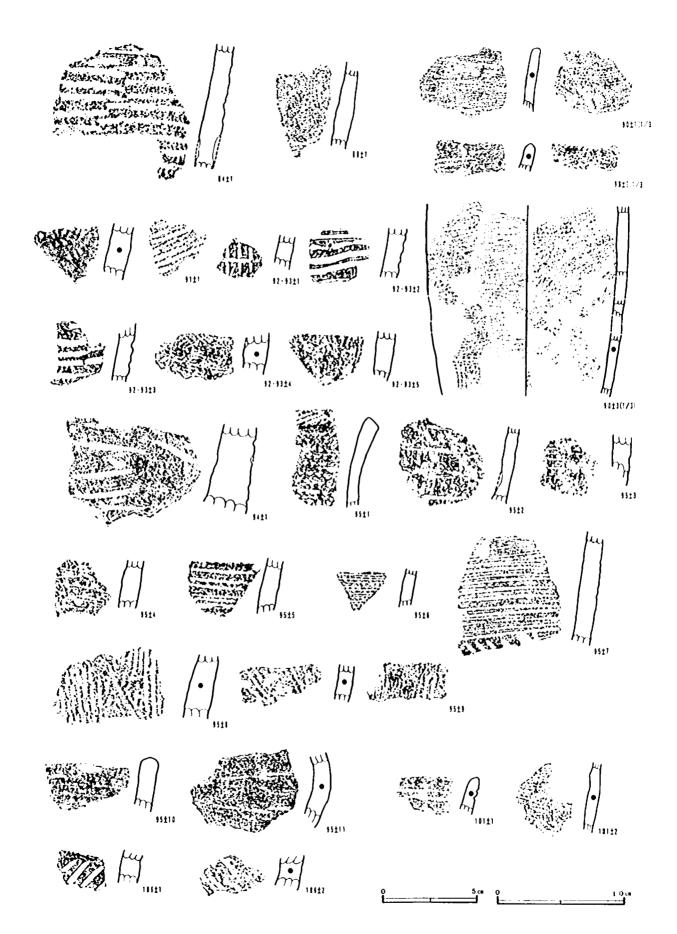
1は横位の細沈線を施し、以下は横位の集合太沈線を施した胴部下半の破片である。内外面とも器面の風化が著しい。

第88号土坑出土遺物(第36図)

1は外面にナデのみを施した無文の胴部破片である。胎土には繊維を含まず、砂粒を多く含む。

第90号土坑出土遺物(第36図)

1~3は同一個体である。底部から緩やかに開く器形とみられ、口唇部は丸頭状を呈する。内外面 に条痕を施し、外面の口縁部~胴部上半は横位、胴部下半は縦位に施す。胎上には繊維を含む。



第36図 土坑出土土器③

第91号土坑出土遺物 (第36図)

1は絡条体圧痕を施す胴部破片であり、横羽状に施文される。内面には条痕を施す。胎土には繊維を多量に含む。

第92・93号土坑出土遺物(第36図)

1はまず斜位の沈線を施文し、次に斜位沈線間に縦位の沈線を施文する。その後斜位沈線の上端に 横位沈線を施して格子目状の文様を構成する。2は沈線により横位区画し、区画内に波状の横位沈線 を施す。3は太めの沈線を横位に施す胴部下半の破片である。1~3は内外面が丁寧に磨かれる。4 は外面に条痕を施す胴部破片で、胎土には繊維を含む。5は内外面ともナデのみの無文の胴部破片で ある。胎土には繊維を含まず、砂粒をやや多く含む。

第94号土坑出土遺物 (第36図)

1は構~斜位の太沈線を施す底部付近の破片である。

第95号土坑出土遺物(第36図)

1は平縁の口縁部破片である。口唇部は外削ぎ状を呈し、上面に斜位の沈線を施す。口縁部文様帯は横位多段の貝殻腹縁文を模して、竹管状工具による刺突文を多段に施す。内外面とも丁寧に磨かれる。2~4は横位の沈線を施す。いずれも剝離が著しい。5は横位の集合沈線を施す。風化が著しい。6はミニチュア土器で、集合細沈線を施す。7は胴部中位から下半にかけての破片で、集合沈線により横位区画するとみられ、以下は斜位の太沈線を施す。8・9は条痕を施す胴部破片で、8は外面に、9は内外面に施す。いずれも胎土に繊維を含む。10は内外面にナデのみを施す無文の口縁部破片で、日唇部は丸頭状を呈する。11は内外面にナデのみを施す無文の胴部破片で、胎土に繊維を含む。

第101号土坑出土遺物(第36図)

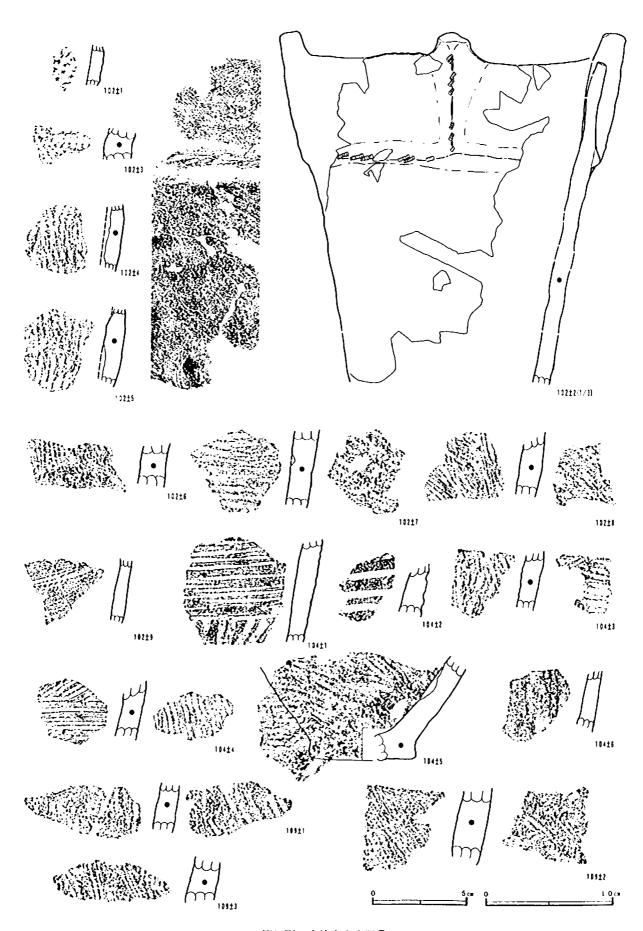
1は口縁部直下に横位の沈線を2条施し、口唇部はやや内削ぎ状を呈する。2は浅い条痕を施す。 いずれも胎土に繊維を含むが、2は微量である。

第102号土坑出土遺物(第37図)

1は楕円押型文を施す胴部破片である。2は底部から直線的に開く器形の深鉢形土器である。口縁部は4単位の棒状突起を持つとみられる。突起より断面三角形を基本とした太隆帯を垂下させ、同様の隆帯を横位に巡らせて口縁部文様帯を区画する。隆帯上及び口唇部には細い絡条体による刻みをまばらに施す。口縁部文様帯内には条痕を、胴部には擦痕をと異なる調整を施しており、口縁部文様帯の条痕文に装飾的な効果を持たせていると考えられる。胎土には繊維・砂粒を含む。3は横位の絡条体圧痕を施し、胎土には繊維を含む。4~9は条痕を施した胴部破片で、4・5は同一個体である。4~6・9は外面のみに、7・8は内外面に条痕を施す。4~8は胎土に繊維を含む。

第104号土坑出土遺物(第37・43図)

1は胴部中位~下半の破片で、横位集合沈線を施文し、以下は縦~斜位の太沈線を浅く施す。2は数条の横位の太沈線を施文する胴部下半の破片である。3・4は内外面に条痕を施す胴部破片である。5は外面に条痕を施す底部破片である。3~5は胎土に繊維を含む。6は内外面にやや丁寧なナデの



第37図 土坑出土土器④

みを施した無文の土器である。胎土には繊維を含まない。7は無斑晶安山岩製の石鏃である。長さ4.8 cm・幅3.7cm・厚さ1.1cm・重量17.6gを測る。

第106号土坑出土遺物(第36図)

1は斜位の太沈線を施文し、内外面は丁寧に磨かれる。2は外面に浅い条痕を施し、胎土には繊維を含む。

第108号土坑出土遺物(第38図)

1 は直線的に開く器形を持つ平縁の深鉢形土器である。口唇部は丸頭状を呈し、口縁部直下には斜位の絡条体圧痕文を施す。狭い口縁部文様帯には平行沈線により波状文を施し、直下に竹管状工具による連続刺突文を沿わせる。内外面に条痕を施し、胎土には繊維を含む。 2 は外面に条痕を施し、胎土には繊維を含む。 1 は内面に、 2 は外面にススが付着する。

第109号土坑出土遺物(第37図)

 $1 \sim 3$ は条痕を施す胴部破片で、 $1 \cdot 2$ は内外面に、3 は外面のみに施す。いずれも胎土には繊維を含むが、2 は砂粒も多く含む。

第113号土坑出土遺物(第38図)

1は横位沈線を施す口縁部破片で、口唇部は丸みを帯びた外削ぎ状を呈する。内外面は丁寧に磨かれる。

第115号土坑出土遺物(第38図)

1は横位の貝殻腹縁文を施し、以下は2条の横位の沈線を施す。沈線間には刺突文を充塡する。2 は横位の絡条体圧痕を数段施文する。3は内外面に条痕を施文後、櫛歯状工具ないし貝殻腹縁とみられる施文具により斜位の刺突をランダムに施す。4は山形を呈する波状口縁部破片で、口唇部は丸頭状を呈し、内外面に条痕文を施す。5~8は条痕を施す胴部破片で、5・6は内外面に、7・8は外面のみに施す。5・8の条痕は浅くまばらである。9~11は同一個体で、外面に粗い擦痕を施す。2~11はいずれも胎土に繊維を含む。12はナデのみを施した無文の口縁部破片で、口唇部は丸頭状を呈する。胎土は砂粒を多く含み、繊維を含まない。

第117号土坑出土遺物(第39図)

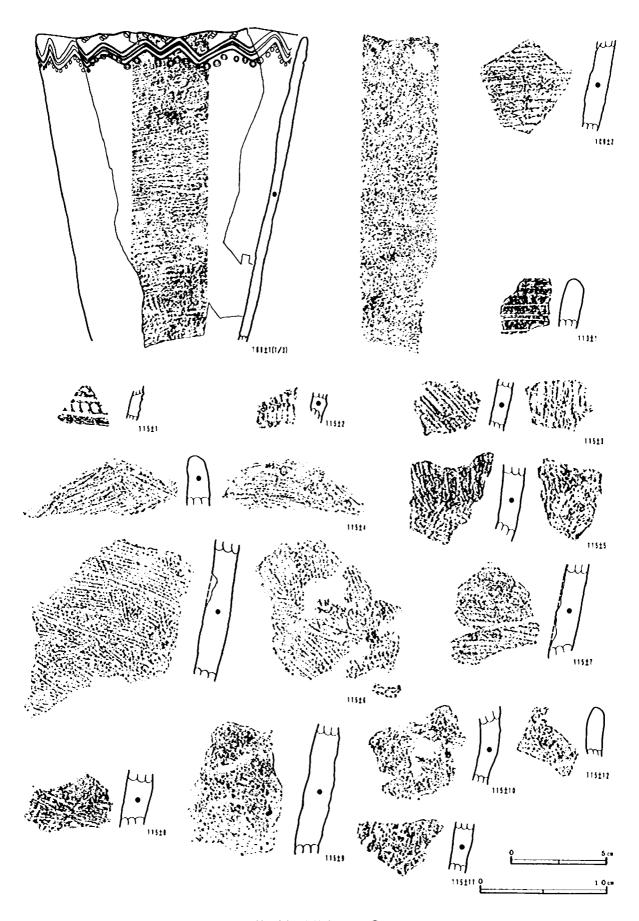
1・2は同一個体で、内外面に条痕を施文後外面に櫛歯状工具ないし貝殻腹縁とみられる施文具により斜位の刺突をランダムに施す。胎土には繊維を多量に含む。

第126号土坑出土遺物(第39図)

1・2は条痕を施す胴部破片で、1は外面のみに浅く、2は内外面に施す。1の施文は浅い。いずれも胎土に繊維を含む。

第127号土坑出土遺物 (第39図)

1は内外面に条痕を施すが、外面の施文は浅く不明瞭である。胎土には繊維を含む。



第38図 土坑出土土器⑤

第129号土坑出土遺物(第39図)

1 は内外面に条痕を施す口縁部破片で、口唇部は角頭状を呈す。 2 ・ 3 は外面のみに条痕を施す胴部破片で、 2 の条痕は浅く不明瞭である。いずれも胎土に繊維を含む。

第130号土坑出土遺物(第39図)

1は沈線により区画文を施し、区画文内には沈線を充填する。区画文の交点には刺突文を施す。下 半に屈曲部を持ち、屈曲部により文様帯の下端を横位区画しているとみられる。2は斜位の沈線を数 条施文し、内面には条痕を施す。1・2は胎土に繊維を微量に含む。3はナデのみを施した口縁部破 片で、口唇部は丸頭状を量する。胎土には繊維・砂粒を含む。4はナデのみを施した底部付近の破片 である。

第133号土坑出土遺物(第39·43図)

1は集合沈線により横位区画しているとみられ、区画内には斜位の沈線を施す。胎土には砂粒をやや多量に含む。2・3は同一個体とみられ、細隆起線により文様帯を横位区画し、口縁部文様帯・胴部文様帯の二帯構成を持つ。器形上の屈曲はみられない。各文様帯内は細隆起線により縦位区画し、縦位区画内は響状とみられる区画文を施す。区画文内には沈線を充填する。区画文の交点を中心に刺突文を施す。胎土には繊維を微量に含む。4は内外面にナデのみを施す無文の胴部破片である。5は無斑晶安山岩製のスクレイパーである。長さ7.6cm・幅4.5cm・厚さ1.4cm・重量43.0gを測る。

第134号土坑出土遺物(第39図)

1 は内外面に条痕を施す胴部破片で、胎土には繊維を少量含む。

第135号土坑出土遺物(第39図)

1は外面に条痕を施す胴部破片で、胎土には繊維を含む。

第142号土坑出土遺物(第40図)

1 は外面に条痕を施す胴部破片で、胎土には繊維を含む。

第143号土坑出土遺物(第43図)

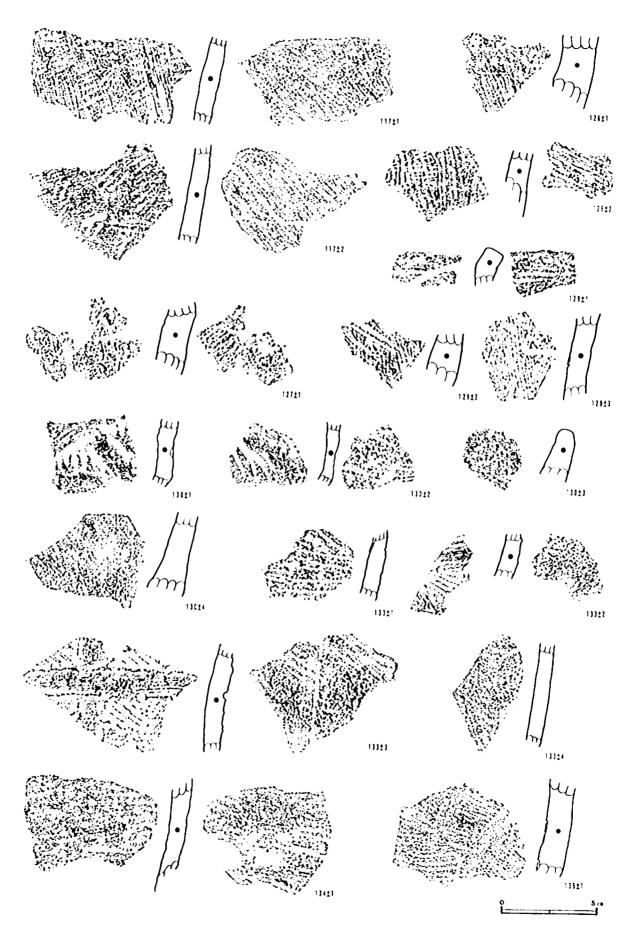
1 は無斑晶ガラス質安山岩製のスクレイパーである。長さ7.0cm・幅4.7cm・厚さ1.5cm・重量43.6 g を測る。

第144号土坑出土遺物(第40図)

1は内外面にナデのみを施す無文の土器で、胎土には繊維を含む。

第146号土坑出土遺物(第40图)

1は横位の集合沈線を施す。2は横位の太沈線を施し、以下は斜位の太沈線を施す。3・4は同一個体とみられ、外面には条痕を、内面には擦痕を施す。口唇部は丸頭状を呈する。3は条痕を施文後、横位・縦位に絡条体圧痕文を施文する。5は内外面に条痕を施す。3~5は胎土に繊維を含む。



第39図 土坑出土土器⑥

第149号土坑出土遺物(第40図)

1は細沈線により区画文を施し、区画内に沈線を充塡する。区画文の交点を中心に刺突文を施す。 2は内外面に条痕を施す。いずれも胎土に繊維を含む。

第157号土坑出土遺物(第40図)

1は内外面に条痕を施す。外面の施文は浅く不明瞭である。胎土には微量の繊維を含む。

第170号土坑出土遺物(第40図)

1は波状を呈するとみられる口縁部破片である。口唇部は外削ぎ状を呈し、口唇部外面に爪形の刺突文を施す。口縁部文様帯は数条の細沈線により縦位区画し、縦位の太沈線を充填する。2は屈曲を持つ胴部破片である。内外面に条痕を施文後弧状(?)に絡条体圧痕文を施文する。3は内外面に条痕を施す胴部破片である。2・3は胎土に繊維・砂粒を含む。

第176号土坑出土遺物(第40図)

1は波状を呈する口縁部破片である。波頂部には皿状の突起を持ち、縄文(?)を施文する。外面は擦痕を、内面には条痕を施す。2は平縁の口縁部破片で、口唇部は角頭状を呈し、上面に縦位の沈線を施文する。3・4 は内外面に条痕を施す胴部破片である。5 は外面に擦痕を施す胴部破片である。1~5 は胎土に繊維を含み、1 はやや多量の繊維を含む、

第177号土坑出土遺物(第41図)

1・2は外面には擦痕を、内面には条痕を施す。いずれも胎上に繊維を含む。

第179号土坑出土遺物(第43図)

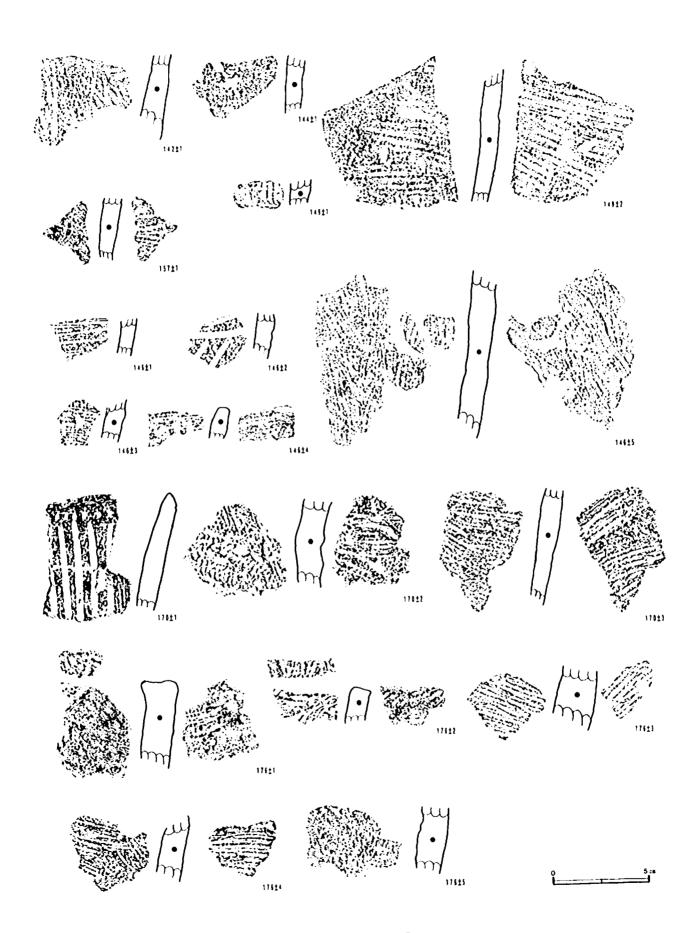
1 は無斑晶ガラス質安山岩製の打製石斧である。長さ9.7cm・幅5.0cm・厚さ1.9cm・重量100.0gを 測る。

第186号土坑出土遺物(第41図)

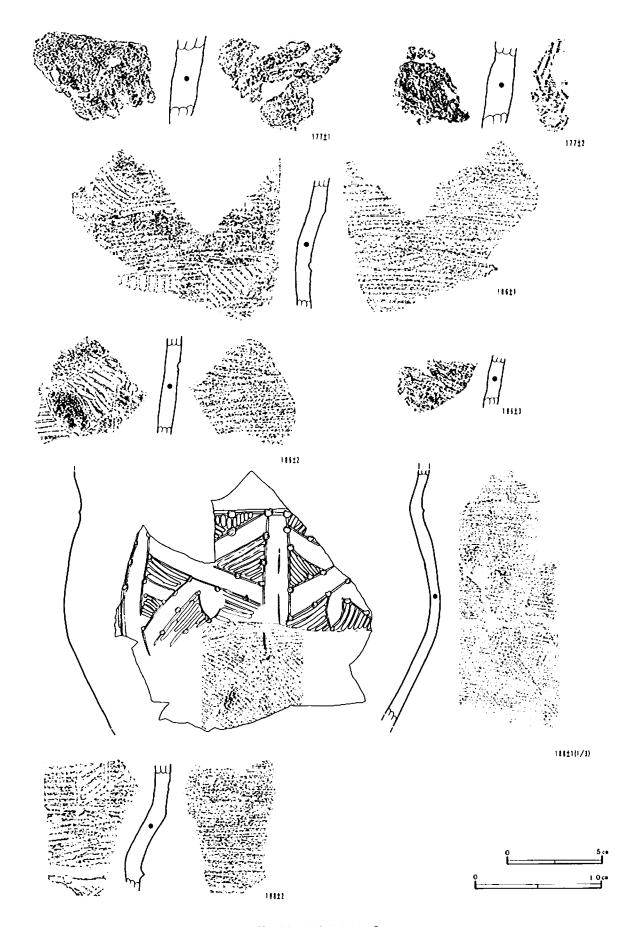
1・2は同一個体とみられる胴部破片で、屈曲部及び横位細沈線により文様帯を横位区画する。文様帯内は細沈線により縦位区画され、縦位区画内には細沈線により襷状構成の区画文を施す。区画文内は沈線を充填し、区画文の交点を中心に刺突文を施す。内面には条痕を施す。いずれも胎土には少量の繊維を含む。3は外面に条痕を施す胴部破片で、胎土には繊維を含む。

第188号土坑出土遺物(第41~43図)

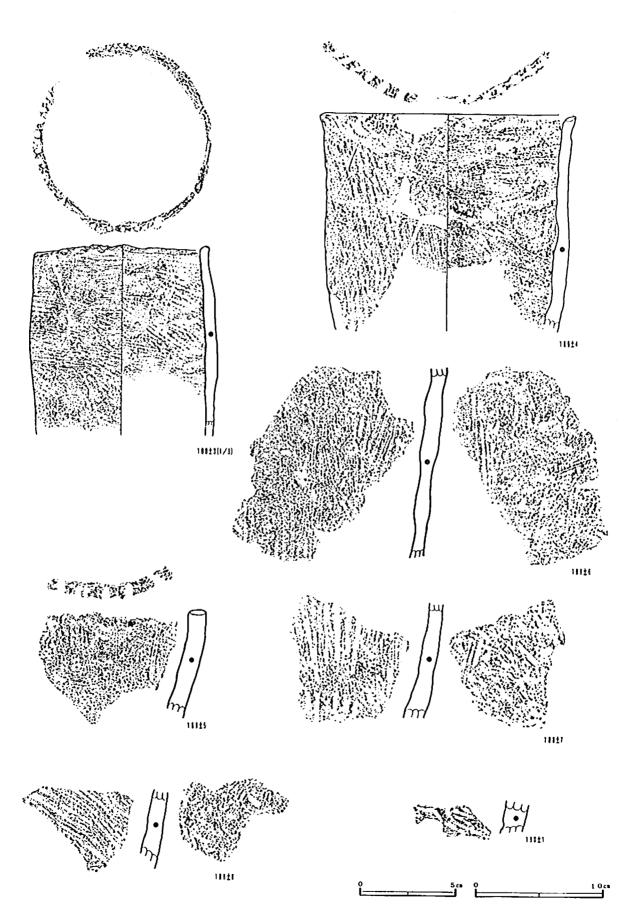
1・2は同一個体とみられる胴部破片で、2段の屈曲部を持ち、胴部中位が張る器形を持つ。口縁部及び胴部の文様帯の下端は屈曲部により区画し、胴部文様帯の上端は細隆起線により区画する。各文様帯内は沈線及び刻みを施した細隆起線により縦位区画される。縦位区画内には炭手襷状構成の区画文を施文し、区画文内には沈線を充填する。区画文の交点を中心に刺突文を施す。胴部下半及び内面には条痕を残す。3は内外面に幅広の条痕を浅く施す深鉢形土器である。口唇部は丸みを帯びた内削ぎ状を呈し、外面には刻みを施す。4・6は同一個体とみられ、3と同様に内外面に幅広の条痕を浅く施す。口唇部は内削ぎ状を呈し、上面には刻みを施す。5は外面に条痕を施す口縁部破片で、口



第40図 土坑出土土器⑦



第41図 土坑出土土器®

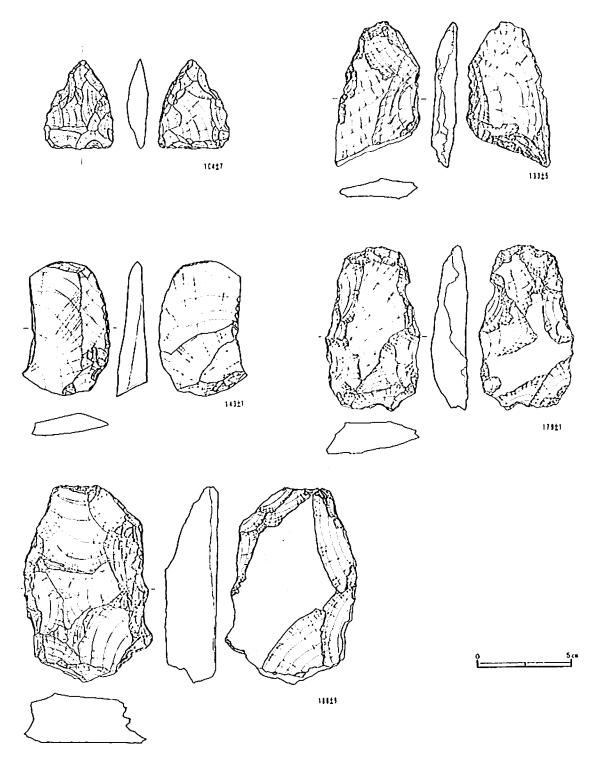


第42図 土坑出土土器⑨

唇部は角頭状を呈し、上面には刻みを施す。 $4 \cdot 5$ は外面にススが付着する。 $7 \cdot 8$ は内外面に条痕を施す胴部破片である。 $1 \sim 8$ は胎土に繊維を含む。9 は無斑晶安山岩製の打製石斧である。長さ10.5 cm・幅6.9cm・厚さ2.7cm・重量242.8gを測る。

第190号土坑出土遺物(第42図)

1は外面に条痕を浅く施し、胎土に繊維を含む。



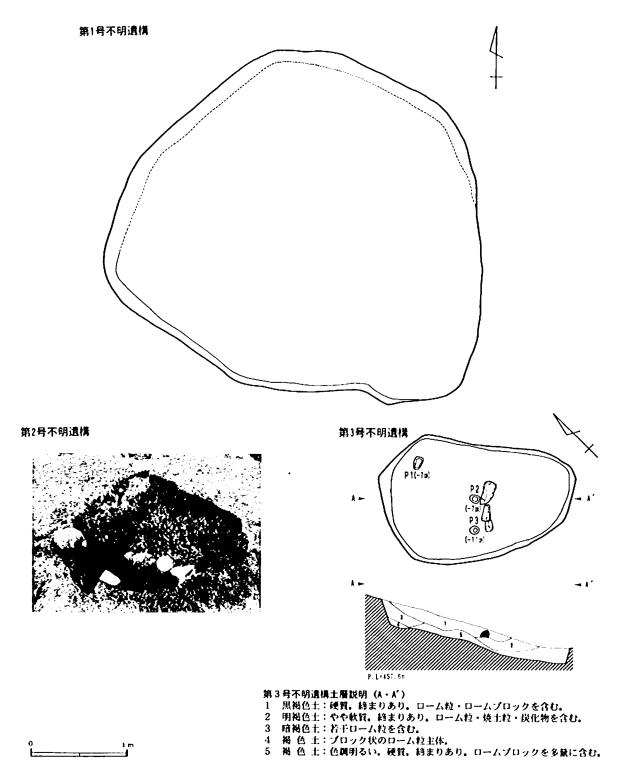
第43図 土坑出土石器

第3項 不明遺構

本項ではその性格が判明しない遺構を取り上げる。3基検出され、いずれもE区北東寄りのところに位置する。

第1号不明遺構(第44図)

位 置一E区中央、Eo-53グリッドに位置する。重複関係一なし。規模・形状一長軸394cm・短軸357cm を測り、南東部の張った不整円形を呈する。遺 物一なし。



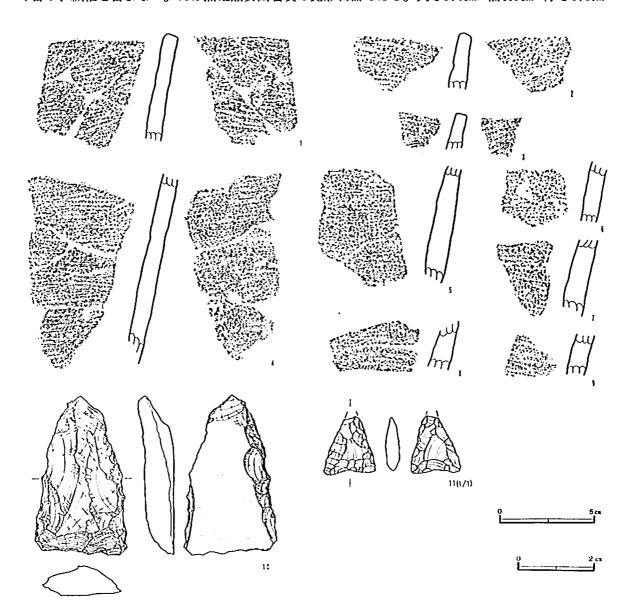
第44図 第1・2・3 号不明遺構

第2号不明遺構(第44図)

位 置一E区北東部、EI-55グリッドに位置する。また第78・79・80号土坑に隣接する。重複関係一なし。規模・形状一誠に遺憾ながら平面図・断面図ともに紛失してしまったため規模は不明であるが、平面形は北側の張った不整楕円形を呈する。床面には数基のピットが掘り込まれており、南東部を中心に数点の磔が検出された。遺 物一土器28点・石器30点(剝片・自然磔含む)が出土し、土器 9点・石器 2点を図示し得た。主体は条痕文土器である。この他にチャート等の剝片や砕片が多く検出された。備 考一本遺構は剝片・砕片等が多量に出土していることから、石器製作関連遺構の可能性も考えられよう。

第2号不明遺構出土遺物(第45図)

1~9は同一個体とみられる口縁部~胴部破片である。直線的に開く器形を持つとみられる。口縁部は平縁で、口唇部は丸みを帯びた角頭状を呈する。内外面に横位の条痕を施す。胎土には砂粒を多く含み、繊維を含まない。10は無斑晶安山岩製の寛形石器である。長さ8.4cm・幅4.9cm・厚さ1.6cm・



第45図 第2号不明遺構出土遺物

重量73.5g を測る。11はチャート製の石鏃である。先端部を欠損し、長さ1.5cm・幅1.4cm・厚さ0.4cm・ 重量0.8g を測る。

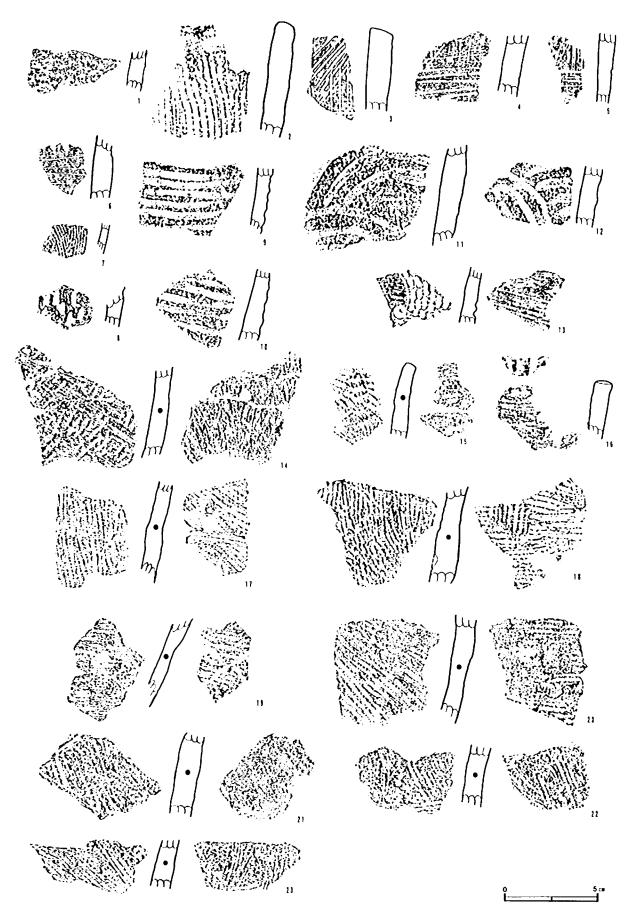
第3号不明遺構 (第44図)

位 置一E区北側中央、En-54グリッドに位置する。重複関係一なし。規模・形状一長軸198cm・短軸121cmを測り、楕円形を呈する。深さは20~7cmを測る。壁面は外傾して立ち上がり、断面形は箱状を呈する。また底面からはピット3基が検出された。本遺構中央部では大きめの際3点が検出された。遺 物一なし。

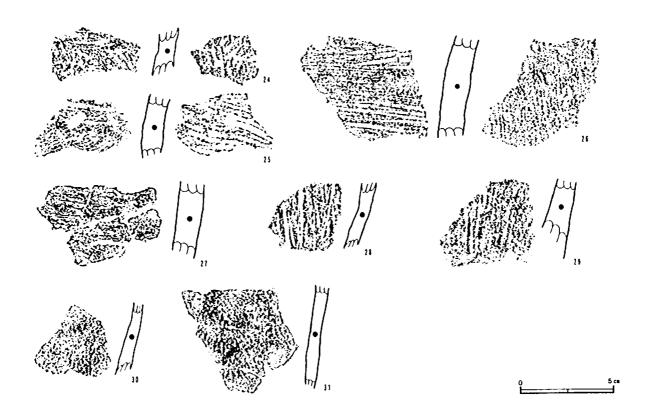
第 4 項 遺構外出土遺物 (第46~47図)

本遺跡出土の遺構外出土遺物は遺物量は少量だが、沈線文〜条痕文期の良好な遺物が出土している。 そこで本項ではこれらの内代表的な遺物を取り上げる。

1は押型文上器だが、施文が浅く文様は不明である。2は丸みを帯びた外削ぎ状の口唇部を持ち、 口縁部直下には指頭状工具による横位の太沈線を施す。口縁部文様帯には、部分的に波状を呈する縦 位の集合沈線を施す。3は外削ぎ状の口唇部を持ち、口唇部には装飾が施されない。口縁部文様帯は 横位の沈線で区画し、集合沈線による鋸歯状文を施文する。外面にはススが付着する。 4 ・ 5 は集合 沈線により文様帯を横位区画し、区画内は集合沈線により鋸歯状文を施文する。 6 は爪形の刺突を横 位に施し、以下は横位の集合沈線を施文する。 7 はミニチュア土器で、縦〜斜位の集合細沈線により 鋸歯状文を施す。8は縦長の米粒状の刺突文を斜方向に施す。9・10は横位の集合太沈線を施す。11・ 12は同一個体で、弧状の太沈線を重畳して施文する。施文は非常に浅い。13は沈線により区画文を施 し、区画文内には刺突を充塡する。区画文の交点には刺突を施す。14は内外面に条痕を施文後櫛歯状 工具ないし貝殻腹縁とみられる施文具により斜位の刺突をランダムに施す。胎土には繊維を多量に含 む。15は口縁部破片で、押引状の連続刺突文を浅く斜位に施す。胎土には繊維・片岩類を含む。16は 外面に条痕を施した口縁部破片である。口唇部は角頭状を呈し、上面には刻みを施す。17~26は内外 面に、27~29は外面のみに条痕を施す胴部破片である。29は底部付近の破片とみられる。17~29は胎 土に繊維を含む。また25は片岩類を、26・28砂粒を多く含む。30・31は外面に丁寧なナデを、内面に 粗いナデを施した胴部破片である。内面にはススが付着する。31は器壁が非常に薄く、焼成は堅緻で ある。30・31とも胎土に繊維を含むが微量である。



第46図 遺構外出土遺物①



第47図 遺構外出土遺物②

第4章 ま と め

第1節 旧石器時代

本遺跡からは浅間板鼻黄色軽石層 (As-YP) 直下に出土層位がある第1文化層の石器群と単独でナイフ形石器1点が出土している。

第1文化層は、時期的な示標となる石器が含まれておらず、それらからその帰属時期を判断することができない。しかし、出土層準が浅間板鼻黄色軽石層(As-YP)直下でローム層最上部にあることから、旧石器時代でも最終末の細石器文化に比定されるものであると考えられる。本村には、船底形細石核を伴う桝形遺跡、柏倉芳見沢遺跡があり、野岳休場型細石核を伴う市之関前田遺跡がある。そのほか本村内では明確な石器群は発見されていなが、前橋市頭無遺跡を代表とする削片系細石核を伴う細石器群も県内で知られている。本石器群は、これらのいずれかの石器群と並行するものと考えられるが、黒色安山岩やチャートという県内の地元石材を使用していること、やや大形の縦長剝片(第15図3)を含むことから、桝形遺跡、柏倉芳見沢遺跡に共通する特徴であるといえる。遺跡の立地する標高も400メートル台とそれらの遺跡と共通しており、船底形細石核を伴う石器群に属する可能性が高いと考えられる。

石器群は、14点からなり、スクレイパー・楔形石器・厳石などが組成をなしているが、桝形遺跡のような拠点的な遺跡と比べれば組成的にも点数的にも貧弱で、石器製作の痕跡も接合資料があるものの零細である。石器自体も敲石が臨機的に使用したと考えられるなど、一時的なキャンプサイトとして営まれた遺跡と考えられるであろう。粕川の谷を隔てて、ほぼ同じ標高に本石器群とほぼ同じ細石器文化の粕川村栗原東遺跡(粕川村教育委員会 1985)があるが、これらは共通した遺跡の性格を有していた可能性がある。細石器石器群の中でも、船底形細石核を伴う細石器石器群は、地域に根ざした石器群と考えられているが、拠点となる遺跡、短期間の居住遺跡、また何らかの作業等に伴う一時的なキャンプサイトが組み合わさって遺跡群を形成していたものと考えられるではなかろうか。すなわち、桝形遺跡を代表とする拠点的な遺跡が中心となり、桝形遺跡には組成的に劣るものの比較的石器群の全体像を残す柏倉芳見沢遺跡のようなある程度逗留して生活をした居住遺跡があり、そして、栗原東遺跡や本遺跡第1文化層のような一時的な利用によるキャンプサイトがそれらと関連をもってあちこちに残されたと想像できる。本石器群は、そのような細石器文化期の生活の一端と遺跡群の実態を物語る遺跡のひとつとして位置付けられるのではなかろうか。

単独に出土したナイフ形石器は、第1文化層が上記の通りであるとすれば、これに伴う石器とは考えにくいであろう。ブランティング状の調整加工も顕著で、刃部を水平に設定して形状も明確である。しかし、その所属時期については、群馬編年(岩宿フォーラム 1994) I 期前半期に比定できる可能性があるが、素材の用い方や調整加工の状況から、II 期に属するとも考えられ、さらに検討を要するものである。

引用・参考文献

岩崎泰一 1985 「2、遺跡出土石器」 『柏川村の遺跡』 柏川村教育委員会 岩宿フォーラム実行委員会 1994年 『群馬の岩宿時代の変遷と特色』

第2節 組文時代

今回の調査により早期中葉〜後葉の沈線文土器・条痕文土器のまとまった良好な資料を得ることができた。その量は少ないものの該期の周辺地域を考える上での基礎的な資料となり得るものである。 これらを大別して分類すると以下の通りである。

第1群土器 沈線文土器

第11群土器 条痕文土器

第1類 鵜ガ島台式土器

第2類 茅山上層式上器

第3類 絡条体圧痕文を施すもの

第4類 刺突を施すもの

第5類 条痕・擦痕を施すもの

第6類 無文のもの

これらの土器群について概観してまとめにかえたい。

第Ⅰ群土器について

第1群土器は沈線文土器である。胎土には繊維を含まず、少量の砂粒を含むものと多量の砂粒を含むものの2種がみられる。また内外面にはナデが施され、器面は平滑に仕上げられる。

破片資料のみのため全体の器形は判明しない。各部位の破片から器形を復元してゆくと、口唇部は第95号土坑1 (95土1と略す。住居址は住、土坑は土、不明遺構は不明、遺構外出土遺物は遺構外と略す。以下同様。)や遺構外3等外削ぎ状を呈するものが主体的である。口縁部はほとんどが平縁で、波状縁は1点(170土1)のみである。また胴部破片は直線的なもののみで屈曲を持つものは出土していない。底部破片は出土していないが、底部付近の破片の94土1から尖底を呈すると推測される。

文様要素は沈線文(太沈線・細沈線)・貝殻腹縁文(これを模したものも含む)・刺突がある。

文様はほとんどが直線的なもののみで構成される。口縁部は、横位の貝殻腹縁文を模した文様を施すもの(95±1)や横位・縦位沈線を施すもの(113±1/170±1等)、鋸歯状文を施すもの(遺構外3)がある。

胴部は全体の構成が判明するものは出土していないが、横位の平行沈線により区画された文様帯内に集合沈線による鋸歯状文を施すもの(78土 1/133土 1/遺構外 4・5 等)や、斜位ないし横位の平行太沈線を施すもの(84土 1/94土 1 等)が主体的とみられる。他に、沈線による区画文内に貝殻腹縁文を充填するもの(65土 2)や、平行沈線間に波状の横位沈線や刺突等を施すもの(65土 3/92・93土 2/115土 1 等)等がある。

これらのような器形・文様上の特徴から、本遺跡出土の沈線文土器は田戸下層式に比定されよう。

第Ⅱ群土器について

第11群土器は条痕文土器である。本遺跡出土土器の主体を占める。含有量の多寡による違いはみられるものの、ほとんどものものが胎土に繊維を含む。本群は文様上の特徴から第1類から第6類に分類した。以下第1類から見てゆくことにする。

第1類土器について

第1類は鵜ガ島台式土器である。本遺跡では、条痕文土器最初頭に位置付けられる子母口式土器や

これに後続する野島式土器が出土していないため、本遺跡出土の条痕文土器の内で最も古い土器型式とみられる。本遺跡からは13点の有文の鵜が島台式土器が出土し、内2点についてはその器形を復元し得た。中でも8±1 (第48図1) は完形の資料で、器形や文様帯構成・文様モチーフ全体が把握しうる良好な資料である。

本遺跡出土の鵜ガ島台式土器の特徴を挙げると、まず器形としては、口唇部はいずれも内削ぎ状を呈し、波状縁のみである。胴部は133土2・3(第48図5・6)を除いて明瞭な2段の屈曲部を持ち、屈曲部間の無文帯を挟んで、口縁部文様帯と胴部文様帯の2帯構成である。各文様帯内は縦位区画され、縦位区画内には、襷状文ないし蕨手襷状文を、「い」・「く」字状文等により更に細分割したものを施す。区画文の文様要素には太沈線や細沈線、細隆線、細沈線と細隆線を併用するものなどバラエティがみられる。区画内には基本的に同一方向の充塡文を施し、遺構外13(第48図10)のみ刺突を充塡するものの、これ以外は太沈線により施される。そして区画文の交点には円形刺突を施す。いずれも区画内充塡手法をとり、区画文の交点には円形刺突を施す典型的な鵜ガ島台式土器と言え、区画文のモチーフはいずれの土器も襷状区画文を基本としながらも細分割されるという点で共通しており、これらの特徴から本遺跡出土の鵜ガ島台式土器はほぼ同時期の所産と考えられる。器形からは屈曲部の明瞭なものと屈曲がみられないものがあることから若干の時期差が認められようか。

類似資料としては以下の資料が挙げられる。

下鶴谷遺跡出土土器 (第49図1:前原1988)

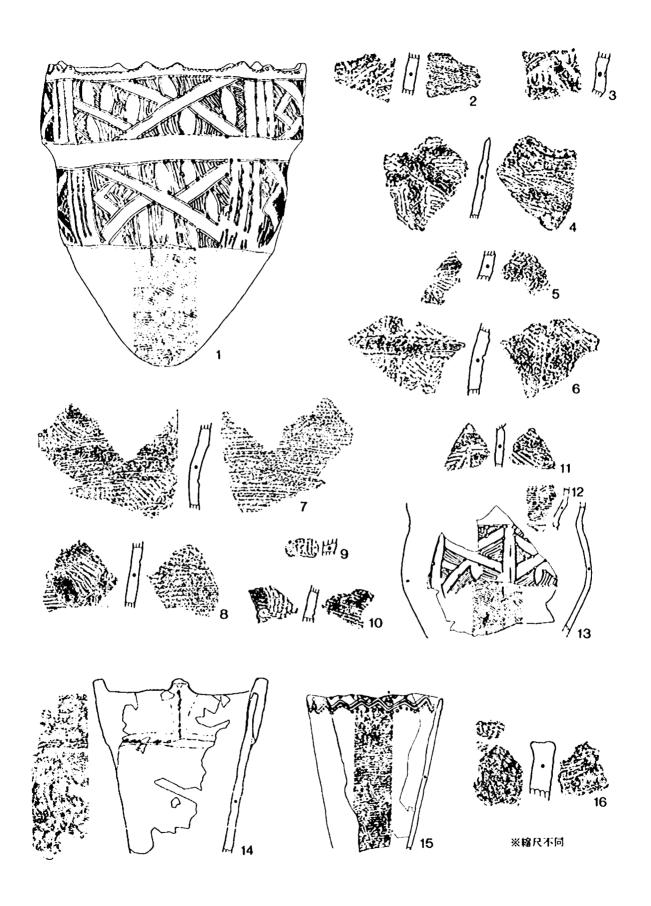
器形は6単位の緩やかな双頭状波状縁で、口唇部は内削ぎ状を呈する。胴部には2段の明瞭な屈曲部を持ち、底部は丸底状を呈する。口縁部直下には無文帯を持ち、波頂部には円形刺突文を伴う6条ほどを1単位とした山形文を施す。文様帯構成は、無文帯を挟んでそれぞれ独立した口縁部及び胴部文様帯の2帯構成である。口縁部文様帯内は波頂部に、胴部文様帯は波底部に、それぞれ対応して3条1単位の細隆線を垂下させて縦位区画する。縦位区画内は、細隆線により蕨手襷状文を施し、「い」字状文によりさらに細分割する。区画内には太沈線を充填し、区画文の交点には円形刺突文を施す。器形は8±1や186±1・2(第48図7・8)と共通し、区画文を細分割するモチーフは異なるものの、基本的な区画文のモチーフは188±1・2(第48図12・13)と共通のものであり、本遺跡出土土器と同時期の所産とみなすことが出来よう。

谷向貝塚出土土器 (第49図2:領塚1990)

器形は7単位の双頭状の波状縁で、口唇部は内削ぎ状を呈する。胴部には明瞭な2段の屈曲部がみられる。文様帯構成は、無文帯を挟んでそれぞれ独立した口縁部及び胴部文様帯の2帯構成である。各文様帯内は波頂部に対応させて3条1単位の細隆線を垂下させて縦位区画する。縦位区画内は、細隆線により襷状区画文を施し、「く」字状文や「い」字状文により細分割する。区画内には太沈線を充填し、区画文の交点には円形刺突文を施す。器形としては、本遺跡出土土器と共通する2段の屈曲部を持ち、8土1とは波状縁の単位数までも共通する。区画文モチーフは襷状文を「い」・「く」字状文により細分割するなど、8土1と酷似する。そのため本遺跡出土例と同時期の所産と考えてよいであろう。

以上の2例を含めてこの段階の資料を概観すると、まず器形としては内削ぎ状の口唇部を持ち、胴部には明瞭な2段の屈曲部を持つ。区画文の文様要素には太沈線や細沈線・細隆線等のバラエティーがあるものの、区画文モチーフとしては、襷状ないし蕨手響構成をとり、さらにその中を細分割する。 充填文は基本的に同一方向に施文され、区画文の交点には円形刺突文を施すという点が挙げられよう。

次に本遺跡出土の鵜ガ島台式土器の時期的な位置付けを探るため、他遺跡より出土した土器との比較を試みたい。



第48図 本遺跡出土第11群第1・2類土器

三里塚№14遺跡出土土器 (第49図3:中山ほか1971)

野島式終末段階の資料である。平縁で、口唇部は内削ぎ状を呈し、胴部には屈曲部がみられる。胴部下半を欠損するものの2段の屈曲部を持つとみられる。文様帯構成は、口縁部及び胴部文様帯の2帯構成で、屈曲部により完全に分割されるが、文様帯間には無文帯を挟まない。文様帯内は2条1対の沈線により縦位区画されるが、上下の文様帯で縦位区画の位置が若干ずれる。縦位区画内は沈線により準状文を施し、細分割はされない。区画内は沈線により充填文を施すが、隣合う区画には異方向に充填される。区画文の交点への刺突は施されない。

狭間貝塚出土土器(第49図4:西村1973)

平縁で、口縁部には4単位の管状突起を持つとみられる。胴部には2段の明瞭な屈曲部を持ち、屈曲部には刻みを施す。文様帯構成は、口縁部及び胴部文様帯の2帯構成で、無文帯を挟むことにより分割される。文様帯内は、円形刺突を伴う細隆線を、管状突起より胴部文様帯まで垂下させて縦位区画する。文様モチーフは上下の文様帯で異なり、口縁部文様帯では、縦位区画内に半円形文を起点とした複合由形文を細隆線により施し、更に「く」字状文や半円形文により細分割する。区画内には押引文による単一方向の充填文を施す。胴部文様帯では縦位区画内を縦位・斜位・横位に区画し、充填文は施されない。上下の文様帯とも区画文の交点を中心に刺突文を施す。

以上の2例と本遺跡出土土器を比較すると、まず器形では、口唇部形態はいずれも内削ぎ状を呈し、いずれも胴部に2段の屈曲部を持つとみられる。屈曲部を比較してみると、三里塚No14遺跡例よりも大畑遺跡例が、大畑遺跡例よりも狭間貝塚例の方が、屈曲度合いが強いことがわかる。これは文様帯の分割意識の高まりや強調化の結果によるものであろう。

文様帯構成はいずれも口縁部及び胴部文様帯の二帯構成で、三里塚No14遺跡例・大畑遺跡例は口縁部・胴部文様帯とも同様な区画文を施し、隣接する縦位区画どうしの左右対称とともに上下間の対称形が保持されている。しかし狭間貝塚例では口縁部文様帯と胴部文様帯で異なる区画文を施しており、隣接する縦位区画間の左右対称は保持されているものの、もはや上下の文様帯間での対称形は崩れてしまっていることが看取される。

区画文では、三里塚Na14遺跡例と大畑遺跡例は、いずれも襷状文を基本としているという点で共通しており、野島式で成立した襷状文が鵜ガ島台式に継承されたことがわかる。しかし大畑遺跡例は襷状文をその基本構成としながらも更に細分割することによって区画文の複雑化が看取される。また狭間貝塚例も同様に襷状文を区画文構成の基本としているものの、横位に連結して山形文を形成している。これは、三里塚Na14遺跡例から大畑遺跡例へと継承された区画文構成が更に細分割されて、(族手) 襷状区画文構成を基本とする器面装飾が飽和状態をむかえ、この状態を回避するために「省略化」(野口1983) の手法が取られた結果成立したと考えられる。また狭間貝塚例では、同じく省略化の過程上で成立したとみられる円形文がみられ、それまで直線的な区画文が中心であった構成から、次第に自由関達な施文方法を獲得しつつある段階にあると認識されよう (関野1980, 野口1983)。

充填文を比較すると、三里塚No14遺跡例の充填紋は隣合う区画毎に充填文の施文方向を変えることにより、充填文どうしが対称形をなし、充填文による装飾効果を高めていたのに対し、大畑遺跡例や狭間貝塚例では充填文どうしの対称形を構成するという意識は消失し、基本的に単一方向の充填文を施す。これは省略化と同時に区画文自体が文様の中心となり、区画文を強調する意識の高まりとみなすことが出来よう。

そして大畑遺跡例と狭間貝塚例には鵜ガ島台式土器のメルクマールとされた区画文交点への刺突文が施される(岡本1961)。

このように、本遺跡出土土器を三里塚No14遺跡出土土器および狭間貝塚出土土器と比較すると、三里塚No14遺跡例→大畑遺跡例→狭間貝塚例への漸移的な変遷の方向が看取され、本遺跡出土土器は野島式で成立した器形や文様帯構成・区画文構成を継承しつつも発展させ、伝統的な区画文構成を発極まで押し進められた段階にある鵜ガ島台式土器であると追認された。上述の通り本遺跡出土土器には若干の時間差を含む可能性があるため、野口氏編年の1期~2 a 期(鵜ガ島台式古段階~中段階前半:野口1983) に相当する資料と捉えたい。

第2類土器について

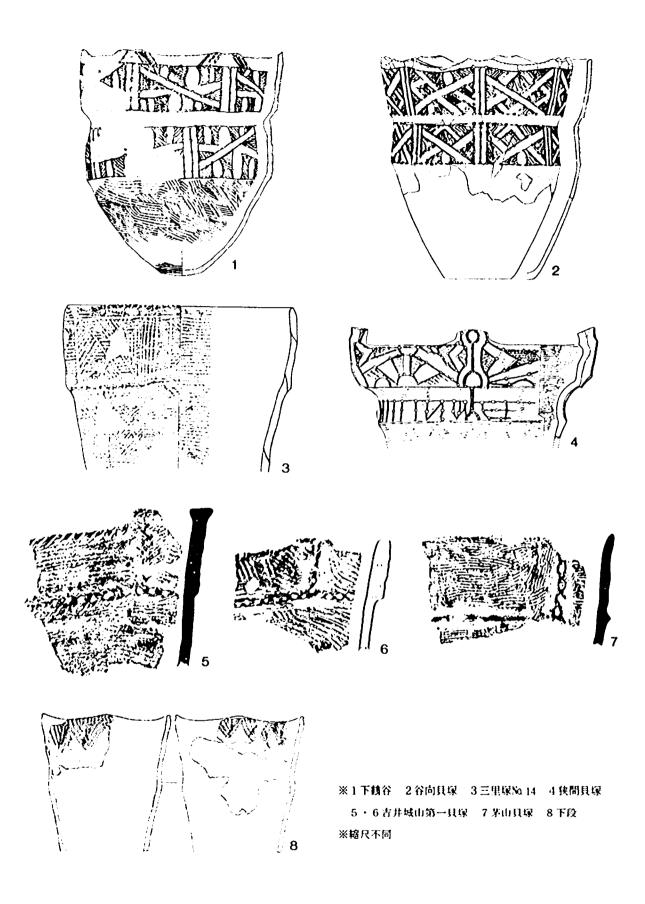
本遺跡からは、第2類土器(茅山上層式土器)は3点(102土2・108土1・176土1)と量的には零細だが、102土2(第48図14)・108土1(第48図15)等器形や文様構成全体の判明する良好な資料が出土している。県内での出土例が少ないため、ここでは関東地域より出土した土器との比較により、その位置付けをみてゆきたい。

上述の事実記載と重複するが、改めて102±2の特徴を見てゆくと、底部から外傾して直線的に開く器形を呈し、器形自体には屈曲部はみられない。口唇部には4単位とみられる棒状突起を付す。口唇部は角頭状を呈し、上面には刻みをまばらに施す。口縁部文様帯は、断面三角形を基本とする隆帯を横位に巡らせることにより区画し、同様の隆帯を棒状突起より垂下させることにより、口縁部文様帯内を4単位に縦位区画する。口縁部文様帯及び口縁部文様帯内を区画する隆帯上には絡条体圧痕文による刻みをまばらに施す。また口唇部上面の刻みも絡条体圧痕によるものと考えられる。器面調整は、口縁部文様帯内は条痕文により、胴部は擦痕による調整を施す。胎土には繊維及び砂粒を含む。

類似資料としては神奈川県横須賀市吉井城山第一貝塚下部貝層出土土器が挙げられる(第49図5: 赤星・岡本1962)。底部から直線的に立ち上がる器形を量するとみられ、口唇部には上面扁平な突起を 有す。口縁部文様帯は、胴部上半に隆帯を横位に巡らせてその下端を区画し、突起から垂下した隆帯 により文様帯内を経位区画する。隆帯上には刻みを施し、口縁部及び胴部には条痕文のみを施すなど、 102±2と酷似した資料である。

茅山下層式から茅山上層式への変遷の過程で、文様帯や文様の衰退、無文化してゆく傾向は従来より指摘されており(赤星・岡本1962,金子1991ほか)、吉井城山第一貝塚報文中では、胴部上半に隆帯を巡らせるタイプの土器は、沈線や刺突等による文様が「ほとんどみあたらない」ことが指摘されている(赤星・岡本1962)。このことは茅山貝塚上部貝層出土土器(第49図 7 等)や吉井城山第一貝塚下部貝層出土土器(第49図 5 ・ 6 等)により裏付けられるものであり、無文化傾向を持つ茅山上層式の特徴を示すものであろう。翻って102土 2 を見てゆくと、岡本氏の指摘のとおり沈線や刺突等による文様は施されないものの、条痕文を口縁部文様帯のみに施し、闘部には擦痕調整を施すなど、口縁部文様帯内に施された条痕文に装飾意識の名残が看取され、穿って見れば、102土 2 の口縁部文様帯に施された条痕による器面調整を、茅山上層式に見られる「条痕を文様化したもの」(赤星・岡本1962)と同様の文様と見ることも可能であろう。上記の吉井城山第一貝塚例と比較すると、茅山貝塚例は口縁部~胴部にかけて全面に条痕文による同一の器面調整を施しており、口縁部文様帯への文様施文を行う102土 2 に較べて若干後出的な要素を有している可能性があろう。

102±2は文様上の特徴が少なく、その時間的な位置付けが難しいが、茅山下層式の要素を払拭し、口縁部文様帯の萎縮が見られないことから、金子氏の茅山系土器第VIa期(茅山上層式の確立期:金子1991)の範疇で捉え、口縁部文様帯への施文意識の残存を重視すれば、吉井城山第一貝塚例よりも若干古い要素を残している資料と言え、VIa期でも若干古相に位置付けられる可能性がある。



第49図 関連資料

108土1は底部より外傾して直線的に開く器形とみられ、口縁部は平縁である。口唇部は丸頭状を呈し、口縁部直下には斜位の絡条体圧痕文を施す。内外面とも条痕文を施す。口縁部文様帯には2条1対の半截竹管により波状文を施し、直下に縄の閉端部による刺突列を沿わせて口縁部文様帯を区画する。口縁部文様帯の幅は狭い。胎土には繊維及び砂粒を含む。

類似資料としては埼玉県秩父郡荒川村下段遺跡斜面出土土器 (第49図8:金子1989) が挙げられる。 底部から外傾して開き、周部上半及び胴部中位で緩やかな2段の屈曲部を持つ。口縁部は緩やかな4 単位の波状縁で、口唇部は丸みを帯びた角頭状を呈する。内外面には条痕文を施す。口縁部直下には 刺突を施し、屈曲部により区画された口縁部文様帯には集合沈線による鋸歯状文を施す。108±1と比 較すると、内外面に条痕文を施し、口縁部直下に刺突を施すこと、文様帯内には鋸歯状文を施すこと などの基本的な構成が類似した資料と言える。

上述の通り茅山下層式から茅山上層式への変遷の過程で、文様や文様帯構成の退化がみられるが、文様帯構成と緊密な関係にある器形もまた退化の方向に向かい、鵜ガ島台式以来の口縁部+胴部文様帯という構成も次第に緩み、102±2にも見られるとおり、茅山上層式では口縁部文様帯のみの1帯構成のものが主体的となる。これに伴い器形も2段の屈曲部を持つものから、直線的な器形を量するものが主体的となる(赤星・岡本1962,金子1991等)。このため下段遺跡例は緩いながらも2段の屈曲部を有し、口縁部文様帯の区画もこの屈曲部によるなど、茅山下層式の要素が残存している段階の資料と考えられる。これに対して108±1は、器形も直線的で、口縁部文様帯の区画も器形によらずに刺突によって区画するなど、下段遺跡例に看取されるような茅山下層式以来の器形や文様帯区画の要素を払拭した段階の資料とみられる。また文様を比較すると、下段遺跡例は集合沈線による構成のしっかりした鋸歯状文を施すのに対し、108±1は、その祖形が鋸歯状文にたどれると考えられるものの文様の退化が進行して、波状文となっている。このように、108±1は、下段遺跡例と比較して後出的な要素が顕著であり、茅山下層式の要素を払拭し、茅山上層式として確立した段階の資料と言うことができる。

本資料を時間的に位置付けると、茅山下層式の要素を払拭した段階の資料であることから、金子氏の茅山系土器第VI期(茅山上層式の確立期:金子1991)の範疇で捉えられるが、文様上の退化が顕著であることや、口縁部文様帯の幅が圧縮されて、非常に幅狭になっていることから、より退化が進行した段階である茅山系土器VIb期に位置付けたい。

また口唇部に皿状の突起を持つ176±1 (第48図16) も茅山上層式期の所産とみられるが、破片資料であるため、茅山上層式内の時間的な位置付けは難しい。

第3類土器・第4類土器について

第3類は絡条体圧痕文を施すものである。本遺跡で絡条体圧痕文を施す土器は6点出土している(1住1/91土1/102土3/115土2/146土3/170土2)。 量の多寡はあるものの、すべて胎土に繊維を含む。器形は1住1を参考にすると、口縁部は平縁で、口唇部形態は内削ぎに近い丸頭状を呈する。170土2を除き、胴部は屈曲を持つものがみられないため直線的なものが主体と考えられる。底部形態は不明である。また施文部位の判別するのは1住1のみで、口縁部直下に施文されている。絡条体圧痕文の幅は若干の太・細はあるものの、ほぼ全て5㎜以上の幅を持つ。次に絡条体圧痕文のモチーフ構成をみてゆくと、様々な構成がみられ、斜位(1住1)・横羽状(91土1)・横位(102±3/115±2)・横位と縦位の組み合わせ(146±3)・弧状(170±2)がある。

上述のとおり、絡条体圧痕文は茅山上層式土器でも文様要素の一部として用いられており(102土2/

108±1)、その圧痕の幅を見てゆくと、本類の絡条体圧痕文に近似したものである。本遺跡出土の第3類土器はほとんどが小破片のため器形や文様構成が不明瞭であり、時間的な位置付けを行うことは困難だが、屈曲部のない直線的な器形を持つことや絡条体圧痕文の近似性、そして102±3が茅山上層式土器(102±2)と同一遺構より出土していることから、ここでは一応第3類土器を、茅山上層式に併行する時期の資料として捉えておきたい。

また第4類とした土器は5点出土している(66±1/115±3/117±1・2/遺構外14)。いずれも胴部破片で、器形上の屈曲はみられない。胎土には繊維を多量に含み、66±1は片岩類も多量に含む。66±1は内面のみに、115±3~遺構外14は内外面とも条痕文を施す。文様としては、66±1は縄による横位の爪形の刺突状圧痕列を2条施し、直下に横位の隆帯を貼付する。また115±3~遺構外14は樟歯状工具ないし貝殻腹縁による斜位の刺突をランダムに施す。いずれも周辺地域では類例が見当たらないため、本類については今後の資料の増加を待って再検討を行いたい。

第5類・第6類土器について

上述のとおり本遺跡出土土器で大半を占めるのが条痕文土器であるが、その中でも主体をなすのが 第5類とした条痕のみを施した土器である。

条痕のみを施す土器は、胎土に繊維を含むものが主体的で、砂粒を多く含むものや少量含むもの等がみられるが、胎土に繊維を含まず砂粒をやや多量に含むものも存在する(2不明1~9/遺構外16)。 また胎土に片岩類を多量に含むものもみられる(遺構外25)。

器形では、口縁部は平縁が主体的だが波状縁もみられる(115±4)。口唇部は様々な形態がみられ、内削ぎ状(188±4等)や丸みを帯びた内削ぎ状(188±3等)・角頭状(176±2等)・丸みを帯びた角頭状(2不明1~3等)・丸頭状(90±1・2等)等がある。胴部は直線的に立ち上がるものが主体的とみられる(90±1~3/188±3・4等)。底部は平底である(104±5)。

条痕は内外面に施すものや外面(内面)のみに施すものがみられる。条痕の幅からみてゆくと、細く密な条痕を施すもの(1住4/101±2/102±9/115±6/2不明1~9等)と太めの条痕を施すもの(1住5/9±1/149±2/188±3~7等)の2種がみられる。

外面に粗い擦痕調整を施す土器(1住8/115±9~11等)や無文土器である第6類土器 (95±11/遺構外30等)も、条痕のみを施す土器と同様な胎土のものが多く、器形も屈曲を持つものはみられない。 広義の茅山式土器に条痕や擦痕のみを施す土器が伴うことは従来より知られ、茅山貝塚や吉井城山第一貝塚の発掘調査の結果、茅山上層式では大半の土器がこの条痕や擦痕のみを施す土器であるとされた (赤星・岡本1962等)。また子母口式~鵜ガ島台式にも条痕・擦痕のみの土器が伴うことが知られている (西村1973・佐々木1982・野口1983等)。上述の通り本遺跡出土の条痕文土器も、有文の条痕文土器から鵜ガ島台式期~茅山上層式期と断続的ながら時間幅を有することが判明し、条痕や擦痕のみを施す土器も、それぞれの時期にも伴うと考えられ、細分されうる可能性がある。しかし本遺跡ではあまり良好な出土状況に恵まれなかったため時期の決定は困難であり、第5・6類土器の細分の問題は今後の課題としたい。

引用・参考文献

赤星直忠・岡本 勇 1957 「茅山貝塚」 『横須賀市博物館研究報告』第1号

1962 「横須賀市吉井城山第一貝塚調査模報(一)」「横須賀市博物館研究報告」第6号

阿部芳郎 1989 「半蔵雀遺跡調査報告書」 学校法人東京純心女子学園

1990 「千葉県佐倉市山崎貝塚とその土器一印旛沼周辺における条痕文系土器群の変遷ー」 「貝塚博物館紀要」 千葉市立加曽利貝塚博物館

石岡遊雄他 1975 『日立市遠下遺跡調査報告書』 日立市教育委員会

石坂 茂 1988 a 「勝保沢中ノ山遺跡 I 」 鯏群馬県埋蔵文化財調査事業団

1988 b 「八木沢清水遺跡」 「群馬県史 資料編 1 」 群馬県史編さん委員会

石橋宏克他 1991 『東関東自動車道埋蔵文化財調査報告書IV』 ㈱千葉県文化財センター

茨城県史編纂第一部会原始古代史専門委員会 1979 【茨城県史料 考古史料 先土器・縄文時代】

岡本 勇 1961 「三浦市鵜ガ島台遺跡」『横須賀市博物館研究報告』第5号

岡屋英治 1988 「大袋 II 遺跡」 『群馬県史 資料編 1 』 群馬県史編さん委員会

小熊博史 1989 「縄文時代早期終末における絡条体圧痕文土器の一様相」「信濃」第41巻第4号 信濃史学会

金子直行 1982 「野島式土器について」「土曜考古」第6号 土曜考古学研究会

1989 【下段遺跡】 (動埼玉県埋蔵文化財調査事業団

1991 「茅山上層式の再検討」「埼玉考古学論集」 (動埼玉県埋蔵文化財調査事業団

金子直行他 1992 「田戸遺跡資料 山内清男考古資料4」 奈良国立文化财研究所

佐々木克典他1982 『神谷原Ⅱ』 八王子市椚田遺跡調査会

鈴木秀雄他 1980 「卜伝」 埼玉県教育委員会

関根慎二 1988 「群馬県縄文時代早期研究の状況」「第2回縄文セミナー」 群馬県考古学研究所

関野哲夫 1980 「鵜ガ島台式土器細分への覚書」「古代探叢」 滝口宏先生古希記念考古学論集編集委員会

1985 「茅山下層式土器について」 『古代』第80号 早稲田大学者古学会

1992 「土器編年論 早期」「縄文時代」第3号 縄文時代文化研究会

千葉市史編纂委員会 1976 「千葉市史資料編」1

塚本師也 1988 「鹿島脇遺跡・追の窪遺跡」 (鮒栃木県文化振興事業団

富澤敏弘 1985 【中棚遺跡-長井坂城跡-】 群馬県昭和村教育委員会

中島 宏 1979 「入間郡日高町出土の早期縄文土器」 『埼玉考古』第18号 埼玉考古学会

中山吉秀他 1971 【三里塚一No14遺跡』 (助千葉県北総公社

野口行雄 1983 【新東京国際空港埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅲ—No14遺跡】 魵千葉県文化財センター

西川博孝他 1984 「新東京国際空港埋蔵文化財発掘調査報告書IV-Na7遺跡」 励千葉県文化財センター

西川博孝 1987 「田戸下層式土器ー千葉県内の新資料を加えた検討ー」 『古代』 第83号 早稲田大学考古学会

西村正衛 1973 「茨城県湖来町狭間貝塚(第一次調査)」「学術研究」第22号 早稲田大学教育学部

原 雅信他 1989 【八寸大道上遺跡】 魵群馬県埋蔵文化財調査事業団

前原 豊他 1988 『柳久保遺跡群V』 前橋市埋蔵文化財発提調査団

領塚正浩 1987 a 「田戸下層式土器細分への覚書」 「土曜考古」第12号 土曜考古学研究会

1987 b 「三戸式土器の再検討」「東京考古」第5号 東京考古談話会

1988 「田戸下層式土器研究をめぐる問題」「第2回縄文セミナー」 群馬県考古学研究所

1990 「故野口義麿氏寄贈の鵜ガ島台式土器」『平成元年度市立市川考古博物館年報』 市立市川考古博物館

渡辺修一 1993 『千葉市地蔵山遺跡 (2)』 鰯千葉県文化財センター

第5章 自然科学分析

宮城村、苗ヶ島大畑遺跡の自然科学分析

古環境研究所

I. 苗ヶ島大畑遺跡のテフラ

1. はじめに

赤城火山南麓に位置する苗ヶ島大畑遺跡の発掘調査では、陥し穴とみられる多数の土坑が検出された。これらの土坑の覆土には、テフラの堆積が認められた。そこで基本土層と土坑覆土の土層層序を記載するとともに、これらテフラについてテフラ検出分析さらに屈折率測定を合わせて行って、すでに噴出年代が明らかにされている示標テフラとの同定を行い、土坑の構築年代に関する資料を得ることを試みた。

2. 土層層序

(1) 苗ヶ島大畑遺跡の基本土層 (いわゆるローム層)

SK-151の基盤となるローム層は、下位より褐色ローム層(層厚30cm以上)、成層した降下テフラ層(層厚36.8cm, No-1と呼ぶ)、褐色ローム層(層厚18cm)、橙褐色スコリア (No-2,最大径4 mm) 混じり褐色ローム層 (層厚10cm)、灰色細粒火山灰層 (層厚1 cm, No-3)、褐色ローム層 (層厚26cm)、下部に石質岩片 (No-4,最大径5 mm) を多く含む灰色がかった暗褐色ローム層 (層厚33cm)、黄褐色ガラス質ローム層 (層厚7 cm, No-5)、下部に橙色軽石 (No-6,最大径5 mm) を含む褐色ローム層 (層厚22cm)、黄橙色軽石 (No-7,最大径6 mm) に富む褐色ローム層 (層厚25cm)、橙色軽石層 (層厚8 cm, No-8,軽石の最大径8 mm,石質岩片の最大径2 mm)、砂質褐色ローム層 (層厚16cm)、褐色ローム層 (層厚22cm)、黄色細粒軽石層(層厚4 cm, No-9,軽石の最大径3 mm,石質岩片の最大径2 mm)、黄灰色ローム層 (層厚27cm)、黄色軽石層 (層厚5 cm, No-10,軽石の最大径4 mm,石質岩片の最大径2 mm)、黄灰色ローム層 (層厚11cm) の連続からなる (第50図)。

No-1は、下位より灰色細粒火山灰層(層厚1cm)、石質岩片を多く含む黄灰色軽石層(層厚11cm,軽石の最大径13mm,石質岩片の最大径6mm)、成層した桃色細粒火山灰層(層厚2cm)、灰色石質岩片層(層厚3cm,石質岩片の最大径7mm)、紫がかった桃灰色細粒火山灰層(層厚0.8cm)、黄灰色軽石層(層厚5cm,軽石の最大径24mm,石質岩片の最大径17mm)、紫灰色細粒火山灰層(層厚14cm)の連続から構成される。このテフラ層は、層相から約3.1-3.2万年前に赤城火山から噴出した赤城鹿沼テフラ(Ag-KP,新井,1962,鈴木,1976)の上部、水沼ラピリ(守屋,1968)に同定される。

No-2 は群馬県西部および赤城火山南麓一帯で認められるスコリアであるが、現在までのところその起源については明らかにされていない。分布や岩相などから浅間火山起源の可能性が考えられる。No-3 は層位や層相などから約2.8万年前に榛名火山から噴出したと推定される榛名八崎火山灰(Hr-HA、早田、1990)に同定される可能性が大きい。No-4 は層位や岩相などから約2.5万年前に赤城火山から噴出したと推定される赤城小沼ラピリ(Ag-KLP、守屋、1968、早田、1990)に同定される。No-5 のガラス質ロームには、層位などから約2.4-2.5万年前に南九州姶良カルデラから噴出した姶良Tn火山灰(AT、町田・新井、1976、松本ほか、1987、町田・新井、1992)に由来する火山ガラスが多く含まれているものと考えられる。

No-6、No-7 および No-8 は、その層位や岩相から約1.9-2.4万年前に浅間火山から噴出した浅間 板鼻褐色軽石群(As-BP Group, 新井, 1962, 早田, 1991, 未公表資料)に由来するものと考えられる。とくに No-6 については、その層位から約2.4万年前の室田軽石(MP, 早田, 1990, 未公表資料)に由来している可能性が考えられる。

No-9は、その層位や若干丸みを帯び均一に細かくよく発泡した軽石を多く含むことから、約1.8万年前に浅間火山から噴出した浅間白糸軽石(As-Sr, 町田ほか, 1984, 町田・新井, 1992)に同定される。さらに No-10は、層位や層相などから約1.3-1.4万年前に浅間火山から噴出した浅間板鼻黄色軽石(As-YP, 新井, 1962, 町田ほか, 1984)に同定される。

(2) 苗ヶ島大畑遺跡の基本土層(黒ボク土)

苗ヶ島大畑遺跡の表層部に認められる黒ボク土の土層柱状図を第51図に示す。ここではローム層の上位に、下位より黄色がかった暗褐色黒ボク土(層厚18cm)、暗褐色土(層厚16cm, 縄文時代早期の遺物包含層)、黒褐色土(層厚23cm)、暗褐色土(層厚8cm, いわゆる淡色黒ボク土)、黒褐色土(層厚3cm)、黄褐色軽石混じり(軽石の最大径3mm)黒色黒ボク土(層厚5cm以上)の連続が認められる。最上部の軽石は岩相や層位などから4世紀中葉に浅間火山から噴出した浅間C軽石(As-C, 新井, 1979)に由来すると考えられる。後述するように、このテフラの下位の3層準にテフラが認められたことから、As-CをNo-14と呼ぶことにする。

(3) SK-151

土壌観察およびテフラ分析の対象とした縄文時代早期の土坑は、SK-151および SK-170の 2 遺構である。SK-151の複土は、下位より黄灰色土 (層厚 3 cm)、炭化材を含む暗褐色土 (層厚19cm)、黒褐色土 (層厚23cm,以上逆茂木部複土)、褐色土のブロック混じり黒色土 (層厚19cm)、褐色土のブロックに富む暗褐色土 (層厚20cm)、黒褐色土 (層厚32cm)、遊離結晶に富む黄色粗粒火山灰層 (層厚2 cm)、黒灰色土 (層厚10cm)、黒色土 (層厚15cm)、黄色軽石 (最大径 3 mm) に富む黒褐色土 (層厚15cm)、黒色土 (層厚24cm)の連続から構成されている (第52図)。後述するようにテフラ検出分析で火山ガラスの 濃集層準が認められたことからこのテフラを No-11、その上位の遊離結晶に富む黄色粗粒火山灰層をNo-12、さらに黒褐色土中に含まれる黄色軽石を No-13と各々呼ぶことにする。

(4) SK-170

SK-170の覆土は、下位より黒褐色土(層厚12cm)、多数のローム層のブロックから構成されらる褐色土 (層厚18cm)、最大径80mmのローム層ブロックを混じえる黒褐色土 (層厚27cm)、黒褐色土 (層厚26cm)、遊離結晶に富む黄色粗粒火山灰層(層厚2cm)、炭化材を含む暗褐色土(層厚19cm)、黒褐色土(層厚29cm)、黒褐色土(層厚19cm)、黒褐色土(層厚29cm)、黒褐色土(層厚20cm)、黒褐色土(層厚32cm)、遊離結晶に富む黄色粗粒火山灰層(層厚2cm, No-12)、黒褐色土(層厚20cm)の連続から構成されている(第53図)。これらの土層のうち No-12の下位の黒褐色土中からは縄文時代早期の鵜ガ島台式土器が検出されている。なお鵜ガ島台式土器が検出された挟間 貝塚の14 C年代は、7,290±145y.B.P. (N-372) および6,910±145y.B.P. (N-373) である (Koyama, 1978)。

3. テフラ検出分析

(1) 分析試料と分析方法

SK-151覆土について、野外において確認できない示標テフラの有無を確かめるためにテフラ検出分析を行った。分析の対象とした試料は厚さ 5 cmごとに採取された試料のうち基本的に 5 cmおきの合計 18点の試料である。分析は次の手順で行われた。

- 1) 試料15gを秤量。
- 2) 超音波洗浄装置により泥分を除去。
- 3)80°Cで恒温乾燥。
- 4) 実体顕微鏡下で、テフラ粒子の特徴を観察。

(2) 分析結果

チフラ検出分析の結果を第6表に示す。試料番号11と試料番号6には、比較的多くの軽石が認められた。軽石はスポンジ状に細かくよく発泡している。これらの試料には、軽石型ガラスも多く認められる。これらの試料については屈折率測定を行うことにした。また試料番号21には、ごく少量の褐色で平板状のいわゆるバブル型ガラスが認められた。量がごく少ないことから明瞭に言及することはできないが、この火山ガラスはその特徴から約6,300年前に南九州の鬼界カルデラから噴出した鬼界アカホヤ火山灰(K-Ah, 町田・新井, 1978)に由来している可能性が大きく、産出状況から試料番号21付近にK-Ah の降灰層準があると考えられる。

4. 屈折率測定

軽石がとくに多く認められた試料番号11と6の2試料について、位相差法(新井,1972)により屈折率測定を行った。測定結果を第7表に示す。試料番号11の重鉱物としては量の多い原に斜方輝石や単斜輝石さらに磁鉄鉱が含まれている。斜長石の屈折率(n_1)は1.559-1.565、斜方輝石の屈折率(y)は1.706-1.708であった。また試料番号6の重鉱物としては量の多い順に斜方輝石や単斜輝石さらに磁鉄鉱が含まれている。斜長石の屈折率(n_1)は1.558-1.563、斜方輝石の屈折率(y)は1.706-1.708であった。重鉱物の組合せや斜方輝石の屈折率などから、いずれの試料に含まれるテフラ粒子とも、浅間火山起源のテフラと考えられる。

5. 考察-土坑の構築年代と完新世テフラの起源について

SK-151の複土中にK-Ahの降灰層準があると考えられたことから、SK-151の構築年代は約6,300年前をさかのぼると推定される。このことは SK-170の複土中 No-12の下位から縄文時代早期の鵜ガ島台式土器が検出された発掘調査の成果とも矛盾しない。

従来浅間火山起源のテフラの層序学的な研究は、他の火山に比較するとかなり進んでいるものの、 古墳時代以前の完新世のテフラの層序学的な研究についてはまだ不十分な点が多い。このような状況 の中、この時期のテフラとして従来知られているテフラに浅間藤岡軽石(As-Fo, 約8,200年前, 早田, 1991)、浅間六合軽石(As-Kn, 約5,400年前, 早田, 1990)、浅間D軽石(As-D, 約4,500年前, 新井, 1979, 早田, 1990)などがある。とくにこれらのテフラに含まれる斜方輝石の屈折率はいずれも1.706-1.708 で(早田, 1992, 未公表資料)、今回検出された2層準の浅間火山起源のテフラと一致する。ただしAs-Foについては、K-Ahの上位にあることから、今回同定される可能性は低いものと考えられる。また赤城火山南麓に位置する前橋市二之宮千足遺跡のボーリング調査では、約1.0-1.1万年前に浅間火山 から噴出した浅間総社軽石 (As-Sj, 早田, 1990, 1991) の上位で、As-Cの下位の泥炭層中に、最大径 3 mmの白色軽石の濃集層準が検出されている。そしてその直下の¹⁴C年代は5,790±130y.B.P. (GaK-15167) であった(建設省ほか, 1992)。この軽石は、No-12に対比されるものかも知れない。

なお長野県軽井沢や松井田町横川付近にはさらに多くの降下テフラのあることが知られている。今後さらに浅間火山の完新世のテフラについての層序や分布などについて調査研究を進め、苗ヶ島大畑 遺跡で検出された浅間火山起源のテフラの噴出年代などについて調査する必要がある。

6. 小 結

苗ヶ島大畑遺跡において、野外地質調査とテフラ検出分析さらに屈折率測定を行った。その結果、本遺跡の基本土層中には下位より赤城鹿沼テフラ(Ag-KP,約3.1-3.2万年前)、榛名八崎火山灰(Hr-HA,約2.8万年前)、赤城小沼ラピリ(Ag-KLP,約2.5万年前)、姶良 Tn 火山灰(AT)、浅間板鼻褐色軽石群(As-BP Group,約1.9-2.4万年前)の少なくとも3層、浅間白糸軽石(As-Sr,約1.8万年前)、浅間板鼻黄色軽石(As-YP,約1.3-1.4万年前)、浅間C軽石(As-C,4世紀中葉)が認められた。またこれらのテフラとは別に発掘調査により縄文時代早期約ガ島台式土器が検出された土坑覆土中の3層準にテフラが認められた。これらのうち、土壌中に含まれている最下位の火山ガラス質テフラは、その特徴から鬼界アカホヤ火山灰(K-Ah,約6,300年前)に由来すると考えられた。このことから、陥し穴の構築年代は約6,300年前を遡る可能性が大きいと考えられる。またその上位の2層のテフラは、いずれもK-Ah降灰以降の縄文時代に浅間火山から噴出したテフラと考えられた。今後群馬県域における縄文時代の良好な示標テフラとなると考えられることから、さらにこれらのテフラの特徴な噴出年代などを明らかにしておく必要がある。

拉拉文

新井房夫 (1962) 関東盆地北西部地域の第四紀編年。群馬大学紀要自然科学編, 10, p. 1-79.

新井房夫(1972)斜方塚石・角閃石の屈折率によるテフラの同定ーテフロクロノロジーの基礎的研究。

新井房夫 (1979) 関東地方北西部の縄文時代以降の示標テフラ層、考古学ジャーナル, no.157, p.41-52.

建設省·群馬県教育委員会·群馬県埋蔵文化財調査事業団(1992)二之宮千足遺跡(自然科学・分析編),111p.

Koyama, S. (1978). Jomon subsistence and population. Miscellanea. I., Senri. Ethnological Studies 2. National Museum of Ethnology.

町田 洋・新井房夫 (1976) 広域に分布する火山灰一姶良 Tn 火山灰の発見とその意義一、科学, 47, p.247-269.

町田 洋・新井房夫 (1978) 南九州鬼界カルデラから噴出した広域テフラーアカホヤ火山灰. 第四紀研究, 17, p.143-163.

町田 洋・新井房夫 (1992) 火山灰アトラス. 東京大学出版会, 276p.

町田 洋・新井房夫・小田静夫・遠藤邦彦・杉原重夫(1984)テフラと日本考古学一考古学研究と関連するテフラのカタログー。 古文化財編集委員会編「古文化財に関する保存科学と人文・自然科学」, p.865-928.

松本英二・前田保夫・竹村恵二・西田史朗(1987)姶良 Tn 火山灰(AT)の "C 年代, 第四紀研究, 26, p.79-83.

守屋以智雄 (1968) 赤城火山の地形と地質, 前橋営林局, 65p.

鈴木正男 (1976) 過去を探る科学、講談社, 234p.

早田 勉 (1990) 群馬県の自然と風土. 群馬県史通史編, 1, p.35-129.

早田 勉 (1991) 浅間火山の生い立ち、佐久考古通信, no.53, p. 2 - 7。

早田 勉(1992)下茂内遺跡のテフロクロノロジー、日本道路公団東京第二建設局・長野県教育委員会・長野県埋蔵文化財センター編「下茂内遺跡」, p.205-210.

第6表 苗ヶ島大畑遺跡 SK-151覆土のテフラ検出分析結果

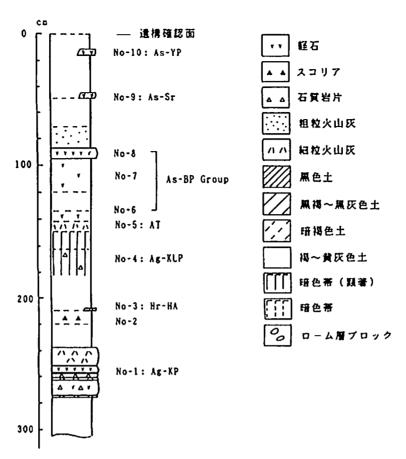
試料	軽		石		火山ガ	ラス
試 料	舐	色 調	最大径	쥚	形態	色 調
1	_	_	_	+	pm>bw	透明,白
3	_	_	_	+	pm>bw	透明,白
5	+	黄	_	++	pm>bw	透明,白
6	++	黄	_	+++	pm	透明,白
7	+	黄	_	++	pm	透明,白
9	+	英	1.2	++	рm	透明,白
11	++	黄	2.6	+++	pm	透明,白
13	_	_	_	+	pm>bw	透明,白
15	_	_	_	+	pm>bw	透明,白
17		_	_	++	pm>bw	透明,白
19	_			++	pm>bw	透明,白
21	_	_	_	++	pm>bw	透明,白,褐
23	_	_	_	++	pm > bw	透明,白
25	_			++	pm>bw	透明,白
27	_	_		++	pm > bw	透明,白
29				+++	pm>bw	透明,白
31	_			+++	pm>bw	透明,白
33	+	白	1.3	+++	pm>bw	透明,白

++++: とくに多い,+++:多い,++:中程度,+少ない, ー:認められない,最大径の単位は,㎜。bw:パブル型,pm:軽石型。

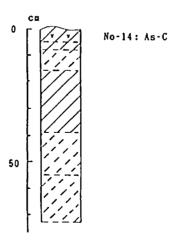
第7表 苗ヶ島大畑遺跡 SK-151における屈折率測定結果

試料	爪鉱物	斜長石(n ₁)	斜方輝石(γ)
6	opx,cpx,mt	1.558-1.563	1.706-1.708
11	opx,cpx,mt	1.559-1.565	1.706-1.708

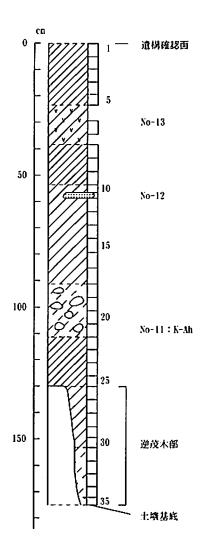
opx:斜方輝石,cpx:単斜輝石,mt:磁鉄鉱 測定は位相差法(新井,1972)による。

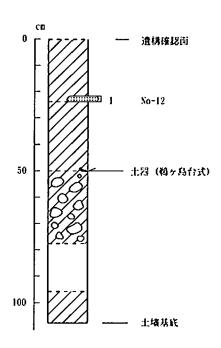


第50図 苗ヶ島大畑遺跡のローム層の標式的な土層柱状図 数字はテフラ分析の試料番号



第51図 苗ヶ島大畑遺跡の黒ボク土の標式的な土層柱状図 数字はテフラ分析の試料番号





第53図 苗ヶ島大畑遺跡 SK-170複土の土層柱状図 数字はテフラ分析の試料番号

第52図 苗ヶ島大畑遺跡 SK-151覆土の土層柱状図 数字はテフラ分析の試料番号

II. 苗ヶ島大畑遺跡の植物珪酸体分析

1. はじめに

植物珪酸体は、植物の細胞内にガラスの主成分である珪酸(SiO₂)が蓄積したものであり、植物が枯れた後も微化石(プラント・オパール)となって土壌中に半永久的に残っている。この微化石は植物により様々な形態的特徴を持っていることから、土壌中から検出してその組成や量を明らかにすることで過去の植生環境を復元することができる(杉山、1987)。

苗ヶ島大畑遺跡では、縄文時代早期の陥し穴と見られる土坑が検出され、その基底には逆茂木の跡と見られる穴が掘り込まれていた。そこで、同遺構や標準土層の試料について植物珪酸体分析を行い、 逆茂木に由来する植物珪酸体の検出や遺跡周辺の古植生・古環境の推定を試みた。

2. 試 料

調査対象は、縄文時代早期とされる土坑 (SK-151、SK-73) の基底に掘り込まれた逆茂木の跡と見られる穴である。試料は、SK-151では穴の上部から底部について試料 $1 \sim 4$ が採取された。SK-73では北側の穴で試料 $1 \sim 3$ 、南側の穴で試料 $4 \sim 6$ が採取された。また、黒ボク土の標準土層断面では、各層準から試料 $1 \sim 6$ が採取された。試料数は計16点である。採取層準の詳細については第1 節を参照されたい。

3. 分析法

植物珪酸体の抽出と定量は、プラント・オパール定量分析法(藤原, 1976)をもとに、次の手順で行った。

- 1) 試料の絶乾(105℃・24時間)
- 2) 試料約1gを秤量、ガラスピーズ添加(直径約40gm、約0.02g) ※電子分析天秤により1万分の1gの精度で秤量
- 3) 電気炉灰化法による脱有機物処理
- 4) 超音波による分散 (300W・42KHz・10分間)
- 5) 沈底法による微粒子 (20μμ以下) 除去、乾燥
- 6) 封入剤(オイキット)中に分散、プレパラート作成
- 7)検鏡・計数

同定は、機動細胞に由来する植物珪酸体をおもな対象とし、400倍の偏光顕微鏡下で行った。計数は、ガラスビーズ個数が400以上になるまで行った。これはほぼプレパラート 1 枚分の精査に相当する。試料 1 g あたりのガラスビーズ個数に、計数された植物珪酸体とガラスピーズ個数の比率をかけて、試料 1 g 中の植物珪酸体個数を求めた。

また、この値に試料の仮比重 (1.0と仮定)と各植物の換算係数(機動細胞珪酸体 1 個あたりの植物体乾重、単位: 10^{-6} g)をかけて、単位面積で層厚 1 cmあたりの植物体生産量を算出した。換算係数は、ヨシ属はヨシ、ウシクサ族はススキの値を用いた。その値は6.31と1.24である。タケ亜科については数種の平均値を用いた。ネザサ節の値は0.48、クマザサ属は0.75である。

4. 分析結果

分析試料から検出された植物珪酸体の分類群は以下のとおりである。これらの分類群について定量

を行い、その結果を第8表、第9表および第54図、第55図に示した。写真図版に主要な分類群の顕微 鏡写真を示す。

〔イネ科〕ヨシ属、ウシクサ族(ススキ属やチガヤ属など)、シバ属、キビ族型、ウシクサ族型、ネザサ節型(おもにメダケ属ネザサ節)、クマザサ属型(おもにクマザサ属)、未分類のタケ亜科、表皮毛起源、棒状珪酸体、茎部起源、未分類等

〔樹木〕はめ絵パズル状(広葉樹)

5. 考察

(1) 縄文時代早期の土坑(逆茂木跡)

SK-151では、逆茂木の跡と見られる穴の内部の試料1~4について分析を行った。その結果、各試料ともクマザサ属型が多量に検出され、底部(試料4)を除いてウシクサ族(ススキ属など)やウシクサ族型なども少量見られた(第54図)。また、試料2では樹木(広葉樹)の葉に由来する植物珪酸体も検出された。

SK-73でも逆茂木の跡と見られる穴の内部の試料について分析を行った。その結果、SK-151とほぼ 同様の結果であった。

これらのことから、当時の遺跡周辺はクマザサ属を主体としススキ属なども少量見られるイネ科植 生であり、樹木(広葉樹)もある程度生育していたものと推定される。

なお、逆茂木の材の一つとして竹類の使用が想定されていたが、幹の径が比較的大きなマダケ属(マダケやハチク、モウソウチクなどが含まれる) やメダケ節、ホウライチク属などの薬および幹(茎部) に由来する植物珪酸体はいずれの試料からも検出されなかった。

(2) 黒ボク土の標準土層断面 (第55図)

ローム層の上位に位置する、黄色がかった暗褐色黒ボク土 (試料 6)、暗褐色土 (試料 5、縄文時代早期の遺物包含層)、黒褐色土 (試料 3 、 4)、暗褐色土 (試料 2 、いわゆる淡色黒ボク土)、黒褐色土 (試料 1 、As-C直下層) について分析を行った。

その結果、ローム層直上の暗褐色黒ボク土(試料6)では、クマザサ属型が5万個/8以上と多量に検出され、その他の分類群はあまり見られなかった。暗褐色土(試料5、縄文時代早期の遺物包含層)ではクマザサ属型が多量に検出され、ウシクサ族(ススキ属など)やウシクサ族型も見られた。黒褐色土(試料3、4)ではクマザサ属型は減少し、ネザサ節型やウシクサ族型が増加傾向を示している。暗褐色土(試料2、淡色黒ボク土)および黒褐色土(試料1、As-C直下層)ではネザサ節型が急激に増加しており、試料1では密度が4万個/g以上にも達している。

おもな分類群の植物体量の推定値(第9表、第55図)によると、黒褐色土(試料3、4)より下層ではクマザサ属型が卓越しているが、暗褐色土(試料2、淡色黒ボク土)より上層ではネザサ節型が卓越しており、クマザサ属型がこれに次いで多くなっていることが分かる。

以上の結果から、黒ボク土層の堆積当時の遺跡周辺の植生と環境について推定すると、次のようである。

ローム層直上の暗褐色黒ボク土の堆積当時はクマザサ属が繁茂する状況であり、何らかの原因でそれ以外のイネ科植物の生育にはあまり適さない環境であったものと推定される。

郷文時代早期の遺物包含層の堆積当時は、クマザサ属を主体としススキ属なども少量見られるイネ 科植生であったと考えられる。ススキ属は森林の林床では生育しにくいことから、当時の遺跡周辺は 森林で覆われたような状況ではなく比較的開かれた部分もあったものと推定される。

その後、黒褐色土層を境に比較的大きな植生変化が認められ、暗褐色土(淡色黒ボク土)より上層では ネザサ節を主体としてクマザサ属やススキ属なども見られる草原植生に移行したものと推定される。

6. まとめ

縄文時代早期とされる土坑の基底に掘り込まれた逆茂木の跡と見られる穴の試料について植物珪酸体分析を行った。その結果、逆茂木の材の一つとして想定されていた竹類に由来する植物珪酸体は検出されなかった。したがって、逆茂木の材として竹類の幹が使われていた可能性は考えにくい。なお、当時の遺跡周辺はクマザサ属を主体としススキ属なども少量見られるイネ科植生であり、樹木(広葉樹)もある程度生育していたものと推定される。

黒ボク土の標準土層について分析を行った結果、縄文時代早期の遺物包含層より下層ではクマザサ 属を主体とするイネ科植生が継続されたものと推定されたが、その上位の黒褐色土層では比較的大き な植生変化が認められ、暗褐色土 (淡色黒ボク土) より上層ではネザサ節を主体としクマザサ属やス スキ属なども見られる草原植生に移行したものと推定された。

このように植生が大きく変化した原因として、1)この時期に寒冷から温暖への気候変化があったこと、2)この時期に森林植生が破壊されネザサ節やススキ属などの草原植生が維持されたことなどが考えられる。

群馬県内およびその周辺では、一般にローム層と黒ボク土との境(およそ1万年前)に大きな植生変化が認められ、この時期を境にクマザサ属主体のイネ科植生からネザサ節・ススキ属を主体とする草原植生に移行していることが知られている(佐瀬ほか、1987、杉山ほか、1992)。今回の結果は、植生変化の時期がこれよりもかなり遅れており、また植生変化の後もクマザサ属が比較的多く見られるなどの点で異なっていることから、植生・環境の地域的な変遷を考える上で注目される。

なお、遺跡周辺に多く生育していたと考えられるクマザサ属やネザサ節、ススキ属などのイネ科植物は、その有用性から燃料や道具、住居の屋根材や建築材、敷物などとして盛んに利用されていたものと考えられる。特に笹類は鹿などの草食動物の食料としても重要であったものと考えられる。

参考文献

佐瀬 隆・細野 衛・守津川徽・加藤定男・駒村正治 (1987) 武蔵野台地成増における関東ローム層の植物珪酸体分析. 第四紀研 第, 26: p.1-11.

杉山真二 (1987) 遺跡調査におけるプラント・オパール分析の現状と問題点、植生史研究, 第2号: p.27-37.

杉山真二 (1987) タケ亜科植物の機動細胞珪酸体. 富士竹類植物園報告, 第31号: p.70-83.

杉山真二・前原 豊・大工原豊 (1992) 植物珪酸体(プラント・オパール)分析による遺跡周辺の古環境推定. 日本文化財科学会 第 9 回大会研究発表要旨集, p.14-15.

藤原宏志 (1976) プラント・オパール分析法の基礎的研究(1) - 数種イネ科栽培植物の珪酸体標本と定量分析法一. 考古学と自然科学, 9:p.15-29.

藤原宏志 (1979) ブラント・オパール分析法の基礎的研究(3)-福岡・板付遺跡(夜臼式)水田および群馬・日高遺跡(弥生時代) 水田におけるイネ (O. sativa L.) 生産総量の推定一. 均古学と自然科学, 12:p.29-41.

近藤錬三・ピアスン友子 (1981) 樹木葉のケイ酸体に関する研究 (第2報) 一双子葉 被子植物樹木葉の植物ケイ酸体について一. 帯広畜産大学研究報, 12:p.217-229.

第8 安 苗ヶ島大畑遺跡の植物珪数体分析結果

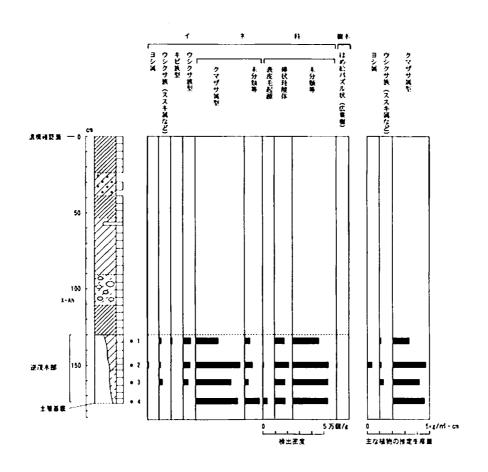
 $(R(2:\times100\%)/g)$

15%			SK-73	<u>چ</u>				SK-151	_			T.	推出	应所	îvi	
77 XI	1	23	8		လ	9	1	23	8	7	-	2	3	4	5	9
イネ科																
コツ宮	۲~							٠.		-,						
ウシクサ版(ススキ版など)	~		15	::	1-	!~	14	13	53		35	(-	99	0,7	56	
デン (元													9			
キビ放型	7	t~					7					t~	9			
ウシクサ族型	40	33	88	88	49	22	62	23	44		42	119	223	140	105	21
タケ温科	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·															
ネザナ節型	2	20			۲-						429	301	126	27		(~
クトナナ院野	261	208	218	291	378	416	185	364	291	345	197	168	187	187	378	519
未分類等		85	120	88	119	122	.18	65	36	122	232	238	96	ę	62	48
かの句の イベダ		•			•		•				•					
状皮毛起源	33	33	œ	36		۲~		(~		36	7		2.4		9	21
格状驻彼体	147	130	16	65	98	36	83	117	87	98	:108	175	241	227	ጟ	97
光部起源	(~		15													
未分類等	121	208	120	305	406	352	506	293	291	580	513	378	433	380	360	408
拉木起影					•		•	: : : : : :			· · · · ·	•	: : :			
はめ絵パズル状 (広葉樹)								t-								
加物里做体総数	636	723	809	852	1,064	866	* 09	930	778	698	1.870	1,392	1,397	1,040	1,042	1,121

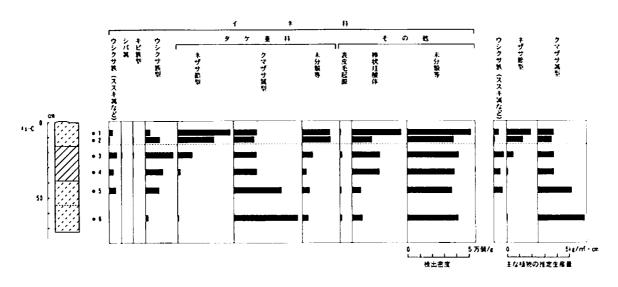
第9 安 主な分類群の植物体量の推定値

分類 群 SK-73 SK-151 概 社	第9 安 主な分類群の植物体量の推定値	質群の植物体	4量の推済	酒												٠	(JN fit; kg/m² • cm)	m' • cm)
75 AI 41: 1 2 シグル版 (ススキ版など) 0.08 単科 0.03 0.09	47	*			SK-	73				SK-1	51			藍	# #	概如土图断面	ifii	
ン域 シクナ族 (ススキ威など) 0.08 地科 サナ節 0.03 0.09		÷	1	63	က	**	S	9	-	61	<u>ب</u>	7	-	2	က	7	c	9
0.42 サ族 (ススキばなど) 0.08 (0.03 0.09 mi 0.03 0.09 + mi 1.06 1.56	(本科																	
サ族 (ススキぬなど) 0.08 0.09 面 0.03 0.09 + 14 1.06 1.56	コツ瓦		0.42							0.41								
節 0.03 0.09 +14 1.06 1.56	シシクサ族 (スス	ペキ悩など)	0.08			0.18	0.00	0.00	0.17	0.16	0.36		0.44	0.09	0.82	0.09 0.82 0.50	0.69	
0.03 0.09	タケ亜科				i											:		
1 96 1 56	ネザナ節		0.03	0.09			0.03						3.06	1.44	1.44 0.61	0.13		0.03
00.1	クトデナ組		1.96	1.56	1.63	2.18	2.84	3.12	1.39	2.73	2.18	2.59	1.48	1.26	1.40	1.40	2.84	3.89

※表1の値に試料の仮比重(1.0と仮定)と各種物の換算係数をかけて算出。



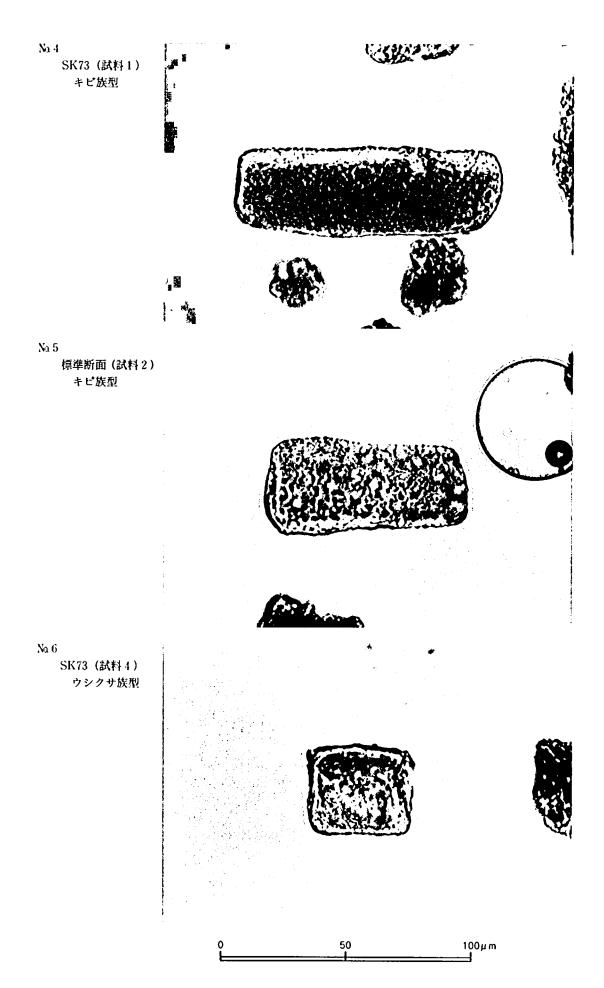
第54図 苗ヶ島大畑遺跡 SK-151地点における植物珪酸体分析結果

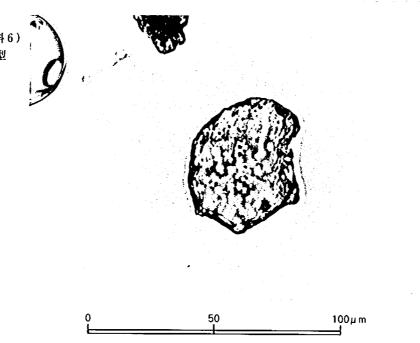


第55図 苗ヶ島大畑遺跡標準土層断面における植物珪酸体分析結果

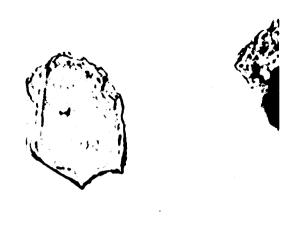
植物	月珪酸体の顕微鏡写真	(倍率はすべ	べて400倍)
Na	分 類 群	地 点	試料名
1	ヨシ属	SK73	1
2	ヨシ属	SK151	2
3	ウシクサ族(ススキ属など)	SK151	3
4	キビ族型	SK73	2
5	キビ族型	標準所面	2
6	ウシクサ族型	SK73	4
7	ネザサ節型	標準所面	1
8	ネザサ節型	標準所面	2
9	クマザサ属型	標準断面	6
10	クマザサ属型	SK73	1
11	クマザサ属型	SK73	4
12	表皮毛起源	SK73	l
13	棒状珪酸体	SK151	4
14	棒状珪酸体	SK73	1
15	棒状珪酸体 (シダ類?)	SK151	3
16	イネ科(ヨシ属?)の茎部起源	SK73	3
17	不明	SK73	2
18	不明	SK73	6

Na 1 SK73 (試料1) ヨシ頃 No 2 SK151 (試料2) ヨシ頃 No. 3 SK151 (試料3) ウシクサ族 (ススキ属など) 100µm **⊒**

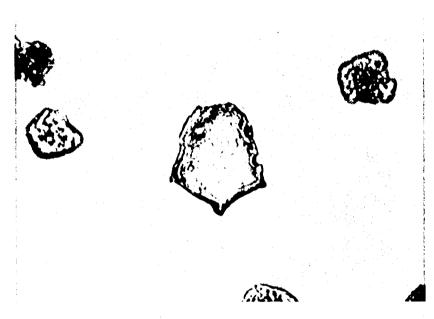




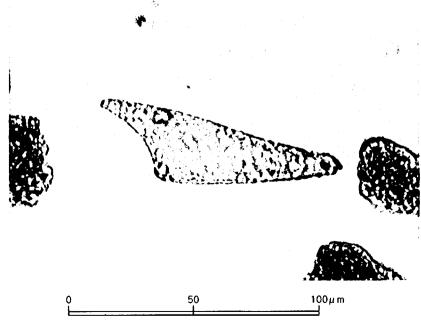
No10 SK73 (試料1) クマザサ属型



№11 SK73 (試料 4) クマザサ属型



No12 SK73 (試料 1) 表皮毛起源



№13 SK151 (試料 4) 棒状珪酸体







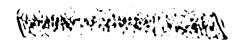
No.14 SK73 (試料 1) 棒状珪酸体





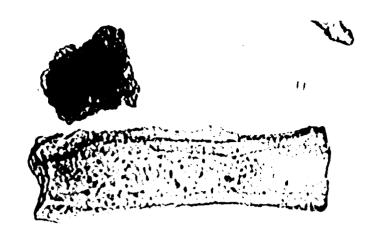
No15 SK151 (試料3) 棒状珪酸体 (シグ類?)





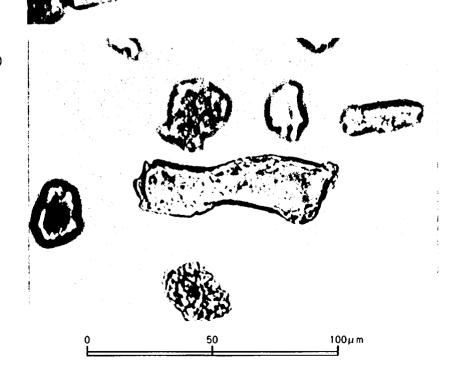
O 50 100μm

Na16 SK73 (試料 3) イネ科 (ヨシ属?) の茎部起源



Na17 SK73 (試料 2) 不明

Na18 SK73 (試料 6) 不明



Ⅲ. 苗ヶ島大畑遺跡 SK-151出土炭化材の樹種

苗ヶ島大畑遺跡の SK-151から出土した炭化材の樹種同定を行った。試料は小片であったが硬い炭であり、肉眼では広葉樹と観察された。

試料は割折して木材の横断面(木口面)・放射断面(柾目面)・接線断面(板目面)を作製し、落射 顕微鏡によって解剖学的特徴を観察し、その特徴および現生標本との対比によって同定を行った。

同定の結果と特性を以下に記す。なお、同定の結果は同定レベルによる分類群で表した。

	知	料		分	類	群	(和名/学名)	
SI	K-151出土	:炭化材	コナラ属ク	ノギ負	ji Quo	rcu	s sect. Aegilops	プナ科

横断面:環孔材で、中型から大型の道管がほぼ1列の孔圏を形成し、孔圏外には厚壁の丸い小道管が単独で配列する。道管の径は早材から晩材にかけて急速に減少する。放射組織は、単列のものと広放射組織および集合放射組織が存在する。

放射断面:道管は単穿孔で、内部にはチローシスがみられる。道管と放射組織の接する壁には大型 の桐状の壁孔がある。放射組織は平伏細胞からなる。

接線断面:放射組織は同性放射組織型で単列のものと広放射組織があり、複合放射組織および集合 放射組織の分布を示す。

以上の形質よりコナラ属クヌギ節に同定される。クヌギ節は山形県以南の本州・四国・九州に分布する落葉高木である。高さ15m、径1m以上に達する。材は強く堅く、家具・建築・器具・樽に利用される。

参考文献

島地 厳・伊東隆夫 (1982) 図説木材組織, 地球社 島地 議ほか (1985) 木材の構造, 文永堂出版 日本第四紀学会編 (1993) 第四紀試料分析法, 東京大学出版会

赤城山南麓の陥し穴について

縄文時代早期後半に見られる特徴的な土坑は、1970年に発掘調査された横浜市霧ヶ丘遺跡の成果から陥し穴との認識が今村啓爾氏によりなされ、その後その機能論的考察が進み、最近では佐藤宏之氏らにより民俗(民族)事例との対比による研究が積極的になされている。

陥し穴の研究は多々あるが、遺構の性格上機能論や分類に収束するものが多く、捕獲対象を言及したものが少ないといった現状が窺える。そのため、ここでは宮城村を中心とした赤城山南麓地域の近年の調査成果から、縄文時代早期の植生復原を試み、捕獲対象動物と陥し穴との関係を考察してみたい。

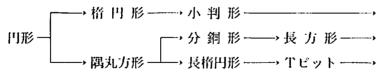
赤城山南麓およびその周辺では、一般にローム層と黒ボク土との境に大きな植生変化が認められ、この時期を境にクマザサ属主体のイネ科植生からネザサ節・ススキ属を主体とする草原植生に移行していることが知られている。しかし本遺跡を始めとした陥し穴の検出される遺跡の場合、相対的に植生変化が遅く、縄文時代早期の段階ではクマザサ属が繁茂する状況が窺え、広葉樹もある程度成育していたものと考えられる。また少量ではあるが、ススキ属なども見られることから、森林に覆われた状態ではなく比較的開地部分もあったものと推察される。

これらの遺跡は縄文時代前期後半代に大きな植生変化が認められ、ネザサ節を主体とした草原植生に移行している。このような植生変化の要因としては、寒冷から温暖への気候変化、森林植生の破壊による草原植生の維持、などが考えられよう。しかし、他地域に比較し変化後もクマザサ属が多く見られ、植生・環境の地域的な変遷を考える上でも注目される。

陥し穴はその平面形態および坑底の下部構造等によって、幾らでも分類が可能である。しかし、これらの細分が本論で触れる対象動物との関係には大きく関与しないと考えるため、ここでは大略小判形を呈するものと、平面溝形を呈するいわゆるTピットの2つに大別しておきたい。

陥し穴は出現期から多種多様な形態を呈していたとは考え難く、対象動物の習性を熟知してゆく上でその形態や配置を変化させていったと考えられよう。

これまでの調査から、宮城村内における陥し穴の平面形態の変遷は、



のようになると考えている。

円形を古く置く根拠としては、遺跡内における絶対数が少なく、単に穴を掘るという行動をとる場合に働く既定概念や多摩ニュータウン遺跡における407土坑の位置付け、遺跡における他形との切り合いの新旧関係に基づいている。平面円形を呈するものは、深度があり、逆茂木を持つものが一般的であり、すべての獲物を対象に構築されたものと考えられることも古く位置付ける一因である。

これら陥し穴の構築時期であるが、巨視的に見ると南九州等では後期旧石器時代の報告例もあるが、 関東地方では多摩ニュータウン遺跡等の事例から沈線文系土器の段階から出現するものと考えられ、 宮城村内においても田戸下層段階の所産と考えられるものも数例認められている。しかし、縄文時代 早期の特徴的な覆土で埋没している陥し穴に含まれる土器片の大半は条痕文系の土器であり、本遺跡 においても、小判形を呈する第151号土坑覆土中にアカホヤ火山灰の純層が認められ、その下位から鵜 ガ島台式土器片が出土している。住居跡や土坑等、他の遺構との切り合いが無い事から、宮城村においては早期条痕文系の時期、特に鵜ガ島台式期に陥し穴が盛行すると考えられよう。

また、多摩ニュータウン遺跡群や出土例の多い東北・北海道においてはその初現を縄文時代中期以降と捉えているTピットに関しても、村内においては覆土や包含遺物に大差なく、同時期の所産と考えられ、その派生を考察する上で重要であろう。

村内において陥し穴は、概ね赤城山の傾斜変換点である標高550m以下の台地上および沢沿いの傾斜地を中心に広く分布し、特に400m前後にそのピークが見られる。

村内で陥し穴が卓越する遺跡の立地を概略すると、沢沿いの狭い台地に占地する柏倉落合遺跡は小判形の陥し穴を主体とし、沢までやや距離のある比較的広い台地に占地する本遺跡は両者並行、沢の遠い平坦な台地に占地する市之関吉ヶ沢遺跡はTピットのみという結果が得られる。他の遺跡においても、台地の広さ・平坦面と傾斜地・水系までの距離などの要因によって同様の傾向が窺える。

由裾に位置する遺跡では、比較的輻狭の台地に立地する前橋市頭無遺跡や粕川村長岡遺跡などで小判形の陥し穴が多く確認されているが、Tピットは水系には近いもののやや幅広の台地に占地する赤堀町下触牛伏遺跡で配列をなす以外、殆ど確認されていない。

Tピットが等高線に沿って直行して並ぶのに対し、陥し穴は斜面を斜行、特にS字状に蛇行および 斜して配列されるものが多く、その配列には大きな差異が認められる。これは、狩猟対象の生態によ るものと考えられよう。

シカは、中国・日本など極東地域を原産とし、成体で肩高1.2m以下、体重80~120kgを計る。平地から標高2,500mぐらいまでの森林(特に落葉樹林・混合樹林帯)に住み、寒さには極めて強いが深雪には弱い。

小群を組み行動し縄張り意識が強く、昼間は深い茂みに潜み、夜に主食である短茎の草を採食のため草地等に出て来るが、移動の際は谷の稜線や林の切れ目など、比較的等高線に沿って動く。

一方イノシシは、極東地域を原産地とし、成体で体長1.1~1.5m、体重は300kgにもなる。寒さにも強く広く分布するが、肢が短いため積雪時の歩行は困難である。夜行性で、とりわけ雑食であり、ヌタ場での泥遊びを非常に好む。行動範囲は広く、一晩で数十km移動することもあり、シシ道は谷から谷へ台地状を直線的に通り抜ける場合が多い。

共に夜行性で広く分布するといった共通点を持つが、その食料や行動パターンにはこのような相違 が顕著に見られる。

また、Tピット列にはこれといった付帯施設が見受けられないのに対し、小判形の陥し穴は逆茂木を持つものが一般的で、本遺跡の第36号土坑〜第42号土坑間の様にシシ垣と推察されるピット列などを付帯する場合もある。この相違点こそが対象動物の習性や走行性を熟知した結果の産物と考察されよう。

また、覆土最下部の黒色土をして陥し穴の上部構造の有無を唱える説もあるが、ローム層上での確認であっても、一雨降ると坑底内に10cm以上黒色土が堆積することや、イヌイットの狩猟例、土壌分析におけるプラント・オパールの結果から考察して、上部構造はないものと考える。

これらを帰納法的に考察してみると、Tピット=シカ・陥し穴=イノシシをそれぞれ捕獲対象に構築されたものであろうと推察される。

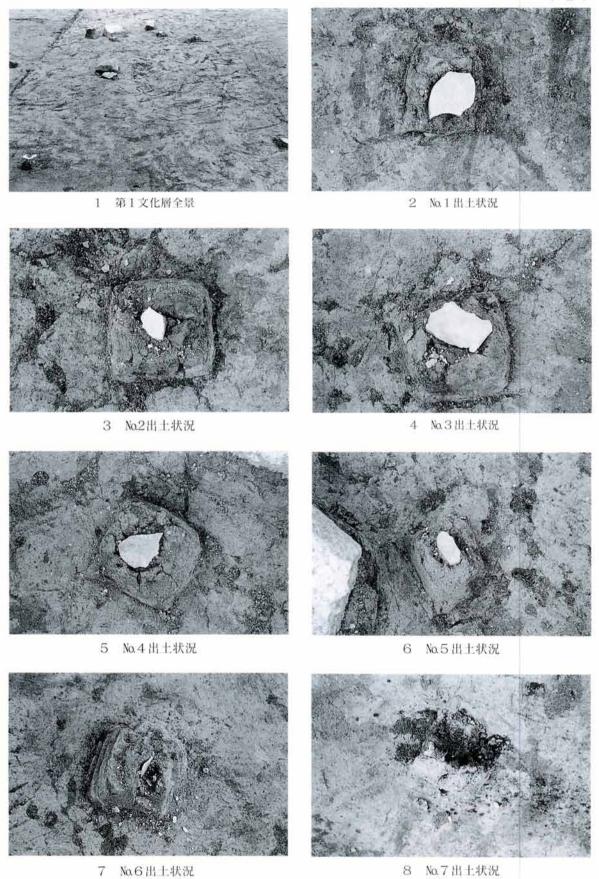
逆茂木について考えるならば、シカの場合足への怪我は致命傷になりうるが、イノシシは急所が深く、また 1 m程度であれば跳ね出てしまう程跳躍力があることなどからその必要性を認識できよう。 また、平・断面を詳細に観察すると、Tピットには上部に、陥穴には下部隅に二次的な要因による ものと思われる土層の歪みが検出されることがままあり、これらも上記の説に符合する。

本遺跡を始めとした赤城山南麓の遺跡においては、その植生や立地などから前述のような見解が得られるが、本地域のみならず他地域の更なる追跡・補足調査により、地域間の対比から、その機能、形式、構築時期等より詳細な内容が解明していくものと考えられよう。

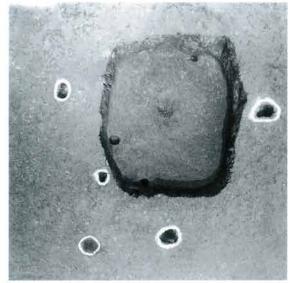
参考文献

加藤晋平他編 1983 『縄文文化の研究 第2巻 生業』 雄山関 器ヶ丘遺跡調査団 1973 『器ヶ丘』 佐藤宏之 1989 『陥し穴猟と縄文時代の狩猟社会』『考古学と民族誌―渡辺仁教授古希記念論文集』 六興出版 日本メール・オーダー社 1972 『アニマルライフ 動物の大世界百科』

写 真 図 版



PL2



1 第1号住居址完掘状况



2 第1号住居址炉跡完掘状况



3 第1号土坑完掘状况



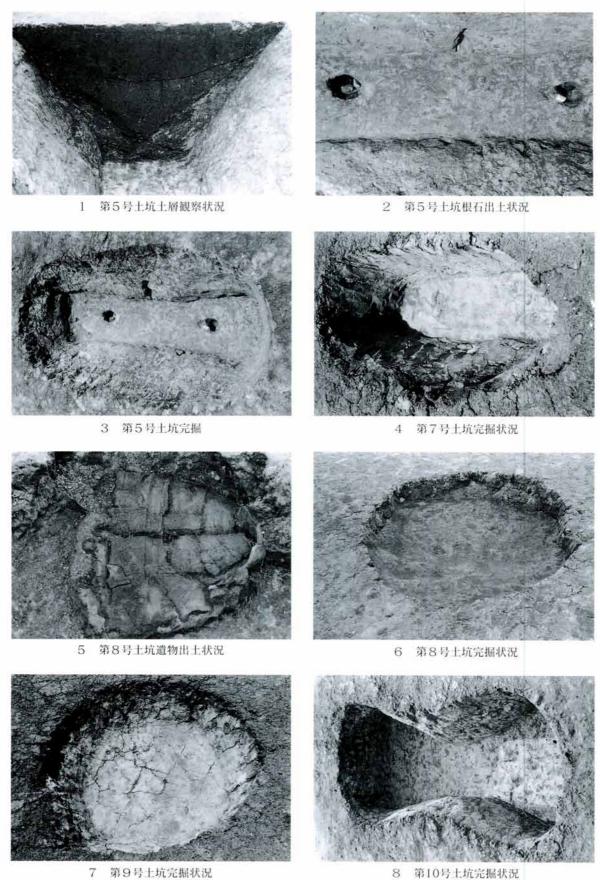
4 第2号土坑完掘状况

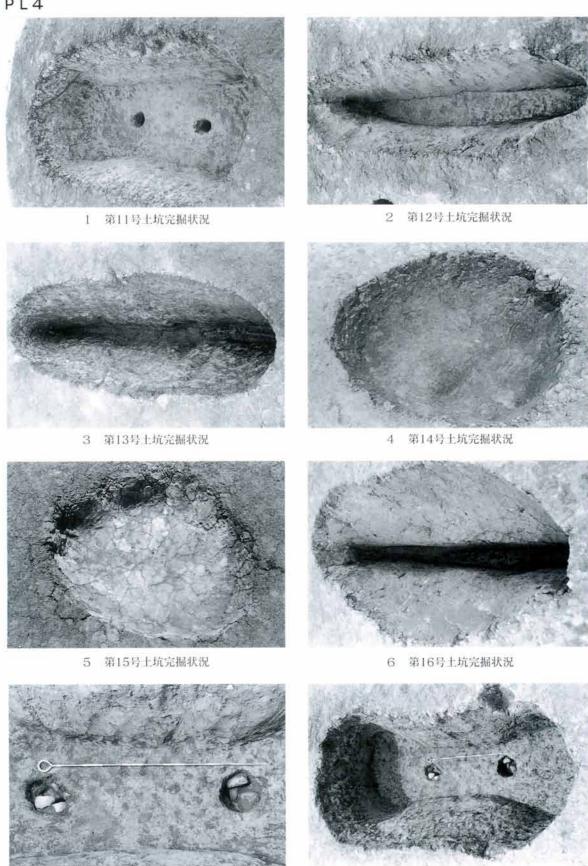


5 第3号土坑完掘状况



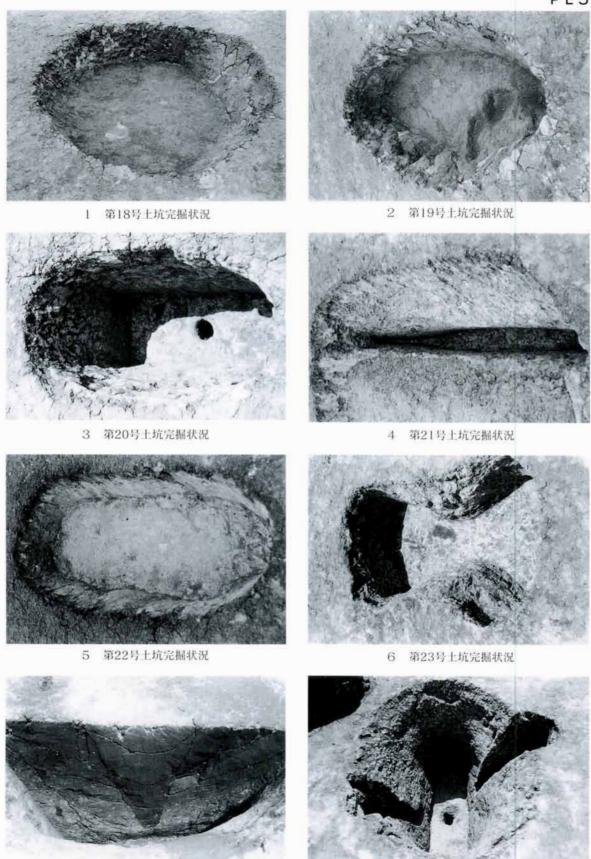
6 第4号土坑完掘状况





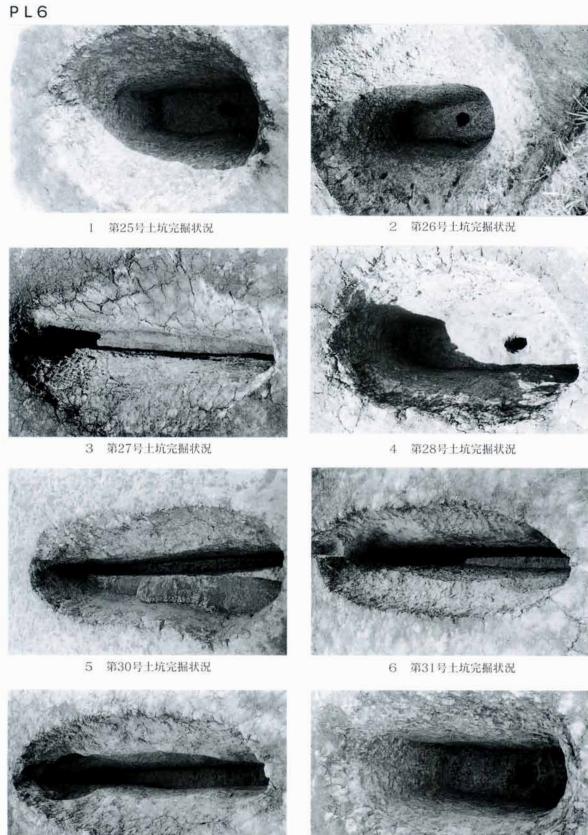
7 第17号土坑根石出土状況

8 第17号土坑完掘状况



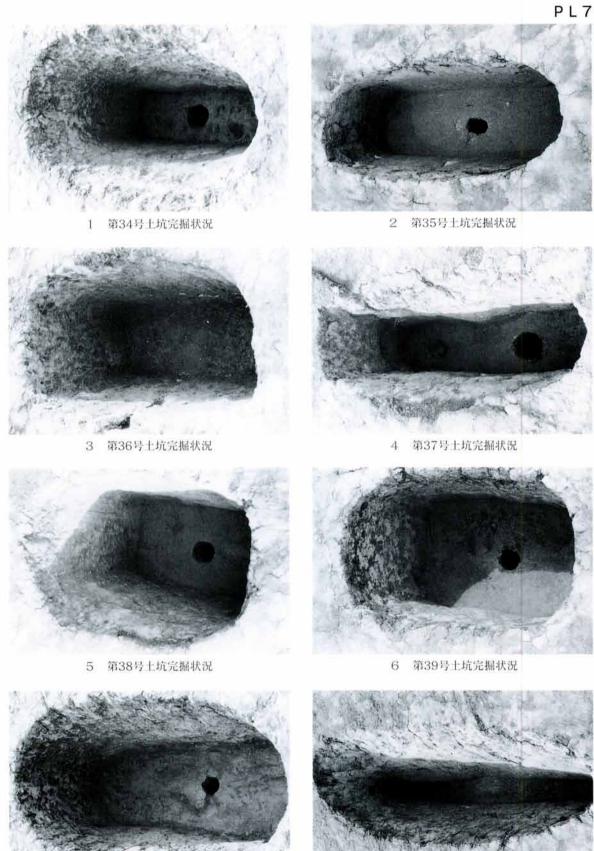
7 第24·55号土坑土層観察状況

8 第24·55号土坑完掘状况



7 第32号土坑完掘状况

8 第33号土坑完掘状况



7 第40号土坑完掘状况

8 第41号上坑完掘状况

PL8





2 第43号土坑完掘状况



3 第44号土坑完掘状况



4 第45号土坑完掘状况



5 第46号土坑完掘状况



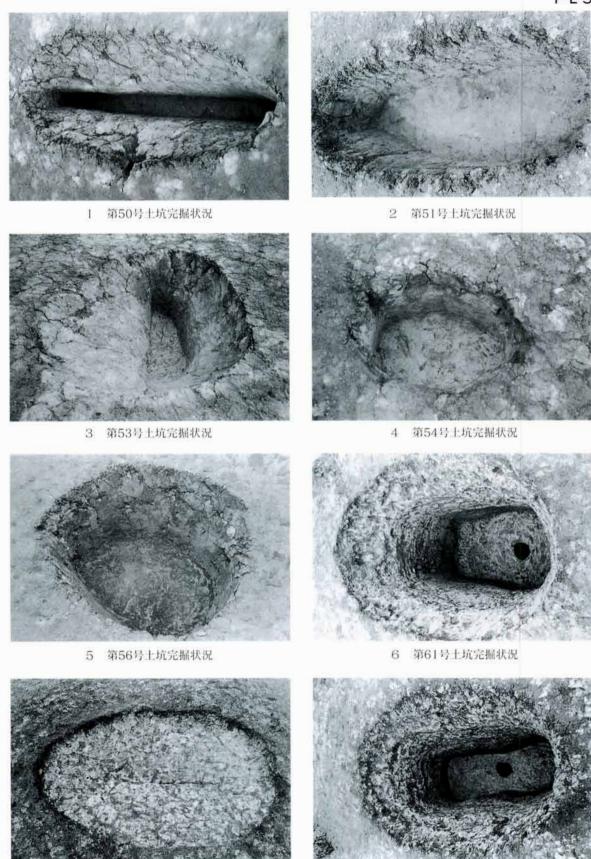
6 第47号土坑完掘状况



7 第48号土坑完掘状况

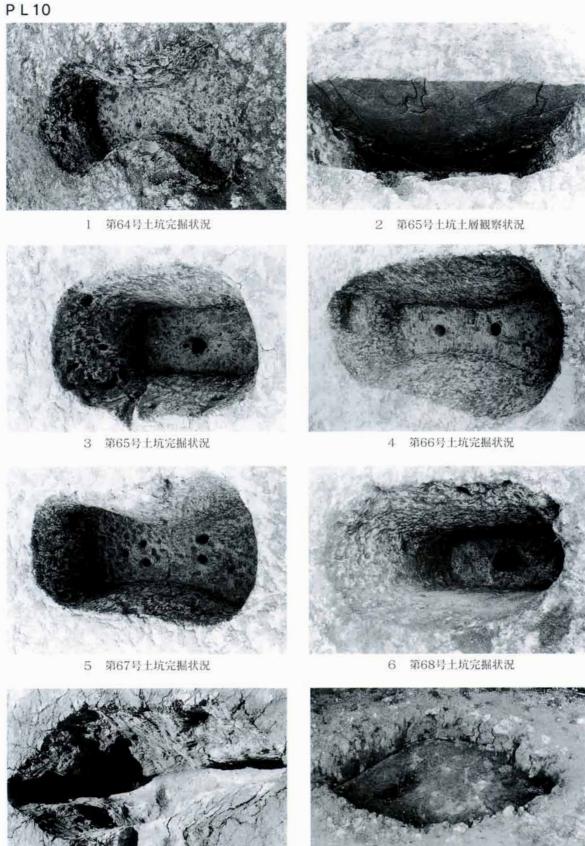


8 第49号土坑完掘状况



8 第63号土坑完掘状况

7 第62号土坑完掘状况

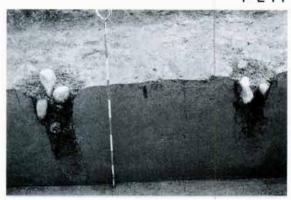


7 第70 · 72号土坑完掘状況

8 第71号土坑完掘状况



1 第73号土坑根石検出状況



2 第73号土坑根石出土状況



3 第74号土坑完掘状况



4 第75号土坑完掘状况



5 第76号土坑完掘状况



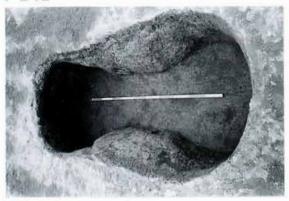
6 第77号土坑完掘状况



7 第78号土坑完掘状况



8 第82号土坑完掘状况



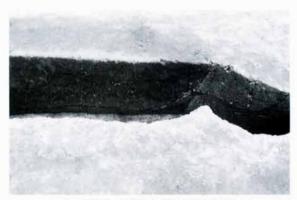
1 第84号土坑完掘状况



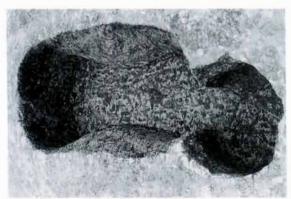
2 第91号土坑土層観察状況



3 第91号土坑完掘状况



4 第92 · 93号土坑土層観察状況



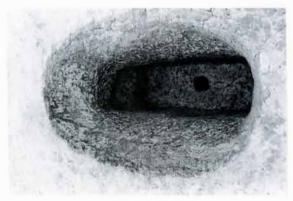
5 第92 · 93号土坑完掘状况



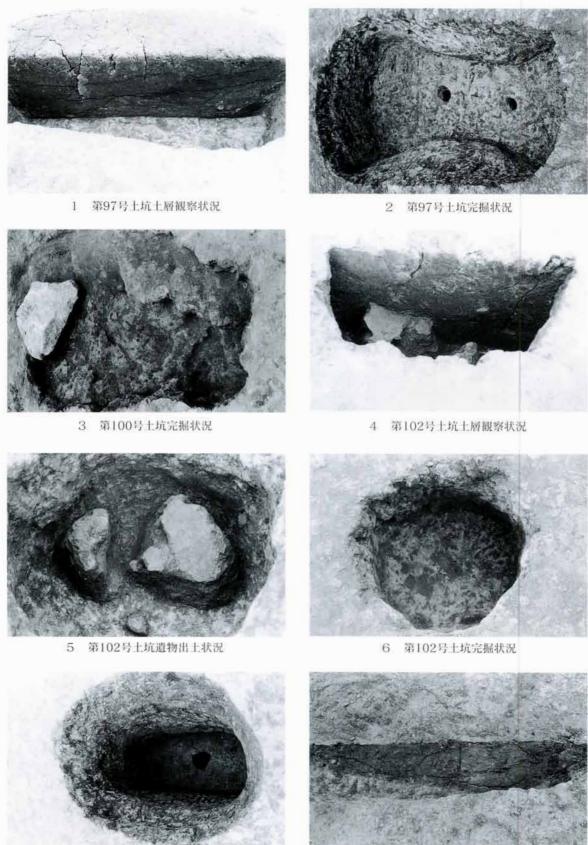
6 第94号土坑完掘状况



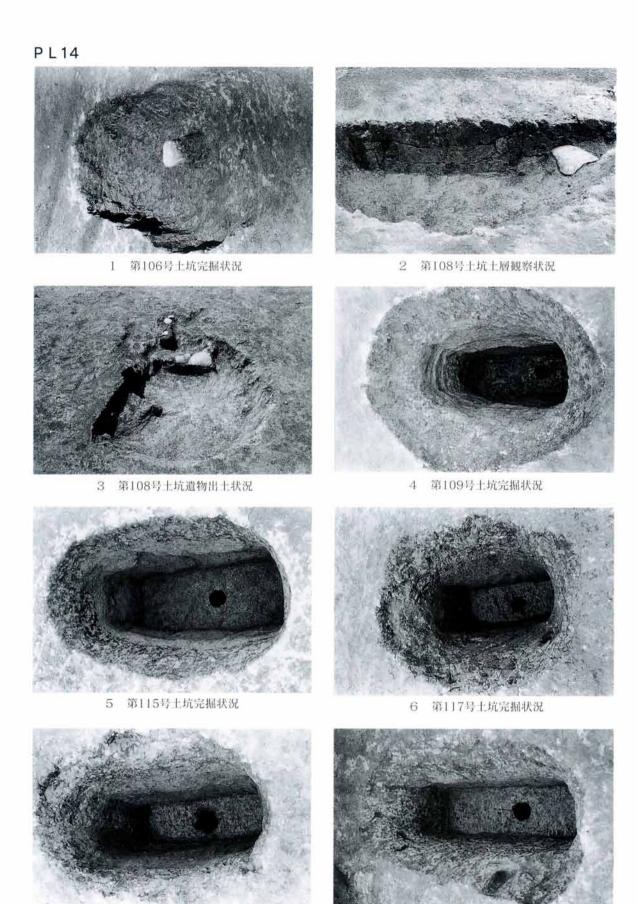
7 第95号土坑完掘状况



8 第96号土坑完掘状况

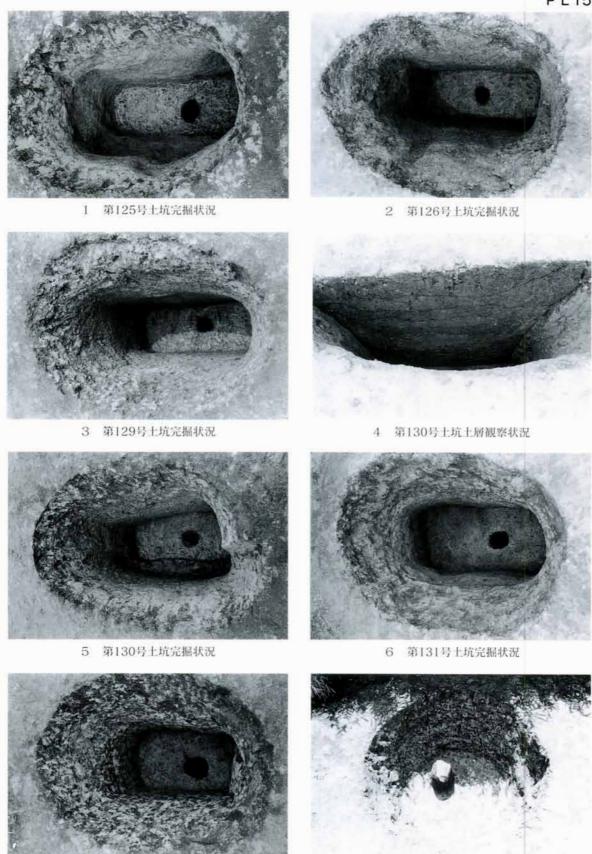


7 第104号土坑完掘状况 8 第106号土坑土層観察状况



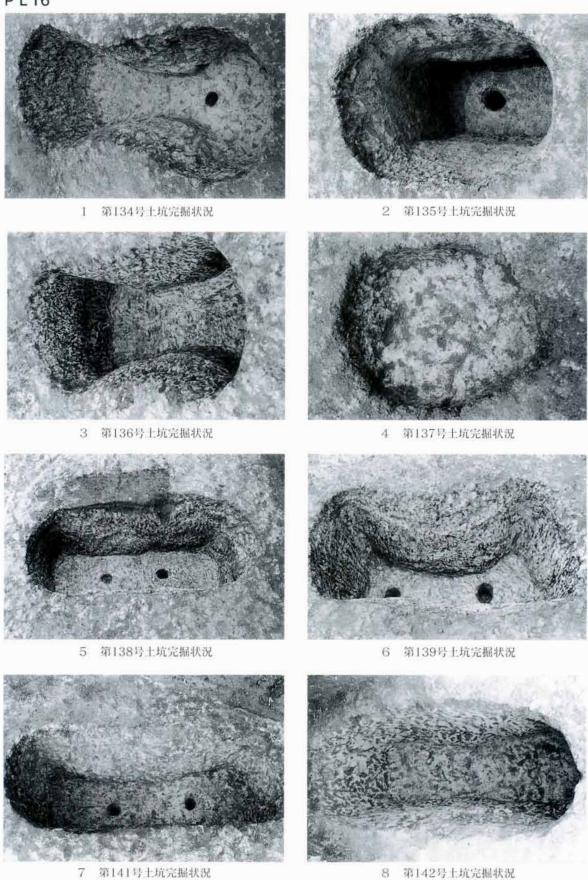
7 第118号土坑完掘状况

8 第120号土坑完掘状况

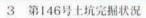


8 第133号土坑完掘状况

7 第132号土坑完掘状况









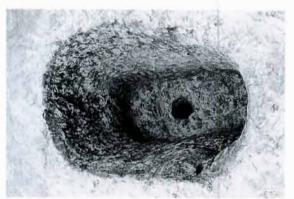
5 第152号土坑完掘状况



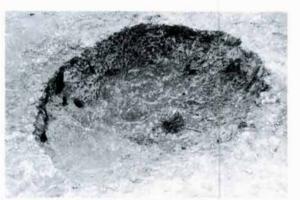
7 第154号土坑完掘状况



2 第146号土坑土層観察状況



4 第148号土坑完掘状况



6 第153号土坑完掘状况



8 第155号土坑土層観察状況



1 第155号土坑完掘状况



2 第160号土坑完掘状况



3 第161号土坑完掘状况



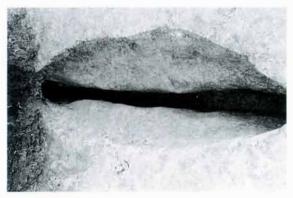
4 第162号土坑完掘状况



5 第163号土坑完掘状况



6 第164号土坑完掘状况



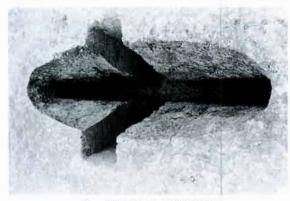
7 第165号土坑完掘状况



8 第166号土坑完掘状况



1 第167号土坑土層観察状況



2 第167号土坑完掘状況



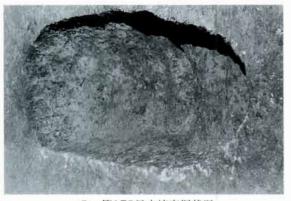
3 第169号土坑完掘状况



4 第171号土坑土層観察状況



5 第171号土坑完掘状况



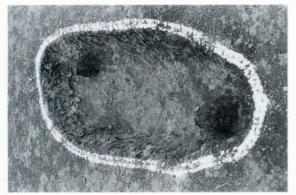
6 第172号土坑完掘状况



7 第176号土坑遺物出土状況



8 第177号土坑土層観察状況



1 第177号上坑遺物出土状况



2 第180号土坑完掘状况



3 第182号土坑完掘状况



4 第186号土坑土層觀察状況



5 第186号土坑遺物出土状況



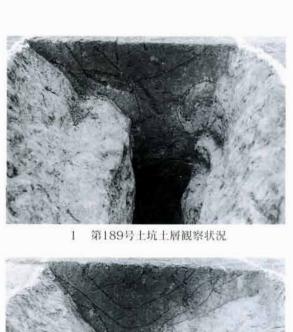
6 第188号土坑土層観察状況



7 第188号土坑遺物出土状况



8 第188号土坑完掘状况





3 第190号土坑土層観察状況



5 第193号土坑完掘状况



7 第2号不明遺構完掘状況



2 第189号土坑完掘状况



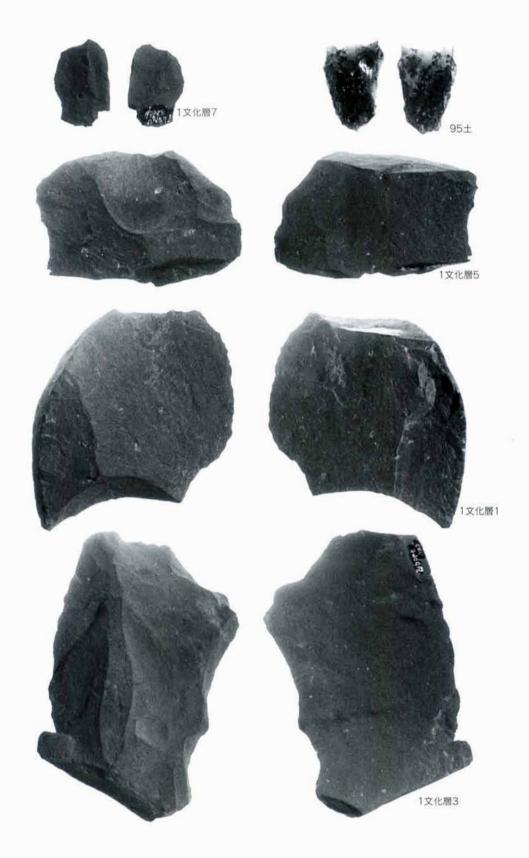
4 第190号土坑完掘状况



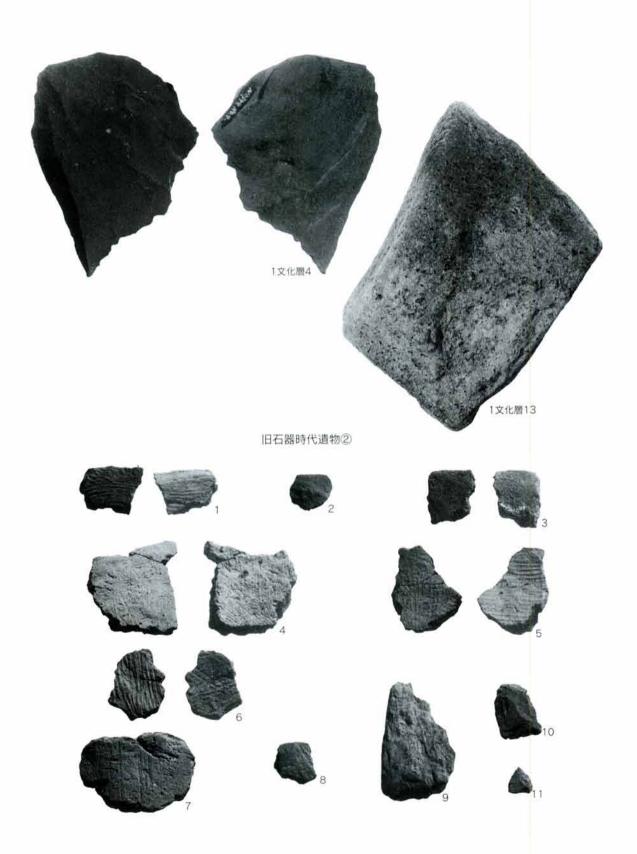
6 第197号土坑完掘状况



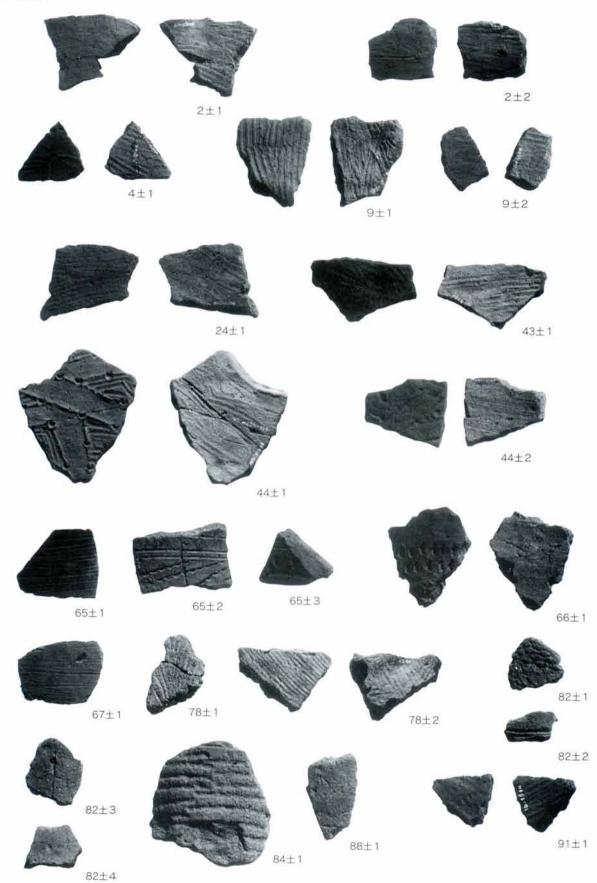
8 第3号不明遺構土層観察状況



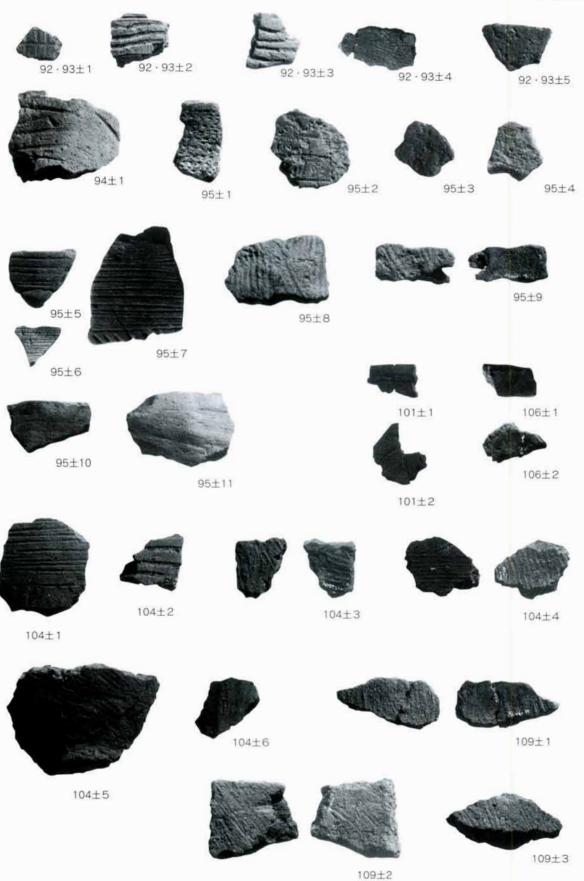
旧石器時代遺物①



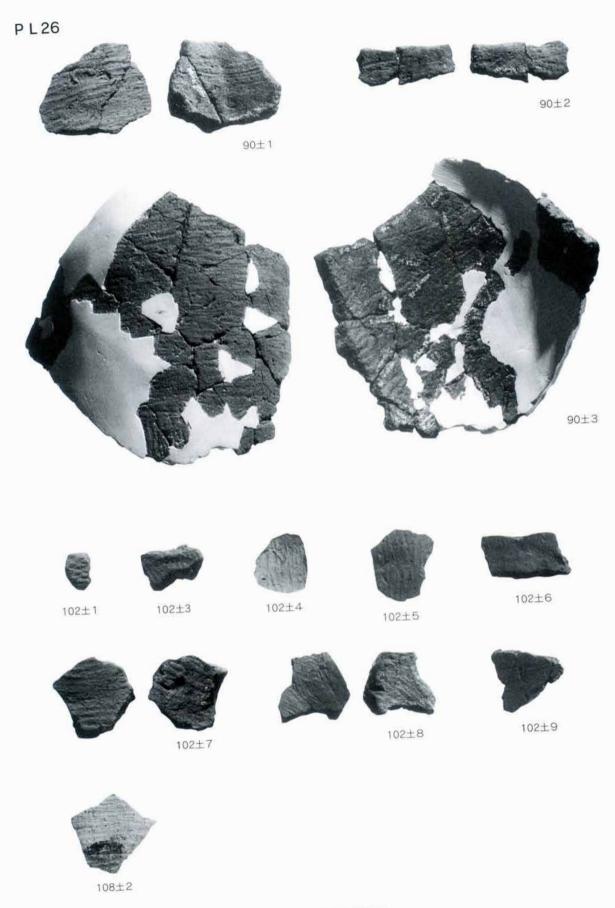
第1号住居址出土遺物



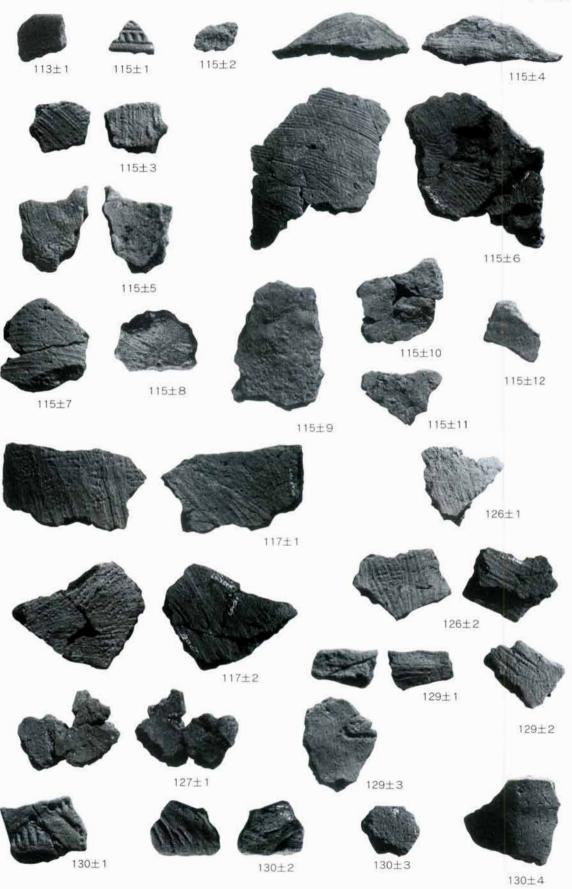
土坑出土遺物①



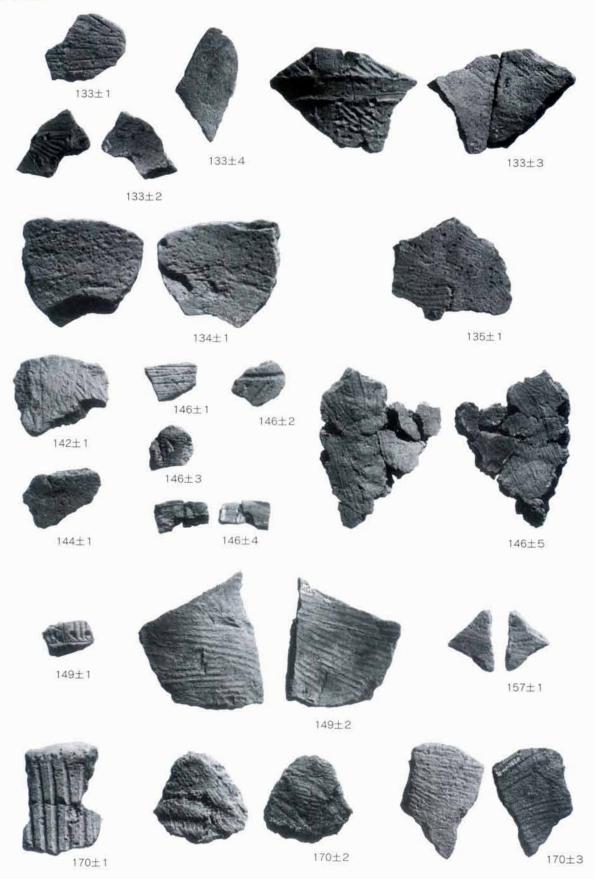
土坑出土遺物②



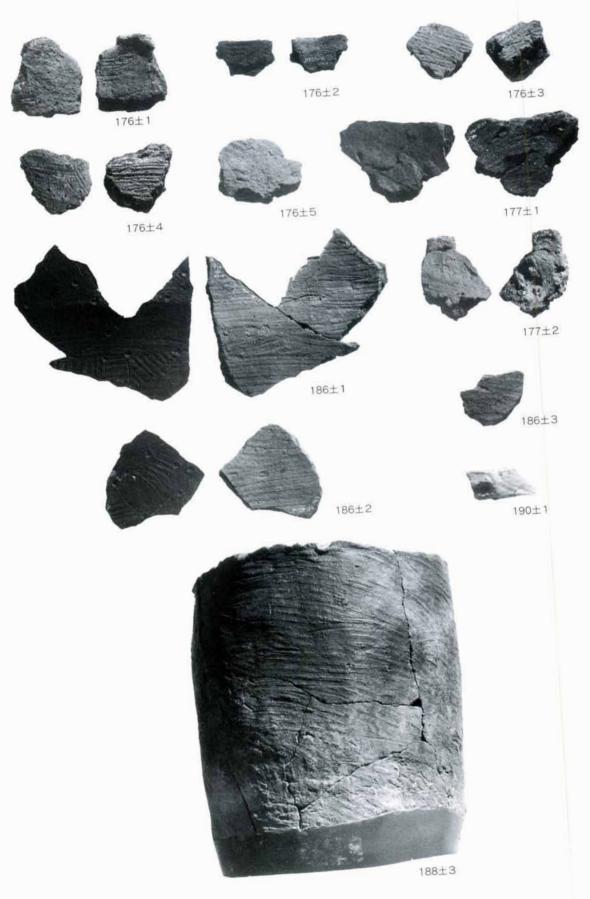
土坑出土遺物③



土坑出土遺物④

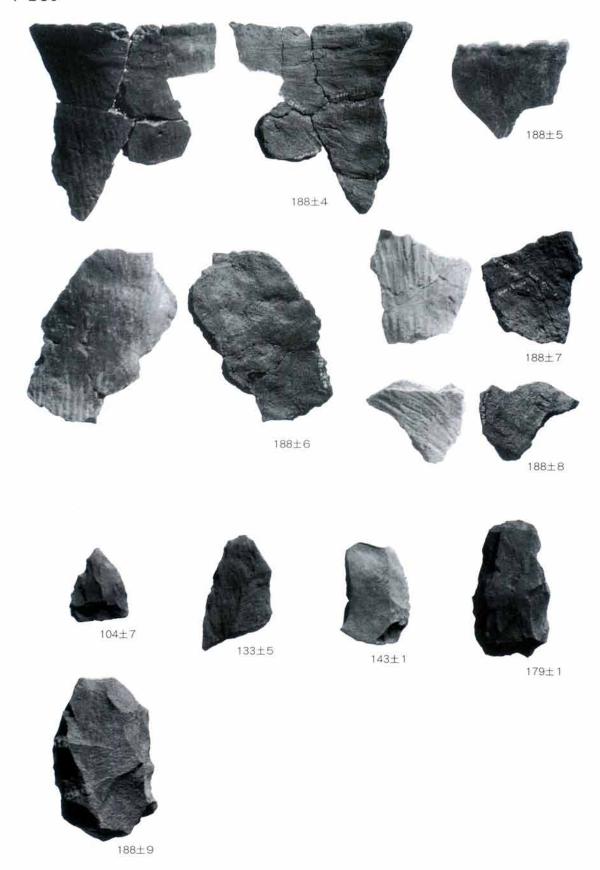


土坑出土遺物⑤



土坑出土遺物⑥

P L 30



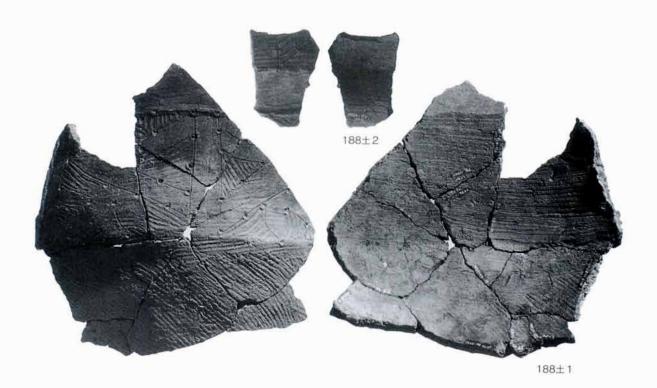
土坑出土遺物⑦



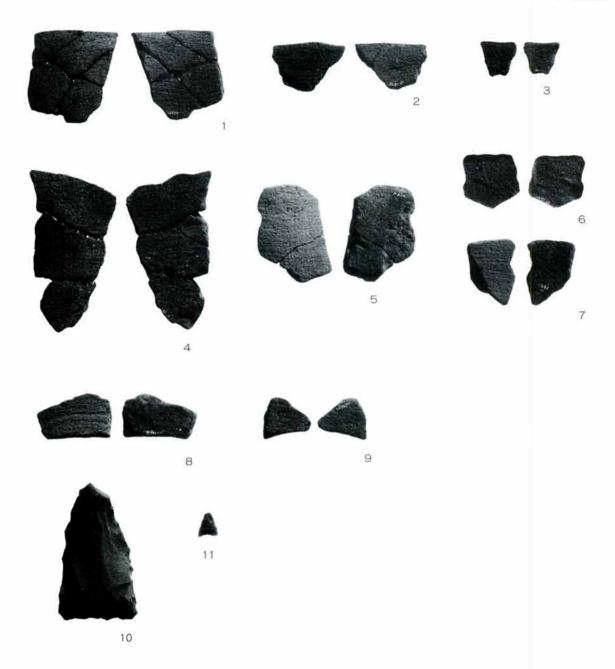


土坑出土遺物(8)

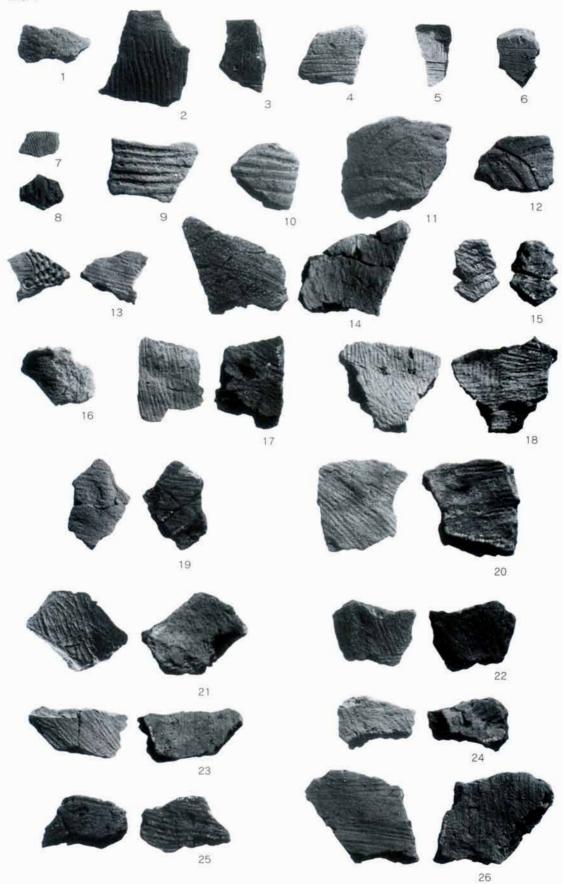




土坑出土遺物⑨



第2号不明遺構出土遺物



遺構外出土遺物①



遺構外出土遺物②

苗ヶ島大畑遺跡

1994年 3 月25日印刷 1994年 3 月31日発行

> 編集発行 宮 城 村 教 育 委 員 会 群馬県勢多郡宮城村鼻毛石1711-8 〒371-02 電話 0272-83-6886